

一 ローザンヌ会議

「一九三二年六月—七月『ローザンヌ』会議報告」

一九三二年六月—七月「ローザンヌ」会議報告

外務大臣伯爵 内田康哉閣下

昭和七年八月 日

「ローザンヌ」會議帝國政府代表

特命全權大使 吉田茂

大使館參事官 栗山茂

海外駐劄財務官 津島壽一

「ローザンヌ」會議ノ経過並結果ニ關シ別記ノ通り及報告候也

## 目 次

一九三一年六月一七月「ローザンヌ」會議報告

概 説  
第一章 會議開催ノ由來並會議ノ任務

第二章 會議ノ構成並経過

第一節 會議ノ構成

第二節 開会及一般討議

第三節 五国声明

第四節 独逸賠償問題ノ解決

第一項 諸国代表部間ノ内交渉

第二項 幹部会ニ於ケル協議

第三項 招請国首席代表ノ会合

第四項 解決案ノ成立

第五項 政治的宣言ノ成立

第六項 独逸国トノ協定批准ニ関スル紳士的申合ノ成立

第七項 独逸国ニ関スル経過措置

第五節 一般財政経済問題

第一項 中部及東部「ヨーロッパ」ニ関スル決議

第二項 世界経済財政會議ニ関スル決議

第七節 関係文書ノ成立ト最終総会

第三章 関係諸文書ノ説明

第一節 最終議定書並會議採択文書

最終議定書

第一 独逸国トノ協定

第二 独逸国ニ関スル経過措置

第三 独逸国以外ノ賠償ニ関スル決議

第四 中部及東部「ヨーロッパ」ニ関スル決議

第五 世界経済財政會議ニ関スル決議

第二節 独逸国トノ協定批准ニ関スル紳士的申合並其ノ関係文書

第三節 戰債ニ關スル文書

附 屬 書 目 次

(編注)

第一号 最終議定書（在仏長岡大使発貴大臣宛七月十日附公信機密第四五号ヲ以テ送付済ニ付省略）

第二号 独逸国トノ協定（同 右）

第三号 独逸国ニ關スル経過措置（同 右）

第四号 独逸国以外ノ賠償ニ關スル決議（同 右）

第五号 中部及東部「ヨーロッパ」ニ關スル決議（同 右）

第六号 世界経済財政會議ニ關スル決議（同 右）

第七号 會議議題ニ關スル二月十三日附六国声明

（寿府澤田局長発貴大臣宛電報第七二号及第七六号ヲ以テ報告済ニ付省略）

第八号 六月十六日附五国声明（寿山三代表発貴大臣宛七月十日附公第九号ヲ以テ送付済ニ付省略）

第九号 白耳義麻清算支払ニ關スル議長宛書翰

（寿山三代表発貴大臣宛六月二十一日附賠償公第二号ヲ以テ送付セル第二回總會議事録中ニ採録シアルニ付省略）

第二号 五国声明原案（別添）

第三号 五国声明第二案（別添）

第三号 政治的宣言原案（別添）

第四号 六月二十三日英仏代表間ニ一致セル四点（別添）

第五号 独逸国政府ノ債券ニ關スル計画英國専門家試案（別添）

第一六号 独逸国政府ノ債券ニ関スル計画招請債権国一致案（別添）

第一七号 独逸国トノ協定批准ニ関スル紳士的申合（別添）

第一八号 独逸宰相宛紳士的申合受領通知書翰（別添）

第一九号 独逸宰相ノ紳士的申合受領通知書翰（別添）

第二〇号 第四回總會議事錄抜萃（別添）

第二一号 戰債ニ関シ英國藏相ヨリ仏伊両國藏相宛送付セル書翰（別添）

第二二号 戰債ニ関スル英仏伊三国代表声明（別添）

第二三号 七月八日招請国大藏省専門家ノ署名セル独逸国政府ノ債券ニ関スル議事錄（別添）

第二四号 商務大臣委員会報告

（勞山三代表発貴大臣宛六月二十七日附公信賠償公第六号ヲ以テ送付済ニ付省略）

第二五号 独逸国以外ノ賠償ニ関スル委員会七月六日会合議事錄

（英文議事錄ハ勞山三代表発貴大臣宛七月十日附公第九号ヲ以テ送付済ニ付省略仏文議事錄ノミ別添送付ス）

第二六号 各国代表部員氏名表

（勞山三代表発貴大臣宛六月二十七日附公信賠償公第六号ヲ以テ送付済ニ付省略）

## 概 説

一、千九百三十一年十一月十九日独逸政府ハ「ヤング」案ニヨル特別諮問委員会ノ招集ヲ要求シタル結果同年十二月七日同委員会ノ「バーゼル」会合トナリ同二十三日其ノ報告ノ提出ヲ見ルヤ英國政府ノ提唱ニ基キ關係国間協議ノ上同報告ニ基ク賠償問題ニ関スル國際會議ヲ千九百三十二年一月十八日「ローザンヌ」ニ開催スルコトトナリタルガ仏国政変ノ為当分之ヲ延期スルノ已ムナキニ至リ次デ英仏独等非公式ニ意見交換シタル結果独仏ノ政情並ニ關係国主張ノ懸隔甚シキニ鑑ミ直ニ会合スルモ満足ナル協定ニ到達スルコト困難ト認メラレタルヲ以テ二月十三日「ジュネーヴ」ニ於テ會議招請国タル日、英、仏、独、白、伊六国ノ名ヲ以テ右國際會議ヲ六月ニ延期スルコトトシ會議ノ議題ハ賠償問題ノ永続的解決ノ外他ノ経済財政上ノ困難ノ解決ヲ審議スルニ在リトスル趣旨ノ声明書ヲ發表スルニ至レリ（第一章参照）

二、其後仏國總選挙及独逸大統領選挙等ノ時期ヲ考慮ニ入レ「ローザンヌ」會議ハ六月十六日ヲ開会日ト豫定シタルガ六月初メ独仏両国ニ於ケル政変ニ拘ラズ右豫定ノ如ク會議ハ六月十六日開会スルヲ得タリ會議ニ代表者ヲ送レルハ右招請國六国ノ外濠洲、加奈陀、希臘、印度、新西蘭、波蘭、葡萄牙、羅馬尼、「チエツコスロヴァキア」、南阿聯邦、「ユーロースラヴィア」、勃牙利、洪牙利ノ諸国ニシテ會議ハ英國首席代表「マクドナルド」氏ヲ議長ニ又「サー・モーリス・ハンケー」氏ヲ事務総長ニ選任シ六月十六日ノ開会ヨリ七月九日ノ閉会ニ至ル迄總会ヲ開クコト前後五回ニ至リ其ノ間會議ノ議事進行ニ付協議スル為招請国代表打合会五回獨逸賠償解決案ヲ審議スル為所謂幹部<sup>ゼンブ</sup>會ノ会合十四回（但右ノ中九回ハ獨逸代表ヲ除キ招請国タル五債權国代表者ノミノ会合ナリ）財政經濟不況対策ヲ審議スベキ世界經濟財政會議準備ノ為所謂商務大臣委員会ノ会合二回、獨逸以外ノ賠償ニ關スル委員会会合一回ヲ數ヘ他方連日諸国代表特ニ英仏独代表間ノ非公式内談ヲ重不漸ク一致ノ成案ヲ得七月九日前「獨逸国トノ協定」其ノ他ノ關係文書ニ署名ヲ了シタリ左ニ其

### ノ経過ヲ概説スベシ

三、開会式（第一回総会）ハ十六日午前十時ヨリ行ハレ瑞西國大統領「モツタ」氏臨席シ同氏ヨリ歓迎及激励ノ挨拶アリ次デ議長ヨリ開会演説アリ翌十七日午前第二回総会劈頭ニ於テ議長ヨリ今次会议ノ継続中戰債賠償ノ支払履行ヲ留保スベキ旨ノ日、英、仏、白、伊「五国声明」ヲ発表シ他ノ會議參加債權國ノ加入ヲ勧請スル所アリタルガ右ハ今回會議ニ於テ賠償問題ノ解決ヲ見出サザレバ已マザルノ決意ヲ表明シタルモノトシテ頗ル重大ノ意義ヲ有ス右声明ノ成立ニ至ル経過等ニ付テハ第二章第三節ニ詳述セリ（自餘債權國モ會議中ニ全部本聲明ニ加入シタリ）右五国声明發表後一般討議ニ入り先ヅ独、仏、英、伊四代表ノ演説アリ次デ十七日午後ノ第三回総会ニ於テ日、白、豪、葡、塞、羅、希ノ順序ヲ以テ各其ノ會議ニ対スル態度ヲ表明セリ（第二章第二節参照）

四、右態度表明ノ結果各国ノ主張ニ著ルシキ懸隔アリ其ノ儘總会ヲ継続スルハ會議ヲ進行セシムル所以ニ非ズト認メラレタルヲ以テ先ヅ招請國間ニ内交渉ヲ試ムルコトトセリ然ルニ内交渉ニ入ルヤ各國主張ノ相違益々具体的且鮮明トナリ独立逸側ハ賠償ノ完全ナル帳消ヲ主張セルニ対シテ仏國側ハ独逸将来ノ發展ヲ考慮シ一定期間ノ「モラトリーム」ヲ認ムルモ其ノ後ハ一定額ノ支払ヲナサシメンコトヲ主張シ伊太利ハ独逸ノ立場ヲ又白耳義ハ仏國ノ立場ヲ夫々支持シ英國ハ斡旋者タル地位ニ在リシモ而モ自ラ賠償全部帳消ノ立場ヨリ寧ロ独逸ノ立場ヲ支持スルニ傾キ仏國ノ態度緩和方ヲ説得スルニ努メ連日各國代表部間ニ折衝ヲ重ねタルガ何等纏ル所ナク依テ英國側ニ於テモ會議決裂ヲ救フ為其ノ賠償全廃主義ヲ多少緩和スルニ至リ六月二十三日英仏代表ハ(1)本會議ニ於ケル解決ハ最終タルコト(2)信用回復ヲ主眼トスベキコト(3)ハ独逸ハ現在ハ勿論更ニ其ノ回復ニ必要ナル期間ハ支払ヲ為シ得ザルコト及(4)将来一定ノ支払ヲ為サシムルトスルモ不自然ナル外貨払ノ方法ニ依ラズ自然ナル商取引ノ結果可能ナル所ニ依ルベキコトノ四点ニ付一致スル所アリタリ（第二章第四節第一項参照）依テ翌二十四日ヨリ仏獨代表間ニ此ノ主義ノ下ニ直接交渉ヲ進メタルガ仏獨両國首席代表タル「エリオ」首相及「ファン・ペーペン」宰相一旦帰國シ二十七日帰労スルニ及シニテ独逸宰相ノ態度硬化シ依然一致ニ到達セ（第二章第六節第二項参照）

ザリシヲ以テ「マクドナルド」議長斡旋ノ下ニ更ニ英、仏、独代表間ニ談合ヲ進メタル所二十八日午後ニ至リ独逸宰相ハ(1)賠償問題ハ今次会议ニ於テ最終的ニ解決シ将来独逸ガ一定金額ノ支払ヲ為スモ賠償トハ全然無関係ニシテ別個ノ性質ヲ有スルコト(2)仏獨間ニ軍備平等ニ付協定ヲ為スコトノ二点ヲ条件トスルニ於テハ独逸ハ将来經濟復興ノ曉一定額ノ支払ヲ為スコトニ同意スベキ旨申出デタルモ仏國首相ハ之ガ受諾ヲ拒絶シ會議ハ一旦決裂ノ外ナキヤニ認メラレタルガ更ニ協議ヲ進メタル結果二十九日ニ至リ両者間ニ左ノ如ク根本原則ノ一致点ヲ發見スルニ至レリ(1)独逸ハ現在ニ於テハ何等ノ支払ヲ為シ得ザルコト(2)今後協定セラルベキ支払八年金ノ形ニ依ルヲ得ズ一定金額打切支払ノ形ヲ採ルベキコト(3)斯ル支払自体ハ支払ノ条件ニ付協定ヲ見ルニ於テハ独逸政府ニ於テ受諾スルコト不可能ニアラザルコト（第二章第四節第二項参照）

五、右ノ如ク極メテ大綱ニ於テ英、仏、独間意見一致ヲ見タル為會議ノ形勢頓ニ好転シ六月二十九日午後招請國代表打合會ヲ開キ議長ヨリ上述内交渉ノ経過ヲ報告スルト共ニ各招請國ヨリ一名ノ代表者ヲ出シテ所謂幹部会ヲ組織シ独逸賠償ニ関スル具体的の考案ヲ作成報告セシムベク又招請國商務大臣委員会ヲ開キ待て開カルベキ世界經濟財政會議ニ関スル事項ヲ審議報告セシムルコトトナリ而シテ商務大臣委員会ハ六月二十九日及三十日ノ二回ノ会合ニ於テ世界經濟財政會議ノ審議事項及其ノ準備委員会ニ関スル事項ヲ決定報告スル所アリタリ是レ會議文書ノ第五ニ採録セラレタルモノナリ（第二章第六節第二項参照）

六、一方独逸賠償解決案ヲ作成スベキ幹部会ハ議長「マクドナルド」氏ノ室ニ同氏座長ノ下ニ六月二十九日夕刻第一回会合ヲ催シタリ而シテ英國代表部ハ独逸ノ支払計画ニ関スル腹案ヲ有シ之ヲ基礎トシテ議事ヲ進捗スルニ於テハ極メテ短時日ノ間ニ成案ヲ得ベシト期待シタルモノノ如ク議長ハ当初前記商務大臣委員会ト歩調ヲ共ニシテ一兩日中ニ其ノ任務ヲ果タシ得ベシト思惟セリ

然レドモ支払条件ニ付テハ勿論金額ノ決定ニ付テハ意外ノ波瀾ヲ生ジ幹部会ノ会合前後十四回ニ及ビ幾多ノ曲折ヲ経タ

リ其ノ経過ニ付テハ第二章第四節第二項ニ詳述シ居ルヲ以テ茲ニ極メテ梗概ヲ示スニ止メントス

(イ)幹部会審議ノ主題ハ独逸ノ支払フベキ金額如何及其ノ支払条件如何ノ二点ニ存シタリ先づ当初二日間ハ独逸代表ヲ加ヘタル六招請国ノ幹部会ニテ之ヲ審議シ英國藏相ハ独逸政府ハ賠償打切りノ支払トシテ一定金額ノ債券ヲ國際決済銀行ニ交付スルコト一定期間後右債券ノ売出シヲ為スコト、利子五分ヲ附スルコト等支払条件ノ大要ヲ提議シ独、仏ヲ初メ日、伊、白代表何レモ其ノ主義ニ賛成セルヲ以テ此ノ考案ニ依リ協議ヲ進ムルコトトナリ是ト同時ニ金額問題ヲ討議セルガ其第二回会合ニ於テ仏国代表ハ所謂「フーヴァー」年金ノ支払ヲ為ス外ニ六十億麻トナスベシト提案シタルニ対シ独逸代表ハ金額過大到底独逸ノ負担シ得ベキ所ニ非ズトシテ受諾ヲ拒ミタルノミナラズ自ラ金額ノ提案ヲ為サズ即チ独逸ハ最終打切支払トシテ一定額ノ支払ヲ為スコトヲ受諾シタルモノナルモ対米戦債交渉ノ模様如何ニ依リテハ本會議ノ決定ハ最終的タラザルニ至ルヤモ知レザルノミナラズ其他ニモ幾多未定ノ分子アルヲ以テ是等未定ノ点ヲ確定セザレバ金額ヲ示シ得ズト為セリ議長及各国代表ハ今回會議ニハ米国ノ参加セザル以上一種ノ条件附解決タルハ事態ノ性質上免レ難キ所ナリトシテ勧説ニ努メタルモ独逸側応ゼズ

(ロ)依テ六月三十日午前第三回会合後ハ独逸代表ヲ除外シ債権国側代表ノミノ幹部会ヲ開キ一應金額並条件ニ付債権国側ノ一致案ヲ取纏ムルコトトナリ先づ条件ニ関シテハ英國専門家ノ作成ニ係ル試案ヲ基礎トシテ審議シタル結果独逸政府ハ一定額ノ債券ヲ國際決済銀行ニ引渡シ同行ハ三年ノ「モラトリアム」経過後独逸ノ信用回復シ其ノ売出可能トナリタルトキハ之ヲ市場ニ売出シ其ノ売出シタル債券ニハ五分ノ利子ト一分ノ減債基金トヲ付スベク手取金ノ分配ハ追而債権国間ニ協定スルコト等ヲ要綱トセル債権国一致ノ成案ヲ得タリ

右ニ関シ注意スベキハ当初英國原案ニ於テハ債券ノ手取金ノ一部ハ中東欧ノ復興資金ニ又一部ハ戦債支払ニ充当スルコトトナリ居リタルモ右ニ対シテハ本邦其ノ他異見アリ所謂分配問題ニ触ルルトキハ議論紛糾ノ懼アリ且ツ今後対米戦債交渉ニモ不利不便ナルベキヲ以テ本邦代表ノ此ノ点ニ言及セルヲ機会ニ英國代表ハ之ヲ撤回シ前記ノ如ク改ムル

## 二至レリ

次ニ金額ニ付テハ曩ノ仏国ノ提案六十億麻ニ対シ英國ハ「フーヴァー」年金ハ廢棄スルコトトシテ四十億麻ヲ提案シ仏国ハ当初反対シタルモ諸国代表ト共ニ英國案ニ同意スルニ至リ七月一日夜右条件及金額ニ関スル債権国側一致ノ案ヲ作成シテ七月三日午前議長ヨリ独逸代表ニ手交セリ

茲ニ最重大ナルハ今回決定スベキ金額ヲ最終的トスベシトノ独逸ノ主張ト戦債ニ対スル關係ヲ調和スル為債権国側ニ於テ金額ヲ決定スルニ当リ七月二日所謂「独逸国トノ協定批准ニ関スル紳士的申合」ヲ作成シタルコトナリ

本邦ハ戦債ヲ有セザルヲ以テ此ノ申合ニ参加セザリキ該申合ノ要点ハ独逸国トノ協定ニ於テハ独逸ノ支払ハ最終打切トスルモ英、仏、白、伊四国中一国ニテモ其ノ戦債ニ関シ満足ナル取極ヲ得ザル場合ニハ右協定ヲ批准セズト謂フニ存セリ（詳細ハ第二章第四節第六項参照）

(ハ)右債権国一致案ニ対シ独逸ハ国内輿論ニ対スル關係上二十億麻以上ハ受諾シ得ズト云ヒ尚債券一括支払ニ代フルニ二十億麻ヲ年金化シタルニケノ代案ヲ提出シ來リタルモ債権国側幹部会ハ之ヲ承認セザリシ處七月五日ニ至リ独逸側ハ幹部会設置前ノ内交渉當時持出シタル「ベルサイユ」条約ノ戦争責任条項削除、軍備平等等ヲ条件トシテ二十六億麻迄増額ヲ提案セルモ之ニ対シテハ仏国側断然反対シ難關ニ逢着セルヲ以テ七月六日午後独逸代表ヲ加ヘタル幹部会ヲ閑催シタルモ何等纏ル所ナク已ムナク独逸代表ノ提議ニ依リ金額ノ決定ハ招請国首席代表会合ニ移シ同時ニ債券ノ条件ニ関スル独逸側ノ修正要求ニ付テハ専門家ヲシテ協議セシムルコトトセリ

而シテ首席代表ハ六日午後及夜ノ二回ニ亘リ協議セルモ一致ニ到達セズ依テ英國代表ノ斡旋ノ下ニ仏獨間ニ内談ヲ統ケ八日午後ニ至リ独逸側ハ戦争責任条項削除等ノ政治上ノ要求ヲ撤回シ債券ノ金額ヲ三十億麻トスルコトニ妥協成立シ又一方債券ノ条件モ決定セルヲ以テ急遽招請国側ノ法律家会合シ右債券ニ関スル件ヲ主題トシテ「独逸国トノ協定」ヲ完成シ同夜第四回総会ニ附議決定シ九日午前署名セリ

七、尚会議劈頭「マクドナルド」議長及「エリオ」首相ハ信頼ノ回復ニハ單ニ財政経済問題ノ解決ニ止マラズ政治的安定ヲモ必要トスルコトヲ述ブル所アリ六月十七日以来非公式内談ニ於テ此ノ点ニ関シ何等カノ宣言ヲ為スノ案ニ付主トシテ英、仏、独間ニ意見ノ交換アリ右ハ専ラ歐洲ノ政治的安定ニ関スル問題ナリシヲ以テ我方トシテハ之ニ参加セザリシガ其ノ後各国ノ政治的安定ニ関スル具体的主張ニハ自ラ異ル所アリ一致スルコト困難ナルコト明トナリ結局具体的内容ニ乏シキ抽象的宣言案ニ落付キ之ヲ独逸国トノ協定ノ前文ト第一条トノ間ニ挿入スルコトトナレリ（第二章第四節第五項参照）

八、尚前述「独逸国トノ協定」ノ実施ニ至ル迄（又ハ右協定ヲ批准セズト決定スル迄）ノ期間ノ独逸賠償ノ支払ヲ如何ニスペキヤノ経過措置ニ付テハ六月十六日附五国声明ノ効力ヲ右期間延長スルコトトシ尚「新案」ヨリ今回ノ協定ノ実施ニ移ル為必要ナル手続並ニ實物引渡等ニ付テモ「独逸国ニ関スル経過措置」トシテ七月八日第四回総会ニ於テ之ヲ採択シ右ハ會議文書第二トナリ関係国代表之ニ署名セリ但本代表等ハ署名ニ際シ「アド、レフエレンダム」ヲ附セリ。

九、独逸以外ノ賠償ニ關シテハ七月二日午前ノ日、英、仏、白、伊代表ノ非公式打合ノ結果同日午後被招請債權國ヲモ加ヘテ非公式会合ヲ開キタルガ更ニ七月四日ノ幹部会ノ決定ニ依リ独逸以外ノ賠償関係国全部（債務國タル勃洪二國ヲ含ム）ヨリ成ル委員会ヲ設クルコトトナリ同委員会ハ七月六日午前会合

(イ)独逸以外ノ賠償問題ノ関係国全部（債權國及債務國）ヨリ各一名ノ代表ヲ出シテ委員会ヲ設置シ「ローザンヌ」會議後關係問題ヲ審議セシムルコト

(ロ)右委員会ノ任務遂行ニ支障ナカラシムル為千九百三十二年十二月十五日迄（夫レ以前ニ解決ヲ見ザル限り）独逸以外ノ賠償關係ノ支払履行ヲ留保スルコト

二一致シ七月七日右趣旨ノ決議ニ関係国代表署名セリ右決議ハ會議文書第三ニ採録セラレタリ（第二章第五節参照）

一〇、又會議ハ中部及東部「ヨーロッパ」諸国ノ經濟財政復興手段ニ關シ英、仏、独、白、伊、奧、勃、洪、希、和蘭、瑞

西、葡、羅馬尼、「チエツコスロヴァキア」及「ユーポースラヴィア」各國政府代表者ヨリ成ル委員会ヲ設ケ具体案ヲ作成セシメ歐洲聯合研究委員会次回会合ニ提出セシムルコトトスル決議ヲ採択シ右ハ會議文書第四トナレリ

二、會議ガ追テ開催セラルベキ世界經濟財政會議ニ關シ一ノ決議ヲ採択セラレタル次第ハ前記五ニ於テ述ベシ通リナリ

右ノ如クシテ今回會議ニ於テ採択セラレタル文書ハ會議ノ経過及結果ヲ錄スル最終議定書ノ外第一「独逸国トノ協定」

第二「独逸国ニ關スル経過措置」第三「独逸国以外ノ賠償ニ關スル決議」第四「中部及東部「ヨーロッパ」ニ關スル決議」第五「世界經濟財政會議ニ關スル決議」ノ五ナリ

三、以上會議ノ経過並結果ニ付概説セリ今回會議ハ財政經濟ニ關スル一般問題ニ關シテハ之ヲ近キ将来開カルベキ國際會議ノ審議決定スル所ニ譲リ何等具体的ノ成果ヲ齎サザリシモ對独賠償問題ニ關スル限り會議ハ一般世人ノ期待セル以上ニ根本的且徹底的ノ解決案ヲ得ルニ至リ戰後十年ニ亘り紛糾ヲ重不タル本問題ハ茲ニ終結ヲ告グルニ至レルハ參加各國代表ノ協調的精神ト獻身的努力ニ待ツ所大ナリト謂フベシ固ヨリ本協定ノ實施ハ対米戰債交渉ノ成行如何ニ懸リ且ツ右ノ交渉ニハ相當重大ノ困難ヲ伴フコトヲ豫期セザルベカラズ從テ「ローザンヌ」會議ノ成果全幅ノ現ハルルハ尚相当ノ長時日ヲ要スベシ然レドモ賠償關係国間ニ於テ右解決案ニ到達シタルハ世界經濟局面展開ノ第一步ヲ踏ミ出シタルモノトシテ頗重大ナル意義アリト思考ス

以下會議開催ノ由來及任務、會議ノ構成及経過並ニ結果ニ付詳述シ尚特ニ別章ヲ設ケテ關係諸文書ニ關シ逐條的説明ヲ施ス所アラントス

## 第一章 會議開催ノ由來並會議ノ任務

一、独逸ハ千九百二十九年以来ノ國際經濟及金融界ノ恐慌ト不況ノ影響ヲ免レザリシノミナラズ之ニ対シテ最モ敏感ニシ

テ千九百三十一年六月二十一日「フーヴア」大統領ノ賠償其他政府間債務ニ関スル「モラトリアム」声明ヲ以テシテハ其ノ経済崩壊ノ危険ヲ防止スルニ足ラズ英國政府ハ千九百三十一年七月倫敦會議開催ノ発案ヲ為シ同會議ノ勧告ニ基キ「バーゼル」銀行家委員会ノ報告提出及独逸短資据置協定トナリタルガ其後更ニ英國初メ諸國ノ金本位離脱等アリ此旋風的恐慌ノ中ニ在リテ独逸国政府ハ所謂「フーヴア」休日年度経過後ニ於テモ到底「新案」所定ノ債務支払ヲ再開スルコト能ハザルモノト思考シ千九百三十一年十一月十九日「ヤング」案第百十九節ニ依リ國際決済銀行ニ対シ特別諮詢委員会ノ招集ヲ請求シ且「独逸国政府ハ独逸国ノ為替及經濟生活ガ年金中ノ延期シ得ル部分ノ一部又ハ全部ノ振替ニ依リ甚ダシク危殆ナラシメラルルコトアルベシトノ結論ニ誠意ヲ以テ到達セル」コトヲ宣言セリ從テ國際決済銀行ハ特別諮詢委員会ヲ招集シ同委員会ハ千九百三十一年十二月七日ヨリ一十三日迄「バール」國際決済銀行ニ会合同二十三日其ノ報告ヲ提出セリ

二、特別諮詢委員会ノ報告ハ「ヤング」案所定ノ支払猶豫ノ必要ヲ勧告シタル外何等具体的方策ヲ關係政府ニ勧告シ得ルニハ至ラザリシモ独逸ノ財政經濟難況ニ関スル幾多貴重ナル説明並資料ヲ提供スルト同時ニ賠償問題ノ根本的解決ノ緊急事タルコトヲ説キ且ツ世界不況対策ヲ併セ講究スルノ要ヲ述べ「行動ニ対スル責任ヲ荷ヘル諸国政府ハ一樣ニ各国ヲ重圧セル此ノ大恐慌ノ改善ヲ齋スベキ決定ニ遲滯ナク到達セラレ度キ」旨ヲ強調セリ

三、之ヨリ曩特別諮詢委員会ノ報告提出ノ暁ハ二月早々開カルベキ軍縮會議開催トノ關係上會議ヲ何時何処ニ開催スベキヤノ問題ヲ生ジ居リシガ愈々報告提出ヲ見タルヲ以テ之ガ決定ヲ為スノ現実ノ必要ニ迫ラレタル所英仏間に於テハ一月十八日瑞西「ローザンヌ」ニ開催ニ意見纏リ二月三十一日本邦駐劄英國大使ヨリ本邦ノ意嚮ヲ照会シ來リタルヲ以テ本邦側トシテハ之ニ異議ナキ旨答ヘ會議ハ一應一月十八日「ローザンヌ」ニ開会ト豫定セラレタリ

四、然ルニ一月十二日仏国「ラヴァル」内閣辭職セル為十八日開会ハ不可能トナリ同一十五日開会ニ変更セルモ更ニ關係國間内交渉ノ模様ニ徵スルニ独逸側ハ賠償棒引ヲ主張シ仏国之ニ反対シ各國ノ主張錯綜セルコト及各國ノ政情ニ鑑ミ直

ニ開催スルモ到底満足ナル結果ニ到達スルコト困難ナリト認メラレ尚仏國議会ノ総選挙及独逸大統領ノ選挙時期トノ關係上六月頃迄延期スル外ナキ情勢トナリタルガ會議ノ開催時期等ニ關シ何等具体的ノ取極又ハ声明ヲ為サズ其ノ儘トナシ置クハ適當ニ非ザルベキヲ以テ何等カノ声明ヲ為スコト然ルベシトノ意嚮ニ一致シタルモ其ノ内容就中會議ノ目的ニ關シテハ英國ハ賠償問題ヲ主トセントシ仏国ハ賠償ヲ含ム一般財政經濟問題討議ノ會議トセントシ一致スルニ至ラザリシガ二月十三日ニ至リ關係國間ノ同意成リ「ジュネーヴ」ニ於テ左記声明ヲ發表セリ（附屬書第七号）

『白耳義國、仏蘭西國、独逸國、伊太利國、日本國及聯合王國ハ「バール」専門家ノ報告ヲ了承シタル後他關係國政府ニ「ローザンヌ」會議六月迄延期ヲ勧告スルコトニ一致セリ

會議ノ目的ハ「バール」専門家ノ報告ニ提起セラレタル問題ノ恒久的解決及現下世界恐慌ノ原由ニシテ且之ヲ長延カズベキ經濟上及財政上ノ困難ヲ解決スルニ必要ナル手段ニ付一致スルニ在ルベシ

此ノ決定ハ上記政府ニ依リ國際的情勢ヲ緩和スベシトノ希望ニ於テ到達セラレタリ』

右聲明中ニ明カルガ如ク「ローザンヌ」會議ノ任務ハ賠償問題ノ根本的解決ト共ニ一般財政經濟問題対策ノ審議ニ在リ然ルニ茲ニ一言ヲ要スルハ英米間に於テ世界經濟會議開催ノ内議進行シ六月初メ之ニ関スル英米外相ノ声明ヲ見ルニ至リ之ガ為尚「ローザンヌ」會議ニ於テ一般財政經濟問題ヲ議スルコトハ自ラ重複ヲ免レザルニ至ルベク從テ會議ノ主要任務ガ賠償解決ニ存スルコトトナリタリ次ニ右声明中ニ存スル會議開催時期ニ關シ四月三十日英国外務省ヨリ六月十六日「ローザンヌ」ニ開会シ度キ旨ヲ以テ帝国政府ノ意嚮ヲ照会シ來リ帝国政府モ之ニ同意シ同日開会ニ決定セリ然ルニ其ノ後五月初メ仏國総選挙ノ結果五月十日「タルデュ」内閣辭職シ後繼「エリオ」内閣ハ六月四日ニ至リ漸ク組織セラレタルノミナラズ独逸ニ於テモ四月大統領選挙五月三十日「ブリューニング」内閣辭職、六月二日「フオン・パン」内閣成立等主要關係國ノ政變頻々タリシ為會議前豫備交渉ヲ為スノ遑ナク僅ニ六月十一日ニ至リ英國首相及外相ハ「ジュネーヴ」ニ赴ク途中巴里ニ仏國政府當局ト會見シ英仏間ニ意見交換ヲ行ヒタルニ過ギズ從テ會議ニ対スル十分

ノ準備ヲ整フルヲ得ズシテ開会期迫リ参加諸国代表ハ「ローザンヌ」ニ參集スルニ至リタリ

## 第二章 會議ノ構成並経過

### 第一節 會議ノ構成

#### 一、參加國及各國代表

會議ハ六月十六日「ローザンヌ」「オテル・ボー・リヴ・アージュ」ノ大広間ニ於テ開会セラレタリ参加國ハ招請國タル日、英、仏、独、伊、白ノ六國ノ外之ヨリ招請ヲ受ケタル濠洲、加奈陀、希臘、新西蘭、波蘭、葡萄牙、「チエツコスロヴアキア」、南阿聯邦及「ユーロースラヴィア」ニシテ勃牙利及洪牙利ハ會議ノ末期ニ當リ独逸以外ノ賠償問題ヲ審議シタル際之ヲ招請シタリ

各國代表者ハ左記ノ外各國代表部員人名表ノ通ナリ（附屬書第二十六号）

日本 特命全權大使 吉田

大使館參事官 栗山

財務官 津島

首相「ラムゼー・マクドナルド」

藏相「ネヴィル・チエンバーレン」

外相「サー・ジョン・サイモン」

商相「ウォルター・ランシマン」

内相「サー・ハーバート・サミュエル」

英國

首相「ジエルマン・マルタン」

商工相「ジュリアン・デュラン」

外務長官「バガノン」

前國務大臣「ジョルヂ・ボネ」

宰相「フォン・ペーベン」

外相「フォン・ノイラート」

藏相「シュウェーリン・フォン・クロージック」伯

商相「ウアルムボルド」

外相「ディノ・グランディ」

藏相「アントニオ・モスコニ」

國際決済銀行副總裁「アルベルト・ベネデューチエ」

全權公使「アルベルト・ピレリー」

首相兼藏相「ランカン」

伊太利 独逸

外相「イーマンス」

名譽大臣「フランキ」

二、議長及事務総長  
白耳義

六月十六日ノ第一回總会ニ於テ英國首席代表「マクドナルド」氏會議議長ニ選バレ又「サー・モーリス・ハンケー」氏會議事務總長ニ選バレタリ

會議事務總長二選バレタリ

### 三、総会及各委員会等

#### (イ) 総会

総会ハ常ニ「オテル・ボーリヴァージュ」ノ大広間ニ於テ開催サレ六月十六日午前ノ第一回総会ニ於テハ瑞西大統領ノ挨拶及議長ノ演説アリ六月十七日午前及午後ノ第二回及第三回総会ニ於テハ各國代表ノ會議ニ對スル態度ノ声明アリタルガ其後七月八日独逸賠償ニ関スル一致ノ成案ヲ得ルニ至ル迄之ヲ開カズ同日夜ニ至リ第四回総会ヲ開キテ最終議定書並関係文書ヲ承認シ翌九日午前最終総会ニ於テ署名ヲ了シタリ（第二章第二節第三節及第七節参照）

#### (ロ) Programme Committee（又ハ招請国代表打合会）

會議開会ノ前日タル六月十五日午後招請国タル六国代表者会合シ會議ノ日程、議事進行等ニ付議シタルガ其ノ後六月十六日午後第二回、六月二十日午後第三回、六月二十九日午後第四回ノ会合ヲ催シ會議ノ進行ヲ議セリ（我方三代表出席）尚七月六日午後第五回同日夜第六回ノ会合ハ六国首席代表ノミ参加ン（吉田出席）独逸政府ノ引渡スベキ債券ノ金額問題ヲ議シタルガ（第二章第四節第二項参照）此ノ会合モ Programme Committee ノ開催トシテ取扱ハレタリ

#### (ハ) Bureau Committee（又ハ幹部会）

六月二十九日午後ノ Programme Committee 会合リテ設置サレタル幹部会ハ招請六箇国ヨリ原則トシテ代表一名出席英國首相「マクドナルド」氏座長ノ下ニ主トシテ独逸政府ノ引渡スベキ債券ノ金額並ニ条件等ニ関スル問題ヲ審議シ本邦ヨリハ津島出席セリ（英及独ヨリハ各歳相仏ヨリハ「ボネ」氏、白ヨリハ「フランキ」氏、伊ヨリハ「ピレリ」氏出席）幹部会ハ独逸代表參席シタルモノ前後五回及債權国代表ノミノ会合九回ニ及ベリ（第二章第四節第二項参照）

#### (二) 商務大臣委員会

六月二十九日午後ノ「プログラム、コングラミテイ」ハ追テ開カルベキ世界經濟財政會議ニ関スル事項ヲ審議セシム

ル為招請國商務大臣ヨリ成ル委員会ヲ設クルコトトシ本邦側ヨリハ栗山出席セリ同委員会ハ六月二十九日夜及同月三十日前ノ二回ノ会合ニ依リ其ノ審議ヲ了シタリ（第二章第六節参照）

#### (ホ) 独逸国以外ノ賠償ニ関スル委員会

尚右ノ外独逸国以外ノ賠償問題ニ關シ七月一日独逸ヲ除ク五招請國ノ非公式会合アリ同日中之ニ被招請國側ノ独逸以外ノ賠償ノ債權國ヲ加ヘテ十箇國ノ非公式会合ヲ催シ更ニ右諸國並ニ勃牙利、洪牙利代表ヨリ成ル委員会構成セラレ右委員会ハ七月六日会合ヲ催シ独逸國以外ノ賠償問題ヲ審議セリ右会合ニハ栗山出席セリ（第二章第五節参照）

#### (イ) 起草打合会

今回ノ會議ニ於テハ特ニ起草委員会ト名付クル程ノ会合無ク唯七月三日英國ノ「マルキン」氏仏國ノ「リオン」氏我方栗山間ニ起草ニ關シ意見交換アリ七月六日午後ヨリ之ニ伊ノ「ピロツチ」氏ヲ加ヘテ話ヲ進メ七日及八日ハ独ノ「ガウス」氏又加ハリ躁急ノ間ニ起草ヲ進メ七月八日午後九時ヨリ開会ノ總會直前ニ辛ウジテ起草ヲ終ヘシガ如キ次第テ今回作成セラレタル會議文書ニハ字句ノ統一セザル点推敲充分ナラザル点アルハ已ムヲ得ザル次第ナリ（第二章第七節参照）

(ロ) 尚本會議ノ決定ニ基キ會議ニ会合スベキ委員会トシテハ（一）独逸國以外ノ賠償ニ關スル委員会（二）中部及東部「ヨーロッパ」ニ關スル委員会（三）世界經濟財政會議ニ關スル委員会及四實物引渡ニ關スル委員会ノ四アリ右（一）ノ議長ハ白耳義ノ「チュニス」氏（二）ノ議長ハ仏國代表「ジョルジユ・ボネ」氏ニ決定セリ（第二章第七節参照）

#### 第二節 開会及一般討議

一、第一回総会ハ六月十六日午前十時開会「マクドナルド」氏ヲ議長ニ選舉シ次デ瑞西大統領「モツタ」氏臨席聯邦政府「ヴォー」州府及「ローザンヌ」市當局並ニ瑞西國民ノ名ニ於テ歡迎ノ意ヲ表シ會議ノ成功ヲ祈ル旨ノ挨拶アリタル後

議長ハ賠償問題ノ現状及今次會議ノ目的ニ付演説セリ

議長演説中ノ主要点左ノ通り

(イ)未曾有ノ經濟危機ニ際会シ世界ハ今次会议ニ多大ノ期待ヲ有ス

(ロ)會議ノ目的ハ現下災厄ノ最大ノ原因タル大戰ヨリ生ジタル財政問題ノ處理ニシテ「バール」銀行家委員会及特別諮詢委員会ハ急速対策ノ必要ヲ強調シタルガ世界ノ現状ハ其ノ後更ニ悪化シ居リ會議ハ迅速ニ行動セザルベカラズ

(ハ)會議ノ守ルベキ原則ノ一ハ約定ハ一方的ニ破棄シ得ザルコト是ナリ然レドモ約定ノ違反ヲ避ケントスレバ其ノ実行不能トナレル場合ニハ協定ニ依リ之ヲ改訂セザルベカラズ

(二)戰債賠償ヲ解決スルモ右ハ現下ノ問題ノ全部ヲ解決シ得タリト云フベカラズ經濟組織ノ崩壊ヲ來スベキ各般ノ勢力ヲ阻止スルニハ人類連帶協力ヲ要スベク今回ノ會議ニ於テ或ル階梯ニ達シ更ニ米国モ來リ協力シ得バ幸ナリ

(ホ)軍縮會議ノ事業ハ吾人事業ノ一部ニシテ經濟復興ニハ一定期間ノ政治的安定ヲ要シ其ノ間戰争ノ脅威又ハ風評ニ依リ攪乱セラレザルコトヲ要ス

右演説後事務総長ノ選任アリタルノミニテ第一回總会ハ終了セリ

一一、第二回總会ハ六月十七日午前十時開会各國代表ヨリ一般態度ヲ表明スルコトニ豫定セラレタルガ十六日午後招請國代表打合会（「プログラム、コンミッティ」）ニ於テ下打合ヲ為シ各國代表ノ態度表明ニ當リテハ會議ノ進捗ヲ困難ナラシムルガ如キ言説ハ成ルベク之ヲ避クルヲ努ムルト共ニ一面腹藏ナキ意見ヲ吐露スルヲ得シムル為今後總會議事ハ之ヲ非公開トスルコトニ決定セリ

斯クノ如クニシテ第二回總会ハ非公開ノ下ニ開会セラレタルニ議長ハ開会劈頭「會議中賠償戰債支払履行留保ニ関スル五國声明」ヲ公表スル為一時公開會議ト為シ右声明公表後更ニ非公開會議ニ移リ議長ハ右声明ニ関連シテ白國代表ヨリ議長ニ宛テタル所謂白耳義麻清算問題ニ關スル書翰ヲ朗讀シ独逸代表「ファン・ペーベン」ノ所見陳述アリ（五國声明

ノ成立ノ経過及其ノ内容等ニ付テハ次節「五國声明」中ニ詳述セリ）次デ独、仏、英、伊國代表ノ今次会议ニ對スル態度ニ付演説アリ引続き同日午後ノ第三回總会ニ於テ日、白其他諸國代表ノ演説アリ以下主ナルモノノ要点及吉田ノ演説ヲ掲記スベシ

### 三、独逸代表「ファン・ペーベン」氏

(イ)独逸ハ賠償問題ノ法律的方面ヲ論ジ既存協定ノ効力ヲ疑ヒ又ハ海牙協定ヲ否定セントスルモノニ非ズ討議セントスル所ハ現在ノ事態ナリ

(ロ)世界經濟狀況ハ根本的ニ變化セルガ現下ノ事態ヲ生ジタルハ過去ノ賠償解決案ノ為ニシテ吾人ハ之ヲ検討セザルベカラズ

(ハ)賠償帳消ノ結果ハ独逸ガ諸國ノ恐ルベキ競争者トナルベシト謂フハ誤ニシテ独逸ハ「インフレーション」ノ結果公私經濟ノ根本ヲ破壊セリ

(二)現下ノ恐慌ハ從来ノモノト異リ信用ノ恐慌ニシテ之ヲ招來シタルハ政治債務ノ存在ナリ

(ホ)賠償支払ノ不能且有害ナルコトハ過去ノ歴史及現下ノ狀況ニ照シ明ニシテ非經濟債務支払ハ決定的ニ解決スルノ要アリ

リ

### 四、仏國代表「エリオ」氏

(イ)仏國代表ハ自己ノ利益擁護ノ義務ト同時ニ他國就中独逸ノ窮状ニ関心ヲ有シ歐洲復興ニ貢献セントスルモノナリ

(ロ)國際條約ノ尊重ハ新シキ秩序ノ基礎タル國際道義ノ建設ニ缺クベカラズ

(ハ)特別諮詢委員会ノ報告ハ之ヲ承認ス報告ハ全部一体トシテ會議ノ指針トナラザルベカラズ

(二)不況ハ永久ニ続クモノニ非ズ強力ナル經濟組織ヲ有スル独逸ノ将来ニ期待ヲ有ス

(ホ)独逸ハ賠償ノ帳消サルル場合ニハ例ヘバ國債ノ負担鐵道公社ノ負担等他國ニ比シ大ニ輕減サレ有利ノ地位ニ立ツベシ

仏國トシテハ各國ニ均等ノ利益ヲ与ヘ生活難打破ニ均等ノ機会ヲ与ヘザルベカラズト思惟ス

(イ)賠償帳消ニ依リ独逸ハ利益ヲ享ケンモ仏國ハ最大ノ犠牲ヲ払フコトナルベク其ノ他ノ債権國中ニモ豫算上大ナル犠

牲ヲ払フモノアルベク賠償帳消ニ依リ一國ノ負担ヲ他國ニ振替フルハ誤ナリ賠償ハ現下不況ノ一原因ニ過ギズ

(ト)各國均勢ノ回復ハ寧口各國協調ニ依リ安全ヲ改善增進シ信賴回復資本流通ノ円滑ヲ図ルニ在リ

(ア)經濟的平和ナキ所政治的平和ナク政治的平和ナキ所經濟的平和ナシ此ノ主義ノ下ニ於ケル鎖國經濟主義ノ改廃、交易

制限撤廃、農產物價格引上等賠償帳消ニ優ルベシ

## 五、英國代表「チエンバーレン」氏

(イ)海牙協定ハ有効ナリトルモ独逸トシテ支払不可能ナルコト明ナルヲ以テ此ノ際此ノ事態ヲ調和スル満足ナル積極的基礎ヲ発見セザルベカラズ

(ロ)經濟的基礎ナキ政治債務ノ支払ヲ強要スルハ財政的及經濟的混亂ノ主要原因ナリ

(ハ)特別諮詢委員会ニ於テ必ズシモ意見一致シ居ラズ其ノ報告ニ全幅ノ權威ヲ認ムベキヤ問題ナリ各政府ハ之ヲ判断スルノ自由ヲ有セザルベカラズ

(二)英國トシテハ既ニ受取額以上ニニ一億磅ノ支払ヲ為シ居ルモ關係政府ガ同様ノ措置ヲ採ルコトヲ条件トシテ一般帳消ヲ受諾スル用意アリ

## 六、英國代表「モスコニ」氏

(イ)會議ノ到達スベキ決定ハ公平且正当ナルベク其ノ解決ハ最終的ナルト同時ニ世界的ナラシメザルベカラズ

(ロ)伊國ノ方針ハ同國首相ヨリ從来累次聲明セル所ニ依リ明ニシテ此ノ方向ニ向ツテノミ本問題ノ適當ナル解決案ヲ見出シ得ベシ

(ハ)伊國ハ會議ニ全幅ノ協力ヲ吝マザルモノニシテ今ヤ理論ヨリモ実行ノ機ニ在リ

## 七、吉田ノ演説左ノ通り

「日本代表部ハ昨日議長ノ為シタル演説並ニ今朝独、仏、英、伊各代表ノ為シタル演説ヲ最大ノ興味ト最モ周到ナル注意トヲ以テ傾聴シタリ現在ノ經濟財政狀態ニ関スル右諸賢ノ所説ハ既ニ之ヲ論ジ尽シテ吾人復タ何等附言スベキモノナシ

歴史上其ノ類例ヲ見ザル現時ノ不況ハ洋ノ東西ヲ問ハズ世界各国ニ及ビ居ル處此ノ世界的恐慌ノ根柢ニハ信賴ノ缺如スルアリテ日ニ増大シツツアリ今ニシテ急速対策ヲ講ジ此ノ趨勢ヲ<sup>(後カ)</sup>挽回スルニ非ズンバ比類ナキ災厄ニ逢著スベキコト必然ナルヲ懼ル

世界的不況ニ対スル共同戰線ニ列スル日本政府ハ賠償問題ガ他ノ財政的經濟的問題ト共ニ有効ニ解決セラレンコトヲ切望ス本會議招集ノ目的達成ノ為ニハ凡有ル手段ヲ尽サザルベカラズ

日本政府ハ此ノ難問ノ有効且公正ナル解決ヲ齎スベント思惟サルル案ノ作成ニ対シ満腔ノ協力ト全幅ノ支持トヲ与フル用意ヲ有スルモノナリ」

## 八、白國代表「ランカン」氏

(イ)白國ハ「フーヴィー・モラトリアム」ニ依リ多大ノ損害ヲ受ケタルガ賠償帳消トナラバ其ノ損害ハ白國ノ堪ヘ得ザル所ナルベシ

(ロ)政府間債務ノ総括的解決ハ特定國ノ負担ヲ輕減シ不当ニ他國ニ転嫁セザルコトヲ要ス

(ハ)各國ノ連帶協調ニ依リ閉鎖的經濟制度ヨリ脱出セザルベカラズ

九、次デ濠洲代表「レザム」氏葡萄牙代表「ブランコ」氏「ユーゴースラヴィア」代表「マリンコウイツチ」氏羅馬尼代表「ズーソーメー」氏希臘代表「ミカラスプロース」氏ノ演説アリテ一般討議ヲ終了セルガ議長ヨリ會議進行ノ為ニハ先ヅ招請國間ニ於テ問題ノ取扱方法ニ付考慮ヲ加フルヲ要スルヲ以テ十八日後ハ私的交渉二十日ハ招請國代表会合ニ充

テ総会ハ二十一日開催スルコトヲ提議シ右ニ決定セリ

而シテ右招請国代表会合ハ二十日午後開催セラレタルガ議長ヨリ会議ノ議事ヲ円滑ニ行フ為ニハ各國代表者間私的交渉ヲ継続スル事適當ナリト述べ二十一日ノ総会ハ延期シ七月八日対独賠償ニ関スル一致案ヲ得ル迄遂ニ総会ヲ開カザリキ

(第二章第七節参照)

### 第三節 五国声明

一、前節記述ノ如ク六月十七日午前総会席上「マクドナルド」議長ヨリ発表シタル五国声明ハ会議ニトリ頗ル重要ナル意義ヲ有シ後掲獨逸国ニ関スル経済措置其ノ他戦債支払ニ関スル経過措置ノ基礎ヲ為シタルモノナルヲ以テ茲ニ其ノ経過及内容ニ付稍々詳述スル所アラントス

二、英國首相及外相ハ六月十一及十二日ノ兩日巴里ニ於テ仏国首相其ノ他ト「ローザンヌ」会議ノ目的タル賠償問題及世界不況問題ニ関シテ意見ヲ交換シ更ニ十四日「ジュネーヴ」ニ於テ「エリオ」氏及伊国代表「グランヂ」氏ト協議ノ結果現下ノ状勢上少クトモ賠償問題ニ付テハ是非共根本的解決ヲ為サザルベカラズト認ムルニ至リタルガ「ローザンヌ」着後開会前日即チ六月十五日英仏間ニ協議ヲ統ケタル結果差当リ七月中支払期限ノ到来スル賠償及戦債ノ支払ヲ停止スル旨ノ声明書ニ十六日午前ノ第一回総会前二日、英、仏、伊、白ノ各代表ニ於テ署名シ該総会席上議長ノ演説中ニ於テ之ヲ公表シ以テ今回会議ニ於テ有効ナル解決案ヲ見出サザレバ已マザルノ決意ヲ会議劈頭明示スルコト適當ナルベシト謂フニ一致シ十五日夜ニ至リ声明案文ヲ作成シタリ(附属書第一号)而シテ「サイモン」氏ヨリ伊太利代表「グランヂ」氏及白耳義代表「ランカン」氏トモ謀リタルガ両人トモ贊意ヲ表シタリ尤モ白国代表ハ客年「フーヴァー」提案ヲ採択スルニ當リ同案ニ依ル支払延期ノ例外トセル麻清算支払額ノミハ右声明案ノ例外トシ度シトノ申出アリタルニ付右案文ニ多少ノ修正ヲ加ヘ第二案(附属書第一二号)ヲ得タリ我方トシテハ六月十五日夜十時「サイモン」氏ノ求メニ依

リ津島往訪セル所同氏ヨリ声明案文ヲ示スト共ニ右ノ如キ事情ヲ説明シ我方ト充分協議ノ違無カリシコトニ付諒解ヲ乞フ旨特ニ弁明シ我方ガ至急右措置ニ賛成センコトヲ希望セリ依テ津島ハ他ノ日本代表トモ協議ノ上回答スベシト一応答ヘタル後白国代表ノ申出ニ依リ修正セラレタル第二案ニ依レバ「本会議参加国間ニ於テハ一千九百三十一年八月十一日ノ倫敦議定書ニ依リ停止セラレタルガ如キ賠償割賦金又ハ戦争債務ハ七月中其ノ支払ヲ期待セラレザルベシトノ意見ナリ」トアルヲ以テ字句上ヨリ見テ本支払停止ノ効果ガ客年八月ノ「フーヴァー」提案ニ依ル支払停止同様無条件年金ニ及バザルモノト解セラルベシト注意シタルニ「サイモン」氏モ其処迄ハ氣付カザリシトテ右注意ヲ謝シ然ルベク訂正スベシト述ベタリ

三、右声明案ノ内容ハ本年七月中ニ支払期ノ到来スベキ債権ニ付同七月中之ガ支払ヲ期待セザル旨ヲ主要債権国ニ於テ声明シ他ノ債権国ニ対シテ同様ノ態度ニ出デムコトヲ勧奨スルモノニシテ「ローザンヌ」會議ニ於テ成立スルコトアルベキ賠償協定ノ内容ヲ明ニ留保シタルヲ以テ海牙協定ノ修正ト解シ得ザルノミナラズ仮獨間ノ意見扞格アリテ前途多難ナルヲ思ハシムル會議ノ劈頭ニ本声明ヲ発表シテ形勢ヲ好転セシメントスル英仏間ノ努力ハ多トスベク他ノ招請国モ之ニ賛意ヲ表セル際會議招請国ノ一トシテ我方独リ之ニ賛同ヲ躊躇スルモ面白カラズト思考セラレ又会議ノ大勢ニ順応シテ差支無キ旨ノ訓令ノ趣旨ニ鑑ミ之ニ賛同スルコトニ一応方針ヲ決シタリ

四、依テ翌六月十六日朝第一回総会開会前吉田、「サイモン」氏ヲ往訪シ右声明ノ内容ハ「ローザンヌ」協定ニ組入レテ批准ヲ要スルコトスルコトノ諒解ノ下ニ本声明ニ同意スル旨ヲ申入レントシタル所「サイモン」氏ハ津島ノ注意モアリ更ニ自分モ考フル所アリ又各国トモ多少宛希望モアリ且ツ用語ハ此ノ際特ニ慎重考慮スルコト必要ニシテ委細ハ更ニ後刻協議致度シトテ夫レトナク原案撤回ノ意味合ヲ述べ結局十六日午前ノ総会ニハ間ニ合ハズ十六日中二回亘リ英仏間ニ協議ヲ重ねタル上一致案(附属書第八号)ヲ得之ニ対シ伊モ同意シ白ハ大体承認スルモノト思ハル旨「サイモン」氏ヨリ吉田ニ内報アルト同時ニ批准關係ニ付テハ仏国側モ對議会關係上同様ノ困難ヲ有シ居リ相當考慮ヲ加ヘタルニ付

本案ハ日本側ニモ不都合無カラムト信ズ尚場合ニ依リテハ「アド、レフエレンダム」ニテ署名シ差支ナキニ付同意ヲ希望スル旨申越セリ

##### 五、一致確定セル声明全文左ノ通り（附属書第八号）

「世界ヲ脅カス経済上及財政上ノ危険ノ増大シツツアル重大性及「ローザンヌ」會議ノ審議すべき任務ヲ有スル諸問題ノ緊急性ヲ痛感シ

此等ノ問題ハ歐洲ニ於ケル状態改善ノ為最終的且決定的解決ヲ必要トスルコト並ニ此ノ解決ハ一般的の解決ノ機構内ニ於テ之ヲ実現スル為遲滞ナク且間断ナク追求セザルベカラザルコトヲ確信シ  
賠償及戦債ノ或ル支払ハ来る七月一日ヨリ期限到来スルコトニ留意シ  
會議ノ事業ヲ進捗セシムル為終局的ニ到達セラルベキ解决ヲ妨グルコトナク會議參加国政府ニ對スル賠償若クハ戦債ニ  
関スル支払ノ履行ハ會議ノ期間中留保セラルベク尤モ署名国政府ハ會議ハ成ル可ク短キ期間内ニ其ノ事業ヲ完了スベキモノナリトノ意見ナリ

市場ニ於テ募集セラレタル公債ノ支払ハ本決定ニ依リ影響ヲ受ケザルモノト了解ス

署名国政府ハ各自本了解ニ從テ行動スルノ用意アルモノニシテ本會議ニ参加セル他債権国政府ニ對シテモ同様ノ態度ヲ採ルコトヲ勧請センコトヲ声明ス」

六、右確定シタル声明案ヲ当初ノ案文ニ比スルニ「七月中ノ支払」トアリシヲ「會議期間中ノ支払」ト改メタルコト又「支  
払ヲ停止ス」トアリシヲ「支払ノ履行ヲ留保ス」ト改メタルコト其ノ他ニ於テハ債権国ノ権利ヲ留保スル点ヨリ見テ内  
容緩和セラレ我方ニ於テ其ノ儘署名差支無キモノト思考セラレタリ乍併英國代表部ニ於テ我方が「アド、レフエレンダ  
ム」ニテ署名スルモ差支ナキ旨述べ居リ又實際上躁急ノ間ニ事ヲ運ビ充分電票請訓ノ遑ナカリシニ付十六日夜持廻リ署  
名ヲナスコトトナリタル際吉田ハ「アド、レフエレンダム」ニテ署名シタリ之ヨリ先英、仏、伊代表ハ既ニ署名ヲ了シ

白国代表ハ十七日朝ニ署名ヲ了シタリ蓋シ白国代表ハ前述ノ如ク客年ノ倫敦議定書ニ依リ支払ヲ停止セラレザリシ麻  
清算支払額ノ支払ヲ本件声明ノ適用外ニ置カントシテ修正ヲ申出デ其ノ結果第二案ヲ得タルモ第二案中ノ倫敦議定書ニ  
言及セル一句ハ前述ノ如ク津島ノ注意ニ依リ削除セラレタルガ確定案ノ文句ニテハ *in respect of reparations* トアリ  
清算支払モ適用ヲ受クルノ処無シトセズ結局独逸側ヨリ保障ヲ取付クル外無キコトトナリ独逸側ト接衝シタルガ本声明  
ノ内容ハ独逸ノ閑知スル所ニ非ズ從テ独逸ヨリ白耳義ニ対シ保障ヲ与フル地位ニ非ズトテ交渉ニ応ゼズ窮餘ノ策トシテ  
英國代表「サイモン」氏ノ思付ニ依リ白耳義代表ヨリ議長宛書面ヲ以テ麻清算支払ヲ本件声明ノ適用ヨリ除外スルコト  
ヲ申送ルコトニ詰纏マリ漸ク十七日朝署名スルヲ得タル次第ナリ（尤モ日付ハ六月十六日トナリ居レリ）

七、六月十七日午前ノ総会勞頭會議ヲ公開トシ「マクドナルド」議長ヨリ本声明ヲ公表シタリ即被招請國ハ「プレッス  
ト同時ニ初メテ之ガ内容ヲ了知シタル次第ナルガ独逸代表部ハ十六日夜本声明ノ内容ノ内報ヲ得タル由ナリ右公表後直  
ニ非公開會議ニ移リ議長ハ麻清算問題ニ関シ白国代表「ランカン」氏ヨリ議長宛送付セル左記ノ書翰（附属書第九号）  
ヲ朗読シ右ハ事態ヲ明ニスルガ為ニシテ形式上モ實質上モ留保ヲ形成スルモノニ非ズト附言セリ

「白国代表部ハ本十七日總会ノ席上ニテ朗読セラルベキ声明ヲ署名スルニ当リ右声明ガ一九二九年七月十三日獨白両國  
政府間ニ締結セラレタル取極ノ实行ニ影響ヲ及ボ又能ハザルコトヲ声明スルヲ必要ト思考ス右取極ヨリ生ズル義務ハ賠  
償ニモ將又戰爭債務ニモ非ズ予ハ議長ニ対シ五国声明朗讀後本書翰ヲ會議ニ通告センコトヲ懇請ス」

次デ独逸代表「ファン・バーベン」氏ハ五国声明ニ対シ左ノ如ク述べタリ

「予ハ議長ノ為サレタル声明ヲ大ナル関心ヲ以テ了承シ右声明ノ精神ヲ充分ニ「アップリシエート」ス予ハ右声明ヲ以  
テ関係諸国ガ會議ノ事業ヲ容易ナラシメ現在ノ情勢ガ要求スル所ノ理解アリ且ツ最終的ナル決定ヲ為サントスル堅キ  
決心ノ最初ノ明証トシテ之ヲ歓迎ス予ハ本声明ガ茲ニ代表セラル各国民及世界輿論ニ依リ同様ニ解セラレンコトヲ  
希望スルモノニシテ若シ右希望ニシテ裏切ラルニ於テハ遺憾至極ナリ」

八、本声明ノ末項ニハ本會議ニ参列スル他ノ債権国ト同様ノ態度ヲ採ランコトヲ勧奨シ居ル処六月二十日午後ノ招請国代表打合会会合ニ於テ議長「マクドナルド」氏ヨリ本声明ニ対スル他債権国ノ加入手続問題ヲ提起シ本声明ニハ他ノ債権国ハ署名スルコト能ハザル形式トナリ居ルニ付之ニ加入セントスル場合ハ會議議長ニ対シ加入ノ意思ヲ通告スル書面ヲ送付スルコトスルニ意見一致シ同日中ニ會議事務総長ヨリ加奈陀、「チエツコスロヴァキア」、希臘、波蘭、葡萄牙、羅馬尼、南阿聯邦、「ユーゴースラヴィア」ノ八代表部ニ対シ右ノ旨ヲ通告セリ因ニ濠洲及新西蘭ノ各代表ハ二十日以前ニ右ノ方法ニ依リ既ニ加入ノ意思ヲ通告セリ右各国ハ結局六月三十日迄ニ全部加入ノ通告ヲ為セルガ今左ニ通告日附及留保ノ要領ヲ錄スベシ（詳細附屬書第一〇号参照）

濠洲 六月十七日

新西蘭 六月十七日

「チエツコスロヴァキア」六月二十二日

加奈陀 六月二十三日

波蘭 六月二十四日

南阿聯邦 六月二十五日

希臘 六月二十八日（留保後記九ノイ）

印 度 六月二十九日（留保後記九ノモ）

葡萄牙 六月二十九日（留保後記九ノモニ非ズ）

葡萄牙 六月二十九日（留保後記九ノイ）

羅馬尼 六月三十日（留保後記九ノイ）

「ユーゴースラヴィア」

## 九、被招請国留保要領左ノ通り

### (イ) 希臘ノ留保

希臘ノ財政状態ハ頗ル不安定ニシテ些少タリトモ新ナル負担ヲ引受クル能ハズ故ニ本声明ハ暫行的ノ措置トシ之ヲ受諾スルモ希臘ノ受領スベキ賠償額ノ支払停止延長ハ他方希臘ガ千九百三十一年七月以来受益シ来レル希臘自身ノ支払ノ停止ノ延長ヲ伴フモノトノ諒解ノ下ニ於テ之ヲ受諾スルモノナリ

然レドモ上記ニ依リ希臘政府ノ受諾スル支払停止ハ希臘ガ奥太利及洪牙利ト締結セル特別取極ニ適用ナキモノトス

### (ロ) 葡萄牙ノ留保

賠償問題ニ付葡萄牙ハ目下実行中ナル実物賠償ノ如キ特殊ノ問題ヲ有シ将来採用スペキ決定ハ右ノ特殊問題ヲ考慮ニ入レザルベカラズ葡萄牙政府ハ五国声明ニ加入スルニ当リテハ會議期間中支払ノ実行ヲ留保スルノ決定ハ何等将来到達スキ解決ニ影響ヲ及ボサザルモノナリトノ趣旨ニテ之ヲ為スモノナリ

### (ハ) 羅馬尼ノ留保

羅馬尼政府ハ賠償支払ニ関シ目下履行中ナル実物賠償契約ノ支払ニ必要ナル額ニ付留保シ又本声明ニ依ル支払履行留保期間中平和条約政府間債務及海牙協定ニ基キ右支払延期ニ均霑スル国家及其ノ国民ニ対シテ羅馬尼ノ負フベキ一切ノ財政上ノ負担及義務ガ停止セラレンコトヲ条件トス

### (二) 「ユーゴースラヴィア」ノ留保

「ユーゴースラヴィア」政府ハ賠償支払ニ関シ目下履行中ナル実物賠償契約ノ支払ニ必要ナル額ニ付留保シ又本声明ニ依ル支払履行留保期間中平和条約及海牙協定ニ基キ右支払延期ニ均霑スル国家及其ノ国民ニ対シテ「ユーゴースラヴィア」ノ負フベキ一切ノ財政上ノ負担及義務ガ停止セラレンコトヲ条件トス

一〇、七月九日ノ最終総会ニ於テ署名ヲ見タル文書中最終議定書ハ五債権国ガ本声明ニ署名シタルコト及他ノ債権国ガ之ニ

加入シタルコトヲ錄シ居ル処「独逸国ニ閔スル経過措置」第一条ニ於テ本声明中独逸賠償支払ニ閔スル部分ハ千九百三十年一月二十日ノ海牙協定千九百三十一年八月十一日ノ倫敦議定書及千九百三十二年六月六日ノ伯林追加議定書ニ基ク独逸ノ支払ニ閔スル限り會議閉会ノ日タル七月九日以後ニ延長スルコト及其ノ終期ニ付規定ヲ設ケタリ其ノ詳細ハ第二章第四節第七項「独逸国ニ閔スル経過措置」ノ項下ニ記述セリ

尚本声明中対英対仏及対伊各戦債ノ支払ニ閔スル部分ニ閔シテモ同様之ヲ會議終了後モ引続キ其ノ効力ヲ有スル旨七月九日英、仏、伊三国代表ヨリ声明セリ其ノ詳細ハ第二章第七節及第三章第三節「戦債ニ閔スル文書」ノ説明中ニ於テ記述セリ

更ニ独逸国以外ノ賠償ニ付テハ本年十二月十五日迄支払履行留保方決議セリ其ノ詳細ハ第二章第五節及第三章第一節第三「独逸国以外ノ賠償ニ閔スル決議」中ニ記述セリ依テ茲ニ之ヲ省略ス

#### 第四節 独逸賠償問題ノ解決

##### 第一項 諸国代表部間ノ内交渉

一、今回會議ノ主眼点ガ対独賠償問題ニ在ルコト既述ノ如シ從テ會議ハ殆ド全力ヲ此ノ問題ノ討議ニ傾倒セリ而シテ之ガ解決ヲ期スルニ當リテハ各国利害及主張ノ一致セザルニ鑑ミ複雜微妙ノ内交渉ヲ要スルコト勿論ニシテ即チ先ツ総会又ハ其ノ他ノ形式的会合ヲ中止シ各国代表部間ノ内交渉ヲ行フコト為リ茲ニ會議ハ最重要ナル第二階梯ニ移ルニ至レリ総会ニ於ケル各國代表ノ演説ハ議長ヨリ豫メ注意モアリ會議初頭ニ於ケル空氣ヲ友好的ナラシムルト同時ニ将来ノ交渉ニ於ケル行動ノ自由ヲ留保セムトスル政策的意味ヨリシテ何レモ用語等ニ慎重ナル注意ヲ払ヒ夫レ丈ヶ抽象的ナリシヲ以テ之ニ依リテ各國ノ態度ヲ明瞭ニ看取スルヲ得ザル憾ナキニ非ザリシ所内交渉開始セラルルヤ各國ノ主張漸ク具体的実質的ト為リ來レルガ此ノ内交渉ニ於テ明瞭トナレル各國当初ノ方針ヲ概観スルニ仏國ハ定期間「モラトリアム」ノ

後大体無条件年金ヲ基礎トセル一定額ノ支払ヲ開始セシメント欲セルニ反シ独逸ハ賠償ノ完全ナル帳消ヲ強硬ニ主張シ白国ハ仏國ノ立場ヲ又伊国ハ独逸ノ立場ヲ夫々支持シ英國ハ斡旋者タル地位ニ在リシモ賠償帳消ノ立場ヨリ寧ロ独逸ノ立場ヲ支持セリ此ノ間ニ處シ我方ハ中立ノ立場ヲ持スルニ努メ尚本代表等ハ諸国代表及専門家ト聯絡ヲ保チ内交渉ノ経過ヲ熟知スルト共ニ公正ノ所見ヲ披瀝シテ各國協調ノ促進ニ資セムコトヲ期セリ

二、而シテ右内交渉ニ入ルヤ「マクドナルド」氏其ノ他英國側代表ハ独仏両国代表ト折衝シテ兩國主張ノ接近ヲ策シ殊ニ先ツ仏國代表説得ニ全力ヲ注ギ六月十八日以来「マクドナルド」氏ハ「エリオ」氏等ト引続キ会商シテ賠償抛棄ガ現下ノ經濟難局打開ノ鉄案ナルコトヲ説キテ已マザリシモ仏國代表ハ次ノ如キ理由ニ依リテ賠償帳消ニ絶対反対ノ態度ヲ示セリ

(一)仏國ハ賠償ヲ抛棄セバ内政的及財政的困難ヲ生ズベシ

(二)賠償ヲ抛棄セバ対米戦債支払繼續等ノ場合仏國ノ立場ハ甚ダ困難トナルベシ

(三)賠償抛棄ノ結果各国民ノ負担ニ非常ナル不公平ヲ生ズベシ

(四)戦後独逸ノ經濟的施設ハ極度ニ改善セラレタルヲ以テ賠償抛棄ノ暁ニハ独逸經濟ノ競争力激増シ英仏等ノ産業ハ忽チ之ニ圧倒セラルベシ

(五)一度平和条約中ノ賠償条項ニ改廃ヲ加フルニ於テハ独逸ハ必ズヤ更ニ国境改訂其ノ他平和条約諸条項ノ改正ヲ要求スルニ至ルベシ

三、茲ニ於テ英國側ニ於テモ會議ノ決裂ヲ救フ為ヨリシテ其ノ賠償全廃主義ヲ多少変更セザルヲ得ザルコトナリ其ノ結果六月二十三日英仏代表間ニ次ノ四点ニ付意見ノ一致ヲ見タル旨二十四日午前ニ至リ議長ヨリ日、伊、白各首席代表ニ對シ個別的ニ内報スル所アリタリ（附屬書第一四号）

(一)本會議ニ於テ賠償問題ノ最終的解決ヲ為スコト

(二)解決案ハ「コンファイデンス」ノ恢復ヲ第一トスルコト

(三) 独逸ハ現在ノミナテ又其ノ恢復ニ必要ナル期間中支拂テ為シ得サルトト

四将来ノ支払如何ナル場合ニ於テモ無理ナル外貨支払等ノ方法ニ依ラズ飽迄自然ナル商取引ノ結果可能ナル方法ニ依リ之ヲ為サシムルコト

右英伝間話合ノ結果二

右英仏間話合ノ結果ニ基キ六月二十四日ヨリ独仏両国代表間ニ於テ直接交渉ヲ進ムルコトト為レルが二十四日ノ会商ニ於テハ主トシテ仏国代表ヨリ其ノ立場ヲ詳説スル所アリタリ即チ仏国側ニ於テハ前述ノ如キ諸理由ニ依リテ賠償帳消ヲ承諾シ得ザルノミナラズ景気回復ノ暁獨逸ガ一定額ノ支払ヲ為シ得ルコトハ次ノ如キ理由ニ依リテモ明ナル旨ヲ主張セリ

二)拙免豫算中二、二十億乃至三十億麻ソ夫業效務費ヲ計

(三) 独逸ノ多額ノ外国逃避資本ハ景氣恢復ト共ニ帰還スペシ

右仏國側ノ説明ニ対シ独逸側モ相當友好的態度ヲ示セル趣ナ

ノ本国ニテ諸方面ト打合ハシマツノ上、二十七日朝昇来シ同日午後猶仮全商事開セニレタル所、「アオントーハーベン」氏場佐前仙國

論ヲ刊敷セレコトハ也方二十七日伊国代表郡ガ啓賞長肖ヲ虫間セレ二十五日付「マクドナレド氏危急書ヲ巻長セレコ

トト相俟チテ一十七日ノ会談ニ於ケル独逸代表ノ態度ヲ硬化セシメ殊ニ一般ノ期待ニ反シ独逸側ヨリ賠償ニ関スル何等

具体的提議ナカリキ

六月二十七日ノ会商ニ於テハ先づ独立逸脱相「シユウエヨリン・フォン・クロシツク」併ニ独立逸脱候ノ立場ヲ説きシ次テ宰

卷之三

相ノ説明内容ヲ検スルニ独逸側ニ於テハ一方賠償帳消ノ絶対必要ヲ主張スルト共ニ他方歐洲復興案ヲ提議シ居レリ即チ

(一)先ツ賠償帳消ニ付テハ六月十四日仏國代表ノ拳ガタル諸反対理由ヲ左ノ通り反駁シ居レリ

(1) 聞得利潤ノ新男生ノヨリ名目間ニ於ケル不公平ナル轉變ノ後述ノ一概自歐洲復興言語中ニ於テ之カ才使體云發見スル

2) 働免則ニ於テハ、或賃主陪賞トノ直義閣系ヲ<sup>吉田</sup>認スレヲ導ゲレモ、欣州ニ於テ可<sup>シ</sup>ニ<sup>シ</sup>、建設内京津ニ到達スレニ<sup>シテ</sup>、長

國モ必ズ之ヲ支援スル態度ニ出ヅベシ

(3) 仏國側ニ於テハ、独逸経済ハ「インフレーション」ノ結果其ノ内債僅少ト為レルノミナラズ、戰後其ノ設備ヲ整備セル。

テ以テ賄儀執事ノ場合ニハ他國紹述ニ如シ恐ハベキ競争力ヲ増加スルニ至ルベシト主張スルモ此ノ主張ハ次ノ如キ

〔イノフノトヨノニエリ多賀ノ才能ヲ良夫コレ吉良自大更トレト貴ヲ負且ハレニ至ノリ〕虫免

(四) 他國ハ内債多シト謂フモ内債ノ元利支払ハ外債ノ夫レト異ナリ其レ自体ニ於テ国内經濟振興因子ヲ包含ン居レリ  
(五) 独逸ニ於ケル大工業（鉱山、金属、機械及化学各工業ノ如キ）ハ外資ノ力ニ依リテ其ノ設備ヲ改善セルモ重要ナル意義ヲ有スル中小工業ハ之ト事情ヲ異ニス

(二) 仮令工業的設備優秀ナリトスルモ之ガ運転ニ必要ナル資本涸渴シ居レリ  
(三) 独逸鉄道ハ其ノ積立金殆ドナキコト現在以上支出ヲ節約シ得ザルコト及他交通機関(自動車ノ如キ)トノ競争益々

激甚ナルコト等ノ理由ヨリシテ将来其ノ運賃ヲ引下グルコト困難ナル事情ニ在リ

(4) 狩邊「在日財産」一億兩、中所計送還資本ノ極ノ  
(5) 「コンフィデンス」恢復ニハ賠償帳消ヨリ外ナシ

(二) 次二歐洲復興案ニ付テハ左ノ如キ提案ヲ為シ居レリ

(1) 欧洲ニ於ケル穀物価格安定ノ為「ダニユーブ」諸国ノ農産物ニ対シ特惠関税ヲ与フル措置ヲ速ニ講ズル要アリ

(2) 東南部歐洲諸国ノ貨幣及財政ノ整理ヲ促進スルタメ独逸政府ハ共同資金ニ付協力スル用意アリ

(3) 奥太利救済ニ関スル聯盟財政委員会ノ勧告ヲ速ニ実行スベシ

(4) 右ノ如キ特別応急措置ヲ講ジタル後更ニ次ノ如キ一般の大問題ヲ解決スル要アルベシ

(イ) 國際間ニ於ケル資本流通ノ円滑ヲ図ルコト

(ロ) 通貨ノ金ニ対スル關係ヲ確立スルコト

(ハ) 其ノ他ノ通商阻害因子即チ輸入禁止「コンタンジヤン」及禁止的關稅等ノ排除ヲ図ルコト

五、越エテ六月二十八日午前午后ニ亘リ「マクドナルド」「フォン・ペーベン」「エリオ」三代表間ニ會談行ハレタルガ午前ノ会合ニ於テ独仏間ニ議論ノミ縁返サレ果シナカリシヲ以テ最後ニ「マクドナルド」氏ハ「フォン・ペーベン」氏ニ對シ独逸側ヨリ何等カ持出スベキモノナキヤトテ提案ヲ慇懃スル所アリ依テ午後ノ会合ニ於テ「フォン・ペーベン」氏ニヨリ独逸ハ何年カノ後經濟狀態ノ回復ノ曉一定額ノ支払ヲ為スコト同意スベシ但シ是ニハニ条件アリ即チ(一)賠償問題ハ今次會議ニ於テ終局的解決ヲ遂クルヲ要シ将来独逸ガ一定額ノ支払ヲ為スモ賠償トハ全然無関係ニシテ別個ノ性質ヲ有スルモノナラザルベカラズ(二)仏獨間ニ軍備平等ニ關スル協定ヲ締結セザルベカラズ、此ノ二条件ヲ伴ハザレバ人心ノ安定ヲ得難キヲ以テ如何ナル政府ト雖モ支払ヲ受諾シ得ザルベシト披露シタル所「エリオ」氏ハ之ニ絶対反対ノ態度ヲ示シ容易ニ承諾セズ議論一致ヲ見ル能ハザリシヲ以テ「フォン・ペーベン」氏ハ然ラバ問題ハ最早今次會議ヲ終結セシムル形式ヲ研究スル外ナシト述べタルニ「エリオ」氏ハ否々未ダ其ノ時機ニ非ズト言ヒ會議ノ終結ニハ留保ヲ為シテ午後ノ会談ヲ終リ更ニ二十九日引続キ独仏首相間ノ会談行ハレタルガ遂ニ仏獨間ニ於テ極メテ大綱ニ於テ意見ノ一致ヲ見ルニ至リ茲ニ俄然局面展開シ議長ハ急遽二十九日午後四時招請國代表会合ヲ招集シテ會議促進ノ策ヲ諮リ後述幹部会ヲ設ケテ独逸賠償問題解決具体案ヲ作成セシメ尚商務大臣委員会ヲ設ケテ一般經濟問題ヲ審議セシムルノ段取トナリタリ

## 第二項 幹部会ニ於ケル協議

前項所述ノ如ク対独賠償解決ニ関シ英、独、仏間私的交渉ニ依リ極メテ大綱ニ於テ意見一致ヲ見タル結果賠償解決具体案ヲ急遽作成スベキ任務ヲ以テ幹部会ハ六月二十九日午後六時其ノ第一回会合(本会会合場所ハ毎回共ニ「マクドナルド」議長ノ室ナリ)ヲ開キタリ「マクドナルド」議長当初ノ見込ニテハ既ニ大綱ニ於テ英、独、仏意見ノ一致ヲ見タル以上具體案ノ作成ハ一両日ノ短期間ヲ以テ完了シ得ベク六月三十日夕刻迄ニ幹部会ハ成案ヲ纏メ之ヲ會議ニ報告シ得ベシト云フニ在リシモ此ノ期待ハ全然裏切ラレ幹部会ノ審議ハ第一日ヨリ頗ル紛糾シ爾後屢々會議ノ危機ヲ醸シ殆ド連日連夜協議ヲ遂ゲ其ノ最終ノ会合ハ七月六日ニ及ベリ而シテ英國代表部ハ幹部会ニ臨ムニ先チ賠償解決ニ対スル一種ノ腹案ヲ有シ此ノ基礎ノ上ニ於テ幹部会ノ審議ヲ指導進捗セシムルノ用意ヲ有シタリ而シテ幹部会開会前津島ニ対シ内報セラレタル要旨ハ左ノ如シ

(一) 独逸ハ一定額ノ独逸政府五分利債券ヲ國際決済銀行ニ交付シ之ニ依リ賠償債務ハ全然消滅スルコト

(二) 右債券ハ少クトモ五年間無利子トシ

(三) 五年後独逸政府ノ既發外債ノ市価ガ五分利基礎トナリタル場合該銀行之ヲ市場ニ売出スコト

(四) 独逸ハ賣出済債券ニ対シテ元利支払ヲ為スコト

(五) 右債券金額ハ適當額ヲ考究決定スルコト

等ニ存シ此ノ腹案ニ依リ各國代表ノ意見ヲ調和按配スルニ於テハ議事ノ進捗ヲ図ルコト至難ナラザルベシト期待シタルモノノ如シ

然ルニ幹部会ハ右債券交付ノ方法ヲ採ルコトニ何等異議ナカリシモ右債券ノ条件ニ付テハ勿論特ニ金額ノ決定ニ付テハ意外ノ故障波瀾ヲ生ゼリ此ノ間ニ處シ議長及英國代表ハ終始不撓ノ精神、最善ノ努力ヲ以テ其ノ危機ヲ救ヒ又仏國代表ハ協調的態度ヲ持シテ具体案完成ニ貢獻セムトシタルコト特筆ニ値スト謂フベシ

今幹事会ノ議事経過及結果ヲ述アルニ当リ便宜上左ノ三段ニ之ヲ分ツベシ

### 第一、独逸ヲ加ヘタル六招請国幹部会

一、幹部会ハ当初二日間ハ独逸代表者ヲ加ヘテ六国代表ノ会合トナレリ即チ第一回会合六月二十九日午後六時第二回会合同日午後九時及第三回会合六月三十日午前十時半開催ノ会合ニ於テハ日、英、仏、伊、白代表ノ外独逸代表「クロジック」蔵相之ニ参加セリ

右第一回会合勞頭議長ヨリ同日迄ノ非公式内談ノ結果ニ関スル報告アリ即チ英、仏、独、三国代表間ニ於テハ

(イ) 独逸ハ現在ニ於テハ何等ノ支払ヲモ為スコトヲ得ザルコト

(ロ) 今後協定セラルベキ如何ナル支払モ年金ノ形ニ依ルヲ得ズ元金(Capital payment)ノ形ヲ採ラザルベカラザルコト及ハスル支払夫レ自体ハ支払ノ条件ニ付協定ヲ見ルニ於テハ独逸政府トシテ受諾スルコト不可能ニアラザルコト  
ノ諸点ニ付一致ヲ見タルガ其ノ支払ノ条件方法及金額ニ付テハ未ダ一致ヲ見ルニ至ラザル旨ヲ告ケ尚議長ハ仏国代表(英國代表モ同様ナリト思惟ス)ガ右支払ノ条件ハ財政的性質ノモノタルベク軍縮ノ如キ他ノ事項ニ亘ルモノタルベカラズト説キタル旨ヲ附言シ仏獨両代表ハ右議長ノ報告シタル処ヲ確認セリ依テ議長ハ茲ニ幹部会ノ問題ハ金額如何及其ノ支払ノ条件並方法如何ノ二点ニ局限サレタル次第ニシテ此ノ点ニ關シ諸代表ノ意見ヲ求メ速ニ解決具体案ヲ作成シ度シト述べタル處英國蔵相ハ之ニ策応シテ前述腹案ニ基キ独逸ハ國際決済銀行ニ対シ一定額ノ同國政府ノ債券ヲ交付スク右債券ハ一定ノ「モラトリアム」期間経過後独逸政府ノ信用回復セル場合ニ同行ヲシテ市場ニ売出サンマルノ考案ヲ開示シ仏獨両国代表其ノ主義ニ同意シ日、伊、白三国代表亦之ニ賛成シタルヲ以テ此ノ考案ニ依リ更ニ協議ヲ進ムルコトトナリタリ

二、第二回会合及第三回会合ニ於テハ右考案ニ基キ具体的条件ノ協議ヲ為スト共ニ金額ニ付テモ意見ヲ交換セリ而シテ最重要ナルハ金額決定ニ存スルコト言ヲ俟タズ此ノ点ニ關シ仏国代表ハ第二回会合ニ於テ独逸ハ所謂「フーヴァー」年金

ノ支払ヲ為ス外ニ六十億麻ヲ支払フベシトスルノ提案ヲ為セリ之ニ對シ独逸代表ハ其ノ額餘リニ尠大ナリト評シ而モ自ラ金額ヲ開示セズ即独逸代表ハ仏国案六十億麻ハ到底独逸ノ負担シ得ル處ニアラズ蓋シ其ノ利子五分及減債基金一分トシテ年三六〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇麻、「ドウズ」及「ヤング」公債元利払及対米支払「四〇、〇〇〇、〇〇〇麻及「フーヴァー・モラトリアム」ノ結果タル年金一九〇、〇〇〇、〇〇〇麻ヲ加算スルトキハ独逸ノ對外支払年額ハ七九〇、〇〇〇、〇〇〇麻ノ巨額トナリ「ヤング」年金ノ約半額ニ及ブベク物価低落ヲ考慮スルトキハ「ヤング」年金ニ比シ負担ノ輕減ナクスノ如キハ独逸ノ信用ヲ破壊スベキヲ以テ受諾シ得ズトキハ「ヤング」年金ニ比シ負担ノ輕減ナクステ提示方要求シタルモ独逸代表ハ之ガ提示ヲ肯ゼズ其ノ理由トスル処ハ金額ノ提示ニハ先づ幾多未決ノ案件決定ヲ要ス即チ「ドウズ」及「ヤング」兩公債ノ元利払ハ當然為サザルベカラザルモ  
(イ) 「フーヴァー・モラトリアム」ニ基ク年金支払ヲ如何ニスベキヤ  
(ロ) 混合請求ニ関スル対米支払ヲ如何ニスベキヤ  
(ハ) 独逸ハ通貨安定ノ援助ヲ受ケ得ベキヤ更ニ最モ重大ナルハ

(二) 対米戦債交渉如何ニ依リテハ本會議ノ解決ハ終局的タルヲ得ザルニ非ズヤ  
等幾多未定且不安ノ問題アリ之ガ決定ヲ見ザレバ金額ヲ提示スルコト能ハズト為セリ右ニ對シ債権国代表ヨリハ右(ロ)ノ如キハ米国政府ノ関与ナキ今回會議ニ於テ決定シ難シ又右(ハ)ニ付テハ其ノ趣旨ヲ解スルニ苦ム処ナリ又右(ニ)ニ付テハ今回會議ノ決定ハ対米戦債ニ関スル解決ヲ伴ハザル故一種ノ条件付タルベキコトハ事態ノ性質ニ徴シ免レ難キ処ナリト反駁セルガ独逸代表ハ独逸ガ一定金額支払ヲ主義上承諾シタルハ此ノ支払ガ最終的ニシテ将来生ズルコトアルベキ事態ノ推移如何ニ依リ変更ヲ受ケザルコトニ存ス然ルニ若シ米国政府ノ戦債ニ對スル態度及対米交渉結果如何ニ依リ将来独逸支払額ヲ追加要求セラルルガ如キコトアリトセバ今回ノ決定スペキ金額ハ最終的ニアラズ依テ独逸ハ右ノ意味ニ於テ今回支払ハ最終的ナリトノ保障ヲ得ルニアラザレバ金額ヲ開示シ得ズト固持シテ動カズ

三、第三回会合ニ於テモ独逸代表ニ対シ金額ノ提案ヲ求メ數次ニ亘リ議長始メ債権国側代表ヨリ説得是努メタルモ独逸代表ハ其ノ所見ヲ繰返スノミニシテ何等議事進展ヲ見ズ遂ニ独逸代表ノ再考ヲ求メタル為独逸代表ハ退席シ債権国側ノミニ引続キ協議セリ其ノ後独逸代表ハ本問題ニ関シテ同僚ト協議シタル結果第四回会合（六月三十日午後）ニ於テ此ノ点ハ再考ノ餘地ナキ旨ヲ通報ノ上退席セリ

以上独逸代表ヲ加ヘタル幹部会ハ支払条件ニ付テハ輪廓ヲ議シタルニ過ギズ又金額ニ付テハ仏國側ノ提案アリタルノミニ二権国幹部会ノ形式ヲ採リ金額問題並支払条件ニ付債権国側一致案ヲ作ルコトトナリ之ガ為左記会合ヲ開催セリ

## 第二、債権国代表ノミノ幹部会

一、以上ノ経過ニ鑑ミ幹部会ハ議事促進ヲ図ル為六月三十日午前第三回会合ニ於テ独逸代表退席後ハ独逸代表ヲ除外シ債権国幹部会ノ形式ヲ採リ金額問題並支払条件ニ付債権国側一致案ヲ作ルコトトナリ之ガ為左記会合ヲ開催セリ

六月三十日	午前	第一回債権国幹部会
同 日	午後	第二回 ノ
七月一日	午前	第四回 ノ
同 日	午後	第三回 ノ
七月二日	午後	第五回 ノ
		第六回 ノ

抑々金額及条件ハ或ル意味ニ於テ閥聯セルヲ以テ両者区分討議シ難キモノアリ從テ右諸会合ニ於テハ時ニ条件ノミヲ論ジ時ニ金額ノミヲ議シタルモ機ニ及ビ両者閥聯協議ノ題目トナリシコトアリ然レドモ以下便宜上先ツ主トシテ条件ニ関スル協議ノ経過ニ付述べ次デ金額ノ問題ニ及ブベシ

## 二、支払条件

獨逸ノ支払フベキ債券ノ条件其ノ他ニ閥シテハ英國側ハ討議ノ便宜ニ資スル為第三回会合ニ於テ同國専門家ノ作成セル債券条件試案ヲ提示セリ依テ幹部会ハ本試案ヲ基礎トシテ審議セリ右試案ノ全文左ノ如シ

「獨逸政府ハ戦争ニ由来スル債務ノ最終解決トシテ且歐洲復興ノ共同事業ヘノ醸出トシテ左記取極ノ下ニ売出サルベキ独逸政府五分利付債券（金額未定）ヲ國際決済銀行ノ処分ニ委センコトヲ提議ス

(一) 國際決済銀行ハ受託者トシテ債券ヲ保有スベシ同行理事会ノ決議ハ全会一致ナラザルベカラズ

(二) 債券ハ本協定署名ノ日ヨリ五年ヲ経過スル迄ハ國際決済銀行ニ依リ売出サレ又ハ処分セラレザルベシ

(三) 其ノ後國際決済銀行ハ可能トナリタル場合ニハ其ノ適当ト思惟スル額ニ拠リ債券ヲ市場ニ売出ス権利ヲ有スベシ但之ガ為ニハ既存外債ノ市場相場ニ依リ評定セラレタル同國ノ信用ガ五分利基礎以上ニ在ルコトヲ要ス

(四) 債券ハ売出サレタル日ヨリ五分ノ利子ト一分ノ減債基金トヲ伴フベシ右ハ總テ独逸現在及将来ノ租税ヲ免除セラルベシ

(五) 債券ノ手取金ノ四分ノ一ハ中部及東部「ヨーロッパ」ノ利益ノ為ノ特別勘定ニ又四分ノ三ハ債権国ノ戰債債務ニ充當スル為特別勘定ニ払込ムベシ但戰債賠償ノ総括の帳消ノ場合ニハ此ノ債券モ亦廢棄セラルルモノト了解セラルベシ此等規定ノ適用ノ為ニ債権国政府間ニ細目ノ取極ヲ為スベシ

(六) 債券売出ヲ了スル迄独逸政府ハ國際決済銀行ノ同意ヲ得ル外市場ニ於テ外債ヲ発行セザルコトヲ約ス

(七) 國際決済銀行ハ發行セラルベキ債券ノ表示通貨及金額ニ閑スル總テノ問題並發行諸掛及費用（銀行ハ之ヲ發行手取金ヨリ控除スル権利ヲ有スベシ）ニ閑スル總テノ問題ヲ決定スル権利ヲ有スベシ」

右試案中

## 第一項

國際決済銀行ヲ債権国ノ受託者トシ独逸ハ同行ニ債券ヲ交付スルコトニ付テハ各國代表共異議ナク決定セルモ同行理事

会ノ決議ガ全会一致タルベシトノ原案ニ対シテハ仏國ハ強硬ニ反対セリ蓋シ仏國ノ懸念スル所ハ同行理事会ニハ独逸理事存ス若シ本債券ノ売出其ノ他ニ関シ全会一致ヲ要ストセバ独逸一理事ノ反対ニ依リテモ其ノ実行ヲ阻止セラレ解決案全部ヲ円満ニ施行スルヲ得ザルベシト云フニ存セリ而シテ仏國ハ理事会決定ハ単純ナル過半数ニ依ルベシトスル修正案ヲ提議シタルガ英國側ハ独逸側ガ仏國修正案ヲ受諾セザルベシトテ原案ヲ支持シタルモ結局理事会ハ独逸「ライヒスバンク」總裁ノ意見ヲ徵スルコト但シ決定ハ過半数ニ依ルコトニ衆議一決セリ

## 第二項

債券売出開始時期ハ本協定ノ日附ヨリ五年後トセル原案ハ五年ノ「モラトリアム」ヲ認メムトスルノ趣旨ニシテ其ノ期間ニ関シテハ仏國ハ長キニ失スト為シ結局三年ニ決定セリ

## 第三項

債券売出期間後ニ於ケル売出制限規定ニ関シテ英國原案ノ如ク独逸政府既發公債ガ五分利基礎以上ノ場合ニ限定スルハ独逸既發公債ノ現在市価並将来市場ノ改善ヲ考慮ニ入ルモ到底實現ノ可能性ナシトテ諸国代表間異議多ク之ガ制限緩和ノ方法トシテ本債券ガ五分利發行価格九十以上ニテ發行シ得ル場合ハ之ヲ賣出シ得ルコトニ修正決定シタリ

## 第四項

本債券ハ売出済ノモノニ付利率五分減債基金一分ヲ附スルコト及免稅条項ニ関シテハ大体異議ナカリシモ仏國ハ支払猶豫期間経過後ハ仮令賣出前ト雖モ利子及減債基金ヲ附スベシト主張シ英國側ハ斯テハ「ヤング」案ノ年金支払制度ヲ減額存置スル形トナリ市場ノ狀況、独逸信用ノ回復程度如何ニ関係ナク独逸ヲシテ支払ヲ為サシムルコトトナリ主義上面白カラズトシテ原案ヲ支持シ諸国代表之ニ贊同シ遂ニ仏國ハ讓歩セリ因ニ本件ニ於テ仏國側讓歩ノ代償トシテ英國側ハ前記第二項「モラトリアム」期間ヲ三年ニ短縮スルコトニ譲歩シタル次第ナリ

## 第五項

本債券ノ手取金ノ処置ニ關シ原案ハ其ノ四分ノ一ハ中部及東部歐洲ノ復興資金ニ、残四分ノ三ハ戰債支払ニ充當スルコト規定セリ右ハ独逸側ハ今次ノ支払ハ賠償トハ別ニ歐洲復興資金ヲ提供スルモノナリトノ建前ヲ採り居リタルコト及之ニ依リ小國側ノ不平ヲ緩和調節セントシ尚大部分ヲ戰債支払ニ充當セムトスルモノニシテ本邦側トシテハ歐洲復興ニハ直接ノ利害關係ナク又戰債ヲ有セズ從テ若シ原案ノ如ク之ヲ決定スルトキハ本邦ニトリ不公正ノ結果トナルベク本代表等ハ分配問題ニ關シテハ最善ノ注意ヲ払ヒ其ノ態度留保ヲ声明シ來リタルガ結局時日切迫シ且此際之ヲ論ズルトキハ論議紛糾ノ懼アルノミナラズ豫メ之ヲ決定シ置クハ対米戰債交渉上却テ不便不利アルベキモ慮リ英國側ハ本邦代表ノ本件言及ヲ機ニ之ヲ撤回シ本債券手取金ハ特別勘定ニ繕入レ将来適當ノ時期ニ債權国間ニ取極ムルコトニ改メタリ（詳細ハ第三章第一節ノ逐條説明參照）

## 第六項

独逸外債發行制限ニ關スル原案ニ付テハ諸国代表ハ恐ク独逸側トシテ受諾困難ナルベシトシテ独逸ノ外債發行ニ付特殊ノ制限ヲ設ケザルモ若シ外債又ハ政府保證外債發行ノ場合ニ於テハ本債券ノ償却促進ニ資スル為其ノ手取金ノ三分ノ一ヲ未ダ売り出サザル本債券ノ買戻ニ充当セシムル考案ニ決定セリ

## 第七項

本項ニ關シテハ各國代表異存ナク之ニ決定セリ

## 三、金額

独逸ノ引渡スベキ債券ノ金額ニ付テハ仏國側ハ既ニ前記第一ニ述べタルガ如ク「ドウズ」「ヤング」兩外債ノ支払及「フーヴア」年金ノ支払ハ別個ノモノトシテ六十億麻ヲ提案セルガ債權国幹部会ニ於テ英國ハ其ノ専門家ノ計算ヲ基礎トシ独逸ノ信用ヲ害スルコトナク合理的且公正ナル金額トシテ四十億麻ヲ提案セリ尤モ「ドウズ」「ヤング」兩外債ノ元利払ハ當然独逸ニ於テ負担スベキモ「フーヴア」年金ハ右四十億麻中ニ包括処弁セラルベキモノナリト説明セリ

茲ニ於テ諸国代表ノ間ニ於テ金額ニ閑スル具体的意見交換ヲ見ルニ至リタルガ「フーヴァー」年金ヲ別個ノ支払ト為スヤ或ハ新債券ニ包含セシムルヤハ自ラ金額決定ニ影響スルヲ以テ此ノ点ヲ先決問題トスルノ必要ヲ生ジタリ

此ノ点ニ関シ仏国代表ハ別個支払説ヲ主張シ伊太利又之ニ和シ本代表等ハ分配問題未決ノ状態ニ在ルモ四開ノ情勢上戰債並歐洲復興資金ニ充当セラレ各國ノ純手取金分配ノ問題ノ如キ実現困難トナリタル場合ヲ考慮ニ入レ一面「フーヴア」年金ハ本邦ニ於テモ既ニ實際上其ノ一部ヲ取得シ居レルヲ以テ該年金ヲ存続シテ独逸ノ負担ヲ調整スルヲ可トスベシトノ解決スルノ途ナリトノ見地ヨリ仏伊ノ主張ヲ支持シ新債券ガ市場売出ヲ目的トスルニ鑑ミ國際金融市場ニ対スル圧迫ヲ緩和スル上ニ於テモ之ヲ成ルベク少額ニ定メ他方「フーヴァー」年金ヲ存置シテ独逸ノ負担ヲ重カラシムベシト説キ自國提案四十億麻ヲ固執セリ

以上ノ如ク金額問題ニ付種々ノ意見交換ノ後仏国代表ハ上記支払条件ノ決定セルモノニシテ変更セラレザルニ於テハ金額ニ於テ左ノ如ク讓歩スベシト提案セリ

即チ

(イ)「フーヴァー」年金ヲ包括セシムルトセバ債券総額五十億麻

(ロ)「フーヴァー」年金ヲ別個ニ支払フモノトセバ債券総額四十億麻

但「フーヴァー」年金ノ支払モ三年間之ヲ猶豫スルコト

右ハ仏国讓歩ノ第一歩ニシテ其ノ後種々曲折ヲ経タル後仏国ハ英國案即「フーヴァー」年金ヲ包括シテ債券総額ヲ四十億麻トスルコトニ同意スルニ至リタリ

右金額討議ニ当リ伊太利ハ常ニ仏国ト反対ノ立場ヲ採リ特ニ戰債問題ニ閑スル英仏間ノ交渉ニ自國ノ除外サレタルコトニ付内心不滿ヲ感ジ金額ノ協議ニ当リ賠償帳消ノ根本方針ヲ縷述シ又ハ二十億麻以上ニ金額ヲ決定スベカラズト説ク等

極メテ非妥協的態度ヲ示ス處アリタルモ結局債権国幹部会ハ英國提案タル四十億麻ニ意見一致ヲ見一応金額問題ヲ決定セリ

四、以上ノ経過ヲ経テ七月一日夜条件並金額ニ閑スル債権国側ノ一致案ヲ得タリ依テ之ヲ文書ニ認メ議長ヨリ独逸側ニ手交シ其ノ受諾ヲ勧奨スルト共ニ独逸側ノ意見ヲ聽取スベキ段取トナリ議長ハ七月三日午前此ノ手続ヲ採リタリ

右文書ハ「独逸国債券ニ閑スル計画」ト称シ其ノ後独逸ノ要求ニ基キ多少其ノ内容ニ追加修正ヲ見タルモ独逸国トノ協定ノ骨子トナレルモノナルニ付茲ニ其ノ全文ヲ掲グベシ（附屬書第十六号参照）

「 独逸国債券ニ閑スル計画

独逸国政府ハ國際決済銀行ニ左記条件ノ下ニ売出サルベキ現在ノ標準量目及純分ノ四十億金麻ノ独逸国政府五分利付債還債券ヲ交付スベシ

(一)國際決済銀行ハ受託者トシテ之ヲ保有スベシ

(二)債券ハ本協定署名ノ日ヨリ三年経過前ハ國際決済銀行ニ依リ売出サレザルベシ

(三)其ノ後國際決済銀行ハ可能ナルニ從ヒ一般發行ノ方法ニ依リ市場ニ其ノ適當ト思惟スル額ニ依リ本債券ヲ賣出スベシ但發行ハ九十「パーセント」未満ノ割合ニ於テハ行ハレザルベシ

(四)本債券ハ賣出サレタル日ヨリ五分ノ利子及一分ノ減債基金ヲ伴フベシ右ハ現在及将来ノ総テノ独逸ノ租税ヲ免除セラルベシ

(五)發行セラレタル場合ノ本債券ノ手取金ハ特別勘定ニ繰リ入レラルベク其ノ分配ハ適當ナル時期ニ債権国諸政府間ニ更ニ協定スル所ニ依リ決定セラルベシ

(六)若シ何等カノ外債が独逸国政府ニ依リ又ハ独逸国政府ノ保證付ニテ起債セラルルトキハ独逸国政府ハ其ノ起債ノ純金手取金ノ三分ノ一相当額ヲ國際決済銀行ニ依リ保有セラルル本債券ノ買入ニ充当スル為ニ提供スベシ其ノ買入価

格ハ右ノ如ク買入ル本債券ノ利廻ガ右起債セラレタル公債ノ純利廻ニ等シキモノタルガ如クナルベシ

(七)若シ五年ノ経過後ニ於テ国際決済銀行ガ独逸国政府ノ信用回復セリト思惟スルニ拘ラズ而モ其ノ公債ノ相場ガ上記

第三項ニ定メラレタル最低発行価格未満ニ止リ居ルトキハ最低発行価格ハ国際決済銀行独逸国政府ト協定ノ上之ヲ  
変更スルコトヲ得国際決済銀行及独逸国政府間ニ何等カノ紛議ヲ生ジ協定ヲ見ルニ至ラザルトキハ仲裁ニ附スベシ

(八)国際決済銀行ハ発行セラル本債券ノ通貨及券面額ニ関スル一切ノ問題ヲ決定スル權能ヲ有スベク国際決済銀行ハ  
右負担及費用ヲ発行手取金ヨリ控除スルノ權利ヲ有スベシ本債券ノ発行ニ関スル如何ナル問題ヲ考慮スルニ当リテ

モ国際決済銀行ハ「ライヒス・バンク」總裁ノ意見ヲ徵スベシ但決定ハ多数決ニ依リ為スコトヲ得

五、債権国一致案ノ成立ニ至ル迄ノ経過ニ関シ茲ニ一言ヲ附加スルノ要アル事項アリ今回ノ対独賠償解決ト戦債問題トノ  
関係即之ナリ既ニ本項第一ニ於テ述ベタルガ如ク独逸ノ根本的主張タル独逸支払ノ最終的性質ヲ今回協定ノ上ニ於テ承  
認スルニアラザレバ独逸ハ金額ノ問題ヲ考慮商議スルヲ得ズトノ強硬ナル立場ヲ採リ居リ此ノ点ニ付テ債権国側モ独逸  
ヲ説得スルコト困難ナルニ鑑ミ之ガ対策ヲ講ジ此ノ難問ヲ突破スルノ要アリタリ幹部会ハ此ノ難問解決ノ為ニ多大ノ苦  
心ヲ要シタルガ結局独逸国トノ協定ニ於テハ独逸ノ主張ヲ承認シテ戦債關係ニ何等言及セズ從テ独逸ノ支払ハ最終的ナ  
リトスル解釈ヲ下シ得ルノ立前ヲ採ルコトスルモ他方債権国側ガ戦債改訂交渉ニ於テ満足ナル結果ヲ得ザリシ場合本  
協定ノ実施ヲ見ルニ至ルガ如キ不安ナル地位ヲ防止スル為債権国内部ニ於テ右協定ノ批准ヲ差控フルノ申合ヲ為シ以テ  
本協定ナカリシ以前ノ状態ニ復帰セシメ得ルノ法律的地位ヲ確保スルト共ニ万一国内輿論ノ反対アル場合ニ之ガ弁明ノ  
途ヲ開キ置クコトトシ茲ニ所謂紳士的申合ナルモノヲ工夫スルニ至リタリ右申合ハ先づ英仏間ニ内談ヲ交ヘ七月二日午  
後ノ幹部会ニ於テ議題トナリ各國代表之ニ賛意ヲ表シ本邦代表ハ戦債ヲ有セザル特殊ノ地位ヲ説明シタルガ結局英、仏、  
白、伊代表ハ七月二日附議事録トシテ之ニ「イニシアル」ヲ附シ此ノ難問ニ對スル解決ノ途ヲ講ズルヲ得タリ本件詳細  
ニ関シテハ後掲第六項「独逸国トノ協定批准ニ關スル紳士的申合」中ニ之ヲ記述セリ

尚対米戦債ハ暫ク措キ対英戦債ニ付テハ英國政府ガ今回国議ニ参加セルヲ以テ之ガ解決ニ關シ其ノ債務国タル仏伊両国  
ハ一種ノ取極ヲ為シ以テ其ノ地位ヲ明確ニスル處アリ此ノ点ニ關シテモ後掲紳士的申合項下並第三章第三節ニ於テ説明  
ヲ加ヘタルニ付茲ニ之ヲ詳述セズ

### 第三、債権国一致案成立後ノ幹部会

一、前記債権国一致案ハ議長ヨリ独逸代表ニ対シ七月三日午前十時之ヲ提示シ其ノ結果独逸宰相其ノ他代表者ハ本案ニ付  
考慮スルコトトナリタルガ同日午前十時半債権国幹部会ヲ開催シ議長ヨリ独逸代表トノ右会談經過ニ付左ノ通報告アリ  
即先ツ議長ヨリ昨日決定ノ金額及条件ヲ提示シタルニ独逸首相ハ自分トシテモ速ニ最終的解決ニ達セシメ度希望アリト  
述ベタル後左ノ二問ヲ提出セリ

(一)若協定ヲ作ル場合例ヘバ最終議定書等中ニ対米戦債解決ト本支払トノ間ニ何等カノ牽聯關係アル如キ趣旨ヲ記入スル  
ヤ

(二)此ノ四十億麻ノ支払ハ賠償ノ名儀ニ於テスルモノナリヤ或ハ之ト異リタル支払義務ナリヤ

右ニ対シ議長ヨリ第一点ハ全然議定書等ニ於テ言及セザルベシ蓋シ対米戦債トノ関係ヲ明示スルトキハ米国輿論ヲ刺戟  
シ不利ナル結果ヲ誘致スル虞アリ第二点ニ付テハ今後ノ支払ハ賠償ノ名儀ヲ捨テ全然新ナル名儀ニ依ルコトシ此ノ際  
賠償債務ヲ一掃シ度シト答ヘタルニ独逸首相ハ之ヲ諒承シタル上全額四十億麻ニ付テハ異存アリ何トナレバ独逸ハ目下  
危急状態ニ在ルヲ以テ若独逸側ニ於テ此金額ヲ受諾セルコトヲ国内ニ發表スルトキハ条件ノ内容ヲ諒解スル暇ナク国論  
沸騰混亂ニ陥リ過激派ノ支配ヲ現出スルコト明ナルヲ以テナリト述ベタリ茲ニ於テ議長ハ特ニ考慮ヲ要シ度キハ債権国  
側ノ情勢ナリ若四十億麻ヲ下ルトキハ仏國「エリオ」内閣ノ如キハ輿論ノ攻撃ニ堪工得ズシテ崩壊スベク其ノ結果ハ他  
ノ重大会議モ不成功ニ陥リ遂ニ收拾スベカラザル事態ニ立到ルベシト述ベタルニ独逸首相ハ金額及条件ニ付充分協議シ  
タル上追テ回答スペシトテ辞去セリ

一、独逸代表ハ慎重熟議ノ結果七月三日午後五時議長ニ対シテ回答ヲ齎シタルヲ以テ同日午後六時債権国幹部会ヲ再開シ議長ヨリ独逸回答ニ閲スル報告アリタルガ其ノ要点ハ独逸代表ハ財政的見地ヨリモ寧ロ国内輿論ニ対スル關係上四十億麻ノ金額ハ到底承認シ得ザルモ二十億麻トスルニ於テハ承認スルコト困難ニアラザルベキ旨ヲ回答スルト共ニ独逸代表ハ独逸政府ノ債券ヲ交付スベシタル債権国一致案ニ対シ代案トシテ一括支払ニ代へ現在価格二十億麻ヲ年金ノ形式ニ改メ

(イ)三年ノ「モラトリアム」期間経過後十年間毎年二億五千万麻ノ年金ヲ支払フカ又ハ

(ロ)三年ノ「モラトリアム」期間経過後三十七年間毎年一億二千万麻ノ年金ヲ支払フカ

何レカノ案ヲ考慮セラレ度旨ヲ申出デタリト云フニ在リ右報告後議長ハ独逸側ノ回答ニ対スル各國代表ノ意向ヲ徵シタルニ債権国幹部会トシテハ独逸代表ノ提示金額二十億麻ハ到底受諾シ得ズ又其ノ代案モ考慮ノ餘地ナシ即チ

(イ)独逸ハ国内輿論反対ヲ最大理由トスルモ二十億麻ト四十億麻トノ差異ハ左マデ大ナラズ之ガ為国内紛糾ヲ生ズトハ信セラレザルコト

(ロ)債権国一致案ハ一定年限後必ズ支払ヲ為スベシト云フニアラズ信用回復シ債券売出可能ニ至ル迄支払猶豫ヲ継続シ得ルヲ以テ独逸代案ニ比シ一層有利ナルコト

(ハ)三年後直ニ支払ヒ得ベシト云フ独逸代案ハ独逸代表從来ノ主張ト矛盾スルコト

(イ)独逸從来ノ政府ノミナラズ特別諮問委員会等モ独逸ハ現在ノミナラズ当分支払不可能ナリト云フニ拘ラズ三年後直ニ支払ヒ得ト云フトキハ独逸代表ハ德義上頗ル重大ナル責任ヲトル結果トナルベキコト

等ノ理由ニ依リ之ニ反対スベキコトニ一致セリ

依テ議長ハ右幹部会ノ意嚮ヲ齎シ翌四日早朝独逸宰相「フオン・ペーベン」氏ト会見シ債権国側一致案ノ受諾ヲ説得スル處アリタルモ独逸側ハ之ヲ受諾スルニ至ラズ

三、茲ニ於テ四日午前十時半債権国幹部会ヲ開キ議長ハ右ノ経過ヲ報告シ會議ハ今ヤ重大ナル難関ニ遭遇シタルヲ告ゲ尚

又英國諸代表ハ「オッタワ」會議開催期トノ關係上其ノ週内（九日迄）ニ是非共帰英スルノ要アルヲ説キ頗ル焦慮ノ色アリタルガ偶々此ノ重大事態ニ処シ仏國首相「エリオ」氏巴里ニ赴キ不在ナルヲ以テ仏國側トシテハ七月五日「エリオ」氏帰來迄交渉ヲ進ムルヲ得ザル立場ニ在ルヲ報ジ幹部会ハ其ノ儘散会セリ

四、七月五日「エリオ」氏帰來ト共ニ英、独、仏間ニ私的交渉ヲ開キタルモ依然トシテ局面好転ノ兆ヲ見ルニ至ラザリキ右私的交渉ノ難関ハ金額ノ問題ニ存スルガ他方独逸代表ハ金額増加（二十六億麻迄ヲ承諾スルト共ニ平和條約第二三一条削除及軍備平等ニ関スル政治条件ヲ固執シ仏國ハ之ニ絶対反対シタル為事態一層紛糾シ會議中最大ノ危機ヲ生ジタリ五、茲ニ於テ議長ハ六日午後四時独逸代表ヲ加ヘタル幹部会ヲ招集シ議長トシテハ今日迄最善ヲ尽シ解決ニ努メタルモ今ヤ策ノ施スベキモノナク此ノ儘會議ヲ解散スルノ外ナキ事態ニ立チ至レリ然レドモ會議決裂ノ影響ヲ考慮スルトキハ各代表ノ責任餘リニ重大ナリ此ノ難局ヲ打開スベキ方途ニ付茲ニ各代表ノ意見ヲ求ムル次第ナリトテ頗ル悲壯ノ演説ヲ試ミ特ニ利害關係深甚ナル仏獨両代表ノ所見ヲ徵スル所アリタルガ仏國代表ハ協調ノ精神ヲ以テ最善ノ努力ヲ継続スベシト答ヘ又独逸代表ハ金額問題ニ付全ク行詰リヲ生ジ居ルモ独逸ハ或種ノ条件ヲ附スルニ於テハ二十六億麻迄之ヲ増加スルコトヲ申出デ以テ妥協ノ精神ヲ示セリ依テ議長ヨリ仏國側ニ於テモ讓歩セラルコト可然ト思惟スル処要スルニ金額問題ニ閑シテハ六国首席代表ノ協議ニ譲ルコトトシテハ如何尚又債券条件ニ閑シテハ独逸側ニ於テ修正ヲ希望スル点相当存スルニ付直ニ各國専門家ヲシテ之ヲ研究セシメ成案ヲ得ルコトト致シ度トノ二点ニ付提議シ一同此ノ提議ニ賛成シ茲ニ會議ノ破綻ヲ防止シ即刻六国首席代表会合及専門家会合ヲ開クコトトナリタリ

首席代表会合ノ経過ニ付テハ次項ニ之ヲ述アベシ

六、右専門家会合ニ於テハ独逸側提示ノ債券条件修正意見ニ付審議シタル結果債権国一致案ニ多少ノ修正追加ヲ施スコトナリタリ其ノ主要点左ノ通り

(イ) 独逸側ハ国際決済銀行ガ例ヘバ十年経過後尚売出シ得ザル債券ハ之ヲ廃棄スルコトトベシト主張シ仏国側ハ期限ヲ二十年トスルニ於テハ同意スルモ差支ナシト云ヒ結局期限ヲ十五年（協定調印ノ日ヨリ起算シ）トスルコトトセリ

(ロ) 独逸側ハ国際決済銀行ノ未ダ売出サザル債券ハ額面ニ依リ買戻シ得ベク又債券売出ニ当リテハ適当期間後買戻權ヲ認ムベシトスル旨ノ規定ヲ加フルコトヲ要求シ債権国側之ヲ採用セリ

(ハ) 独逸政府ノ外債又ハ保證外債發行抑制ニ関スル条項ニ関シテ独逸側ハ中期及短期ヲ除外スベシト主張シタルモノ仏国側ハ中期ノモノノ除外ニハ反対シ結局一年未満ノ短期ノモノノミヲ除外スルコトトセリ

(二) 最低發行価格変更ニハ独逸側絶対ニ反対シ結局国際決済銀行理事会三分ノ二ノ多数決ヲ要スルコトヲ明記シタリ

(ホ) 債券売出ガ五分利未満ニテモノ行ハルル場合ニハ独逸政府ノ要求ニ依リ利率ヲ五分未満ニ引下グルコトヲ得ル規定ヲ加フルコトトセリ

尚右ノ外別ニ条文ハ修正セザリシモ其ノ解釈ヲ明ニスル為七月八日、英、仏、独、白、伊大蔵省専門家ハ一ノ議事録ニ署名シ「独逸政府ノ債券ノ發行ハ独逸ノ信用ノミヲ基礎トスルニアラザレバ行ハレザルベキコト」ヲ明ニセリ右ハ發行価格ヲ高ムル為又ハ例ヘバ米国政府ヘノ戰債ニ充当スル為債権国ニ於テ裏書シテ發行又ハ交付スルコトヲ妨ゲントスル独逸側ノ意嚮ニ出ヅルモノナリ（附屬書第一三号）

### 第三項 招請国首席代表ノ会合

前項ニ述ベタル如ク独逸ノ支払金額ヲ協議決定スベキ招請国首席代表ノ会合ハ六日午後六時半開催シ議長ヨリ會議停頓ノ事態ヲ述べ此ノ難局打開ノ為各国代表ノ協力ヲ得度シトシ意見ヲ求メタルニ英國代表「チエンバーレン」氏ヨリ仏獨両國ハ最大利害關係国ニシテ自ラ提案スルコト困難ナルベケレバ仏獨以外ノ代表ニテ協議スルコトシテハ如何トノ提議ヲ為シタルガ白国代表ハ先ツ債権国一致案タル四十億麻ハ極メテ穩当ナルモノニシテ独逸側ノ受諾困難ナリト云フノ理由ヲ發

見シ得ズト為シ仏国代表「エリオ」氏ハ四十億麻ノ穩當ナルコト及之ガ為仏国ノ払フベキ犠牲ノ大ナルコトヲ述べ然レドモ會議決裂ヲ避クル為若シ独逸側ガ所謂「フーヴァー」年金支払又ハ償還ニ同意スルニ於テハ債券ノ金額ニ付更ニ考慮ヲ加フベシト提議セル処独逸代表「ファン・ペーベン」氏ハ独逸ノ要求ハ賠償問題ノ最終的解決ニ依ル人心ノ安定景氣ノ回復ニシテ戰債ト賠償トノ關係ヲ否認スル立場ニ在ルコトハ屢々述べタル如クナルガ債権国側ノ提案ハ対米戰債交渉トノ關係明瞭ヲ缺キ独逸ノ要求セル政治的条件ヲ否認スルモノニシテ之ニ依リ人心ノ安定ヲ期シ難キヲ以テ応諾シ得ザルモノナリト為シ讓歩セズ

次デ同日午後九時半再会合、議長ハ事態斯ノ如キ以上會議終結ノ方法ヲ考慮スルノ外ナカナルベシト述べ各國代表ノ意見ヲ求メタルニ白国代表ハ此ノ儘會議終結ニハ賛成シ得ズトシ伊国代表ハ何トカ會議ヲ纏メ度シトシ吉田ハ日本代表トシテハ四十億麻ニ賛成セル以上其ノ言責ヲ取ルヲ辞セザルモ此ノ際何トカ解決ヲ希望スル旨述ベタルニ其ノ後何人モ意見ヲ述アリテハ如何ト述ベタルニ議長ハ自ラ發案スルハ極メテ困難ナルモ結局本問題ハ其ノ中心タル仏獨両國代表ニ於テ歩ミ寄ルモノナカリシヲ以テ英國代表「チエンバーレン」氏ヨリ議長ノ公平ナル態度ハ何人モ認ムモノナレバ議長ヨリ提案アリテハ如何ト述ベタルニ議長ハ自ラ發案スルハ極メテ困難ナルモ結局本問題ハ其ノ中心タル仏獨両國代表ニ於テ歩ミ寄ルノ外ナカルベシト切出シタル処仏国代表「エリオ」氏ハ之ヲ三十億麻ニ歩ミ寄ルモノト解シ大ニ激昂シ債券売出ノ条件コソ重大ナルヲ以テ關係文書ヲ検討シタル上ニアラザレバ即答シ難シトシ議長ヨリ三十億麻ノ意味ニアラザルコトヲ釈明シ独逸代表「ファン・ペーベン」氏ハ此儘會議ヲ決裂セシムルハ本意ニアラザレハ仏国代表ノ關係文書検討ヲ俟テ更メテ会合シ度シトシ何等決定ニ至ラズ散会シ金額問題ハ再ビ内交渉ニ移リタリ

### 第四項 解決案ノ成立

一、前項所説七月六日夜ノ招請国首席代表ノ会合ニ於テハ金額問題ヲ決定シ得ルニ至ラザリシ為主トシテ英國代表斡旋ノ下ニ仏独間ノ内交渉ニ移リ七日ノ如キハ終日交渉ヲ繼續セルノミナラズ翌八日ノ払暁ニ及ビ英國代表ハ八日モ引続き斡旋ニ努メタル結果八日午後ニ至リ独逸側ハ「ベルサイユ」條約ノ戰争責任条項削除等政治上ノ要求ヲ撤回シ一方政治的

宣言案文ニ闇スル意見纏り（本節第五項参照）金額三十億麻ニ妥協成リ又支払条件ニ付テハ本節第二項末段所説ノ如ク専門家協議ノ結果ニ依リ修正ヲ加ヘテ成案ヲ得ルニ至リ茲ニ独逸賠償ノ解決案成立ヲ見ルニ至レリ

二、依テ招請国法律家ハ「独逸国トノ協定」案文ノ作成ヲ進メ前文ニ次ギ政治的宣言ヲ挿入シ次デ「独逸国ノ債券ニ闇スル計画」（即チ債券条件）ハ之ヲ第一条トシ第二条以下ニ於テ左記事項ニ付規定ヲ設ケタリ

(イ)協定実施ニ依リ海牙協定、一九三一年八月十一日附倫敦議定書及一九三二年六月六日附柏林議定書ノ賠償制度ヲ終止セシメ協定所定ノ債券ヲ以テ「新案」ノ下ニ於ケル從来ノ債務ニ代フルコト（第二条）

(ロ)依テ右ノ終止セラル賠償制度関係ノ海牙協定ノ規定中廃止スルモノヲ列挙スルコト（第三条）

(ハ)前記倫敦議定書及柏林議定書ハ廢棄スベク從テ之ニ基キ独逸鉄道会社ガ借受ケタル無条件年金ニ対シ國際決済銀行ニ交付セル仮受領證ハ之ヲ返還スルコト（第四条）

(ニ)海牙協定ニ基キ引渡サレタル独逸政府ト独逸鉄道会社ノ債務證書ハ之ヲ返還スルコト（第五条）

(ホ)協定ハ何等海牙協定ノ(a)過去ノ清算(b)國際決済銀行ノ法人格及(c)該銀行ノ免税特權ニ闇スル規定ヲ変更スルモノニアラザルコト（第六条）

(ロ)協定ハ「ドウズ」及「ヤング」両公債所持人ノ権利ヲ害スルモノニアラザルコト及両公債ノ支払機構ニ闇スル調整ハ独逸政府ト國際決済銀行トノ間ニ取極ヲ為スコト（第七条）

(ハ)協定ノ効力発生シタルトキハ國際決済銀行ヲシテ關係條項ヲ実施セシムル為仏国政府ヨリ同行ニ通告スルコト及同行定款ノ目的ノ為ニハ「新案」ハ最早効力ヲ有セザルニ至レルコトヲ仏国政府ヨリ同行ニ通告スルコト（第八条）

(ナ)協定ノ解釈ニ闇スル紛議ハ海牙協定第十五条ニ依リ設ケラレタル仲裁裁判ニ附スベク同協定ノ關係條項ヲ準用スルコト（第九条）

(リ)正文、批准及加入等ニ闇シテハ一九三一年八月十一日附倫敦議定書ト同趣旨ノ規定ヲ置クコト（第十条及第十二条）

尚本協定実施（又ハ不実施決定）迄ノ経過的期間ノ支払其ノ他ニ闇スル経過措置ニ付テハ之ヲ後掲第七項ニ記述セリ

##### 第五項 政治的宣言ノ成立

一、今回會議ノ劈頭ニ於テ議長ハ會議ノ主要目的タル經濟復興ヲ成就センガ為ニハ政治的安定ヲ要シ戰争ノ脅威又ハ風評ニ依リ攪乱セラレザルヲ要スルヲ以テ會議ハ是等ノ問題ニモ触ルコトアルベキ旨ヲ述べ（第二章第三節参照）又仏国代表「エリオ」氏ハ今回會議ニシテ安全ヲ増大シ得ルニ於テハ至大ノ効果アルベク經濟的平和ナキ處政治的平和存セズ政治的平和ナキ處經濟的平和存セズ右ハ今回會議ノ指針ナラザルベカラズト述ブル処アリ又十七日以後ノ英、独、仏各代表等ノ私的内交渉ニ於テモ屢々政治的安定其ノ他政治的問題ニ付話合アリタルガ英、独、仏ノ欲スル政治的安定ニハ各自ノ主張アリタリ

即六月二十九日独逸代表「ノイラート」氏吉田ヲ來訪シ英、独、仏会談ニ際シ独逸ハ何年カノ後經濟状態回復セバ或一定額ノ支払ヲ為スコトニ同意スルモ其ノ条件ノ一トシテ独仏間ニ於テ軍縮ニ闇スル協定ヲナシ独逸軍備ノ平等ヲ認ムルコトヲ要求シ居ルモノナルガ仏國ハ右ニ絶対反対シ居レリト述べ又二十九日午後津島ノ出席セル幹部会ニ於テ議長ヨリ賠償問題以外平和確保ニ闇スル宣言ニ付「エリオ」氏ニ於テ起草中ニシテ三十日独逸代表ト協議シ成案ヲ得ルトキハ「エリオ」氏ヨリ幹部会ニ報告ノ筈ナル旨述ベタルヲ以テ六月三十日吉田「エリオ」氏ヲ往訪、右起草中ノ宣言内容ニ付質シタル処「エリオ」氏ハ話ノ起リハ「ファン・ペーペン」氏ニ於テ此際何等カノ平和保障ヲ得度シト希望シ他方前記「マクドナルド」議長演説ニモ此ノ点主張シ居ル關係上何等カノ政治的宣言ヲナスコトニ意見ノ一致ヲ見タル次第ナリトテ二十九日英國代表部ヨリ送付セル左記草案（附属書第十三号）ヲ吉田限リニトテ内示シタリ

「信賴ノ回復ハ啻ニ財政經濟上ノ行動ノ問題ニ止マラザルノ事実ヲ認メ本會議參加諸政府ハ現存政治的平和ニ闇スル重要ナル保障ニ注意センコトヲ望ム右ハ特ニ巴里條約ニ依ル戰争ニ訴フルコトノ禁止、「ロカルノ」ニ於テ署名セラレタル仲裁條約又ハ常設國際司法裁判ニ闇スル義務の裁判ヲ定ムル選択条項ノ規定ノ下ニ法律事項ニ闇スル總テノ國際

紛争ノ義務的仲裁又ハ常設國際司法裁判所ニ對スル附託並ニ暴力ニ訴フルコトヲ防止スル為聯盟機關ヲ使用スベシ  
スル歐洲諸政府ノ決意ヲ錄スル一九三一年一月二十一日ノ「ジユネード」決議ヲ包含ス本會議參加諸政府ハ是等保障  
ヲ想起シ各国内ニ於テ如何ナル種類ノモノタルヲ間ハズ世界ノ經濟回復ニ必要ナル安全並ニ相互信賴ヲ弱ムルガ如  
キ總テノ運動ハ之ヲ制止スベシトノ意思ヲ声明ス

本會議參加諸政府ハ其ノ共同利益ニ影響スルガ如キ如何ナル政治問題モ其ノ問題ヲ處理スベキ方法ニ関シ諒解ニ到達  
スル為豫メ友好的協議ヲ行ハズシテ之ヲ惹起セザルコトニ同意ス

二、右宣言案ニ對シ我方トシテハ不戰條約ヲ除キ日本ノ加入シ居ラザル諸協定引用セラレ居ルノミナラズ主トシテ歐洲問題  
題ニ關スルモノノ如キヲ以テ參加セザルコト然ルベシト認メ右ノ趣同日吉田ヨリ「エリオ」氏ニ申入レタル處「エリオ」  
氏トシテハ我方ノ態度承認ニ難色ヲ示シ居リタリ

三、而シテ七月三日仏国外務省政務局次長「ド・ラ・ブーレー」ノ栗山ニ對スル内話ニ依ルニ独逸側ハ右宣言案ノ趣旨ハ  
可ナリトスルモ該案末段ノ文字面白カラズ希臘、葡萄牙等多数ノモノヲ悉ク参加セシムルモノトシテハ適當ナラザルヲ  
以テ右宣言ノ政治的性質ヲ變更シテ賠償問題ニ關係アルモノトシ度シト主張シ同時ニ「ベルサイユ」條約戰爭責任条項  
特ニ第二百三十一条ノ削除及軍備平等權ノ承認ヲ主張シ來リタル為（第二章第四節第一項參照）右宣言案モ一時行キ惱  
ミタルガ仏國側トシテモ右宣言案ニ依レバ波蘭ガ「ダンチッヒ」問題ニ付独逸ト爭議ヲ起ス場合ニハ直ニ調印国會議ノ  
開催トナリ聯盟規約第十九条ノ規定ト重複スルガ如キ虞アリ且独逸ノ提出セル政治的諸条件ノ如キハ承認シ得ズトノ立  
場ヲ採リ其ノ儘採用スル意思ナカリシ趣ナリ之ガ為七月九日「サイモン」氏ノ吉田ニ對スル内話ニ依ルニ英國首相トシ  
テハ政治的安定ガ經濟的安定ノ為重要ナルヲ認メ何等カノ政治条項作成ヲ強ク希望シタルモ獨仏ノ主張ニ懸隔アリ英國  
トシテハ兩者ヲ調停シ両国ノ政治的休戰ヲ為サシムルノ立場ヲ採フザルヲ得ザルニ至リ独逸ヲシテ前記政治条件ヲ撤回  
セシメ同時ニ宣言案ニ對シ「サイモン」「チエンバーレン」等加筆シ仏國ノ主張ヲ容レ形式ハ調印国全体ニ適用アルガ如  
四、右確定宣言全文左ノ如シ

クスルモ實際ハ獨仏間ノ調停ヲ意味シ而モ内容空漠タル骨抜キノ宣言案ヲ作成シ今回ノ對獨協定ノ劈頭（即チ前文ノ直  
後第一条ノ直前）ニ掲グルコトニ決定シタルモノナリ右ハ「エリオ」氏及「サイモン」氏が説明セル如ク實際上英國我  
方等ニ適用ナシトノ了解ナルヲ以テ我方トシテモ差支ナシト認メ右ヲ含ム協定ニ署名セル次第ナリ

「本協定ノ署名国ハ和解協力及正義ノ相互的精神ニ依リ国民間ニ信賴ヲ確立發達セシムベキ新事態ヲ創設スルニ寄与  
セムトスル確固タル意思ヲ以テ戰爭ノ結果生ジ来レル問題ノヲ處理スル為ニ「ローザンヌ」ニ參集セリ

右署名国ハ「ローザンヌ」ニ於テ達成セラレタル事業ハ賠償ヲ完全ニ終結セシムベキモノナルモ夫ノミニ依リ總テノ  
國民ノ切望スル平和ヲ確保スルヲ得ルモノ思惟セズ然レドモ斯ク重要ニシテ且斯ク苦心ノ結果到達セル成果ハ「ヨ  
ーロッパ」及世界ノ總テノ平和的分子ニ依リ諒解セラレ且之ニ次テ新ナル成果ノ達成ヲ見ムコトヲ希望ス

右新ナル成果ハ若シ各国民が眞実ノ平和ノ為ニスル此ノ新ナル努力ヲ支持スルニ於テハ一層容易ニ實現シ得ベシ右努  
力ハ經濟的及政治的ノ兩方面ニ適用セラルト共ニ武力及暴力ニ訴フルノ可能性ヲ排除シテノミ完カルベシ

署名国ハ目下存在シ若ハ今後發生スルコトアルベキ問題ヲ本協定ノ精神ニ依リ解決スル為ニ總ユル努力ヲ為スベシ  
五、右ニ關シ議長ハ七月九日ノ最終總会ニ於テ本宣言ノ重要性ヲ力説シ完全ナル政治的宣言ヲ作成スルコト能ハザリシモ  
之ニ依リ各國ノ猜疑恐怖ノ念ヲ去ルヲ得ベシト述ベタルガ獨逸代表「フオン・ペーベン」氏ハ政治的安定ノ確立ニ關シ  
テハ尚今後モ論議ヲ見ルベキモノアリ政治的安定ハ各国民が平等ノ權利ト義務トヲ有セザレバ期待シ得ザルガ右ノ場合  
ニ於テモ今次ノ會議同様協調ノ精神ヲ以テ進ムコトヲ要スト述べ居レリ

## 第六項 独逸国トノ協定批准ニ関スル紳士的申合ノ成立

一、今回會議ニ於テ賠償ニ関シ到達スベキ決定ト戰債就中対米戰債トノ關係ヲ如何ニスベキヤハ會議ニ於ケル一大難關トナリタルコト幹部会ノ議事経過ニ徵シテ明ナリ即チ幹部会ニ於テ金額ヲ討議スルヤ独逸側ハ「ローザンヌ」會議ニ於テ決定スベキ金額ハ最終打切支払タルベキコトヲ主張シ債權國側トシテハ賠償ノ解決ハ戰債ノ解決ト不可分ノ關係アリ從テ「ローザンヌ」會議ノ解決が確定的効力ヲ生ズルハ總テ米國政府トノ戰債交渉ノ結果如何ニ懸ルモノナリトノ立場ヲ保持シ此ノ点ハ独逸側ニモ縷々説明セルモ独逸側ハ前記主張ヲ固持シテ讓ラザル為債權國側トシテハ全ク進退兩難ノ地位ニ立ツニ至レルコト既ニ述べタルガ如シ

而シテ最大ノ債權者タル米國ハ「ローザンヌ」會議ニ參加セザルモ戰債債務者タルト同時ニ又大債權國ノ一タル英國ハ會議ニ參加シ居ルガ同國ハ其ノ債務者タル仏伊両國ニ対シ如何ナル態度ヲ採ルベキヤノ問題アリ仏伊両國トシテハ其ノ自ラ独逸ニ対シテ認ムル程度ノ讓歩ヲ英國ヨリ期待スルハ當然ナルベク此處ニ極メテ複雜ニシテ困難ナル關係ヲ生ズルニ至レリ

即仏國藏相ハ英國藏相ト種々交渉セル結果仏國ノ対英戰債ニ付テハ一種ノ諒解ニ到達シ（附屬書第二一号参照）対英戰債關係ノ問題ヲ處理スルヲ得タリ而シテ独逸トノ關係ニ於テハ独逸國トノ協定中ニハ他日戰債交渉ノ結果如何ニ依リ独逸ノ支払ガ変更セラルコトヲ規定セズ即独逸ノ主張タル最終打切ノ主義ガ承認セラレタル形式ヲ採ルコトセリ唯右協定トハ別ニ債權國政府ノ関スル限り各債權國ト各債權國自身ノ債權國トノ間ニ戰債ニ関シ満足ナル協定ニ到達スル迄ハ右独逸國トノ協定ヲ批准セズ而シテ若シ一國ガ批准セズトキハ右協定ハ実施セラレズ再ビ「フーヴァー・モラトリアム」以前ノ法律上ノ地位ニ立戻ルベキ旨ノ紳士的申合ヲ結ブコトニ七月二日先づ英仏間ノ意見纏り白代表之ニ贊成シ伊國代表ハ当初此ノ申合ニ反対ノ態度ヲ示シタルモ其ノ対英戰債ニ関シ前記英仏間ノ申合ヲ結ブヲ得タル後之ニ贊意ヲ表シタリ本邦トシテハ当初ノ英仏案文ニ於テハ日本モ之ニ参加スル形トナリ居リシモ七月二日ノ

幹部会ニ於テ津島ハ本邦ハ戰債ヲ有セズ特殊ノ立場ニ在ルコトヲ説明シ置キタルガ其ノ後確定案文ヲ得七月二日附議事録ノ形式ヲ以テ七月八日債權國代表之ニ「イニシアル」ヲ附スルニ当リテハ本邦ハ之ニ加ハラザルコトトナリ英、仏、伊、白四代表ノミ「イニシアル」ヲ附セリ（第三章第二節参照）

二、右紳士的申合ヲ独逸國トノ協定中ニ組入レザリシハ独逸トシテ之ニ絶対反対スルハ勿論対米關係ヲモ考慮シタルニ依レリ尤モ右申合ヲ為シタル四國代表ハ本申合ヲ独逸代表ニ通告スルコトトシ七月九日此ノ手続ヲ採リ独逸代表ヨリ之ヲ了承セル旨回答セリ（附屬書第二十号第三章第二節参照）

三、尚此ノ点ニ關シテハ七月八日夜第四回總會席上独逸代表ヨリ独逸國トノ協定ガ批准セラレザル場合ニハ之ニ依リ生ズル事態ヲ考慮スル為關係政府会合スルコト必要ト認ムル處右ハ會議一般ノ意向ニ合スベキヤヲ問ヒ之ニ対シ議長ヨリ之ヲル旨答ヘタリ（附屬書第二十号第三章第二節参照）

四、紳士的申合及之ニ關聯セル文書ノ内容ハ之ヲ秘密ニ附スルコトヲ得ザルコト当初ヨリ豫期シタル處ニシテ既ニ其ノ申合中ノ一項ニモ各自議会ニ其ノ内容ヲ通報スルノ自由ヲ留保シ居レリ而シテ「ローザンヌ」會議直後英國議会ニ於テ本申合ノ發表方要求アルヤ英國政府ハ關係政府ト諮詢其ノ關係文書全部ヲ發表スルニ至レリ仏國政府モ同時ニ本件紳士的申合ヲ發表セリ（本件文書ニ關シテハ第三章第二節及第三節ニ説明セリ）

## 第七項 独逸國ニ關スル經過措置

一、第四項所述ノ如ク独逸賠償問題解決案ヲ得独逸國トノ協定ヲ作成スルニ至リタルモ之ガ実施ノ為ニハ招請六箇國ノ批准ヲ要ス而シテ之ガ批准ニ關シテハ英、仏、白、伊間ニ前項説明ノ紳士的申合ノ成立セルアリ從テ対米戰債交渉ノ結果ヲ俟チテ始メテ批准手続ヲ採ルトセズ其ノ間相当長キニ亘リ本協定ノ実施ヲ見ルニ至ラザル場合ナシトセズ依テ此ノ経過の期間ニ於ケル独逸賠償支払ヲ如何ニ措置スベキヤノ問題アリ一方六月十六日ノ五国声明ハ會議繼續中賠償其ノ他ノ支払ノ履行ヲ留保スルニ過ギザルヲ以テ之ヲ如何ニ始末スルヤモ併セ考慮スルノ要アリ尚又今回ノ解決案ニ依リ「新案」

ノ賠償制度ヲ終止セシメ從テ「新案」ハ國際決済銀行ニ関スルモノノ外殆ド総テ廃止セラルル結果トナルヲ以テ「新案」ヨリ今回ノ解決案ニ移ルニ付必要ナル調整ヲ加フルノ要アリ更ニ實物引渡ニ関シ取極メヲ為スベキ事項存セリ之レ「独逸国ニ関スル経過措置」ト称スル左記経過規定ノ成立ヲ見タル所以ナリ

二、(一)独逸国トノ協定署名ノ日以後ノ独逸賠償支払ニ關シテハ六月十六日ノ五国声明ノ効果ヲ「新案」及一九三一年八月十一日附倫敦議定書及一九三二年六月六日附柏林議定書ノ下ニ独逸ノ為スベキ支払ニ延長適用スベク其ノ延長ハ独逸国トノ協定ノ実施ニ依リ又ハ日、英、仏、獨、白、伊六国中一国ガ之ヲ批准セズト決定シタル旨ヲ通告スルコトニ依リ終止スル旨ノ経過規定ヲ設ケタリ（第一項）

(二)「新案」ノ賠償制度終止ノ結果「ドウズ」公債及「ヤング」公債ノ支払機構ニ關スル調整ヲ為スノ要アル處時日切迫ノ折柄到底直ニ之ガ調整ニ關スル細目ノ取極ヲ為スコト能ハザルヲ以テ独逸国トノ協定ニ於テハ之ヲ独逸政府ト「ドウズ」公債及「ヤング」公債ノ受託者又ハ財務代理人タル國際決済銀行トノ間ノ取極ニ委ヌルコトトナリタルガ協定実施ノ日ニ於テ滯リナク直ニ支払機構ノ調整ヲ為シ得ル為ニハ其ノ実施前ニ豫メ細目ノ取極ヲ結了スルノ要アルベク且両公債ノ信用ヲ維持スル点ヨリ見ルモ成ルベク速ニ取極ヲ完了スルコト望マシキヲ以テ此ノ点ニ關シ独逸政府ト國際決済銀行ハ速ニ商議ヲ開始スベキ旨ノ経過規定ヲ設ケタリ（第二項）

(三)一九三一年七月以来履行中ノ實物引渡契約又ハ工事ニシテ「フーヴアーモラトリアム」ノ結果支払資金ナキ為其ノ履行ヲ一時中止シ居ルモノアリ独逸国トノ協定ニ依リ独逸ハ當分何等ノ支払ヲモ實行セザルコトナルヲ以テ今後之ヲ如何ニ処置スベキヤノ問題アル處右協定ノ実施又ハ不実施ノ決定迄之ヲ放置スルハ独逸側ハ勿論債權國側ノ契約者ニモ不利不便尠ナカラザルヲ以テ独逸政府及利害關係國政府代表者ヨリ成ル委員会ヲ設ケ対策ヲ立案セシムル旨ノ経過規定ヲ設ケタリ（第三項）

三、而シテ本経過措置ハ本節第四項所述ノ如ク「独逸国トノ協定」ト共ニ七月八日夜極メテ躁急ノ間ニ成立セルモノニシ

テ其形式ニ付深ク論議スル暇ナカリシモノナルガ其ノ性質上批准ヲ要セザルコトトシ「独逸国トノ協定」トハ別個ノ文書トシテ署名シタリ而シテ六月十六日ノ五国声明ニ付テハ「アド、レフエレンダム」ニテ署名方訓令ニ接シ居リ本経過措置ニハ右声明ノ効果ヲ延長スル趣旨ノ規定アルコト前記ノ通りナルニ依リ同様「アド、レフエレンダム」ニテ署名セリ然レドモ六月十六日五国声明ハ債權國ガ支払履行ニ關スル權利ヲ留保スルモノニシテ從テ海牙協定ヲ変更スルモノニアラズ而シテ本経過措置ニ於テハ之ヲ「独逸国トノ協定」署名ノ日以後ニ延長スルモ該協定ガ実施セラルルトキハ右権利ノ留保ハ解カレ同時ニ一九三一年七月一日以来ノ賠償總決算行ハルベク若シ又実施サレザルトキハ新案本来ノ建前ニ立帰リ關係國ノ會議開催トナルベク何レニスルモ新案ハ廢止サレザル建前ヲ採リ居ルモノナリ（第二章第三節五国声明同第四節第六項独逸国トノ協定批准ニ關スル紳士的申合ノ項参照）

#### 第五節 独逸国以外ノ賠償問題

一、七月二日午前日、英、仏、白、伊ノ代表者非公式ニ会合シ独逸以外ノ賠償問題ヲ審議スベキ委員会設置ニ付協議セルガ右会合ハ英國代表「サイモン」氏議長ノ下ニ意見交換ノ結果同日午後招請國タル五債權國以外ノ五債權國（「ユーゴースラヴィア」、希臘、「チエツコスロヴァキア」、羅馬尼、葡萄牙）ノ代表者ヲ交ヘテ十債權國代表者ノ非公式会合ヲ開キ英國代表「サイモン」氏議長ノ下ニ被招請國タル五債權國側ヨリ独逸以外ノ賠償問題ニ關シ簡単ニ意見ノ表明アリタルガ其ノ要旨ハ羅馬尼及「ユーゴースラヴィア」ノ各代表ハ独逸以外ノ賠償ヲ調整スルニ当リテハ之ト同時ニ其ノ結果タル債權國ノ払フベキ犠牲ニ付補償セザルベカラズ又洪牙利賠償ニ關スル協定ヲ變更セントセバ乙種基金ヲ甲種基金同様打切基金（Fonds forfaitaire）トセザルベカラズト主張シ希臘代表ハ希臘ハ債權國タルト同時ニ債務國タルヲ以テ賠償ニ關シ希臘ニ対シ新ナル犠牲ヲ求ムルハ希臘ノ債權者ノ不利益ナリト述べ「チエツコスロヴァキア」代表ハ同國輿論ハ同國ガ年金ヲ支払ハザルベカラザルコトニ付了解スル能ハズ「ヤング」案ガ改変セラルルトキハ「チエツコスロヴァキア

ア」ノ年金モ変ゼラルベキモノナリ等ノ趣旨ヲ述べ尚意見交換ノ結果十債権国及英國自治領代表者ヲ加ヘタル會議委員会ヲ作り右委員会ハ勃牙利及洪牙利ノ代表者ノ列席ヲ求メ得ルコトスル様議長ニ提案スルコトニ決シタリ

二、右ニ基キ七月四日午前ノ幹部会ニ於テ独逸以外ノ賠償ノ債権国ヨリ成ル會議委員会（勃牙利及洪牙利代表者ヲ招請シ之ト協議スルヲ得）ヲ構成シ白国代表「イーマンス」氏ヲ議長トシ遅クモ七月五日迄ニ会合セシムルコトニ決シタルヲ以テ七月四日午後「イーマンス」氏ノ旅宿ニテ招請國タル五債権国代表非公式ニ会合シ（栗山出席）意見交換ノ結果幹部会ニテ決定シタル會議委員会ニハ勃洪両國ノ代表者ヲ加フルコトトシ別ニ独逸以外ノ賠償關係國全部（債権國債務國）ヨリ代表者ヲ出スベキ委員会ヲ作り「ローザンヌ」會議後ニ会合独逸以外ノ賠償問題ヲ審議スルコトニ打合セタリ三、斯クテ七月六日午前独逸以外ノ賠償ニ関スル會議委員会合濠洲、勃牙利、加奈陀、仏國、白耳義、「チエッコスロヴアキア」、洪牙利、希臘、日本、葡萄牙、英國、伊太利、新西蘭、羅馬尼、「ユーゴースラヴィア」ノ十五国参加「イーマンス」議長ヨリ（独逸以外ノ賠償ノ關係國ヨリ各一名宛ノ代表者ヲ出スベキ委員会ノ構成ヲ提言シ右委員会ヲシテ「獨逸國以外ノ賠償」ナル名称ノ下ニ知ラル諸問題及之ニ關聯スル問題ヲ總括的ニ解決スル見地ヨリ研究セシムルコトヲ提議シ（）債権國側ニ於テ右委員会ヲシテ其ノ任務ヲ支障ナク遂行セシムル為主義上ノ問題及将来到達シ得ベキ解決ヲ留保シ前記諸問題ニ関係スル支払ノ実行ヲ夫レ以前ニ解決ヲ見ザル限り十二月十五日迄留保スベシトノ意向ナリトノ決議ヲ為サムコトヲ提議セリ

右第一点ニ付議長ハ右委員会ハ「ローザンヌ」會議中ニ其ノ事業ヲ終了スル能ハサルベキヲ以テ右ハ會議後ニ会合スルコトトナルベシトノ趣旨ヲ陳ベタリ羅馬尼代表ハ委員会構成ニ賛成スルノ事實ハ海牙及巴里協定ノ改訂ヲ主義上受諾スルモノト解スベカラスト述べ之ニ對シ議長ヨリ現会合ニ於テハ何問題ヲモ豫断スルモノニ非ズト述べ結局第一提案ヲ採択セリ

第二点ニ付テハ羅馬尼代表、「ユーゴースラヴィア」代表及希臘代表ヨリ五国声明ニ對シ加入シタルトキノ留保ト同趣旨

ノ留保ヲ為セリ又勃牙利代表ハ「フーザー」年度終了後ト雖モ三月ノ國際聯盟理事會ニ提出セル財政委員会ノ勸告ニ依リ賠償ノ月賦支払ハナザルコトトナリ居リ「モロフ、カフアンダリス」協定ニ依ル支払ハ賠償ト關係ナク從テ本提案ノ適用ノ外ニ在ルモノナリ勃牙利代表ハ右留保ノ下ニ本提案ヲ受諾スベシト述べ之ニ對シ希臘代表ハ希臘ハ独逸以外ノ賠償ノ債権國トシテ他國殊ニ勃牙利ガ「モロフ、カフアンダリス」協定ニ基ク希臘ノ支払ガ同期間即十二月十五日迄留保セラルコトヲ受諾スルニ於テハ賠償支払ガ留保セラルコトヲ受諾スベク勃牙利ハ同國ニ提供セラレタル支払停止ノ利益ヲ拋棄スルモ自由ナルガ右ハ本委員會討議ノ題目タル能ハズト応ヘタリ「チエッコスロヴアキア」代表ハ一九三一年一月ノ「チエッコスロヴアキア」協定ハ本提案ノ適用ヲ見ルベキモノナリヤト問ヒ議長然リト答フ我方ハ六月十六日ノ五国声明ニハ「アド、レフエレンダム」ニテ署名セシ處本提案モ同様「アド、レフエレンダム」ニテ受諾スベキ旨ヲ明ニシ葡萄牙代表ハ日本代表ト同様ノ条件ニテ本提案ノ決議ニ署名スベキ旨ヲ述べタリ議長ハ右各代表ノ留保ヲ了承シ右ハ何レモ議事録ニ採録セラルベキ旨ヲ述べ茲ニ議長ノ第二提案ハ採択セラレタリ（附屬書第二五号参照）四、右採択セラレタル兩提案ハ一ノ決議トシ七月七日附ニテ各國代表ニ於テ署名スルコトナリタルガ七月九日「ローザンヌ」會議閉会迄ニ署名セルモノハ濠洲、白耳義、勃牙利、加奈陀、仏國、洪牙利、印度、伊太利、日本、新西蘭、葡萄牙、羅馬尼、英國、「チエッコスロヴアキア」、「ユーゴースラヴィア」ノ十五国ニシテ南阿聯邦ハ會議後署名シタルモ希臘ハ未ダ署名セズ

尚我方ハ前述ノ如ク本決議ヲ審議採択ノ際之ニ「アド、レフエレンダム」ニテ同意スベキ旨明ニシ他代表ノ留保ト共ニ議事録ニ記録セラレ居リ署名ニ際シテハ何等ノ留保等ヲ記サザルコトトナリシヲ以テ我方モ署名ニ際シテハ「アド、レフエレンダム」ヲ附セザルコトセリ此ノ点ニ付テハ葡萄牙代表モ同様ニテ我方ニ倣ヒ「アド、レフエレンダム」ニテ

之ニ同意シタルコト前述ノ通ナルガ署名ニ際シテハ「アド、レフエレンダム」ト記サザリキ（附屬書第二五号参照）尚本決議ハ「中部及東部」「ヨーロッパ」ニ関スル決議」「世界經濟財政會議ニ關スル決議」ト共ニ會議文書トシテ採録サ

レタリ（附属書第四号及第三章第一節第三参照）

五、尚七月八日ニ至リ會議後会合スベキ独逸以外ノ賠償ニ関スル委員会ニ付(1)右委員会ハ其ノ結果ニ付直接關係國政府ニ報告スベキヤ(2)会合ノ場所及時期如何(3)委員會議長ヲ何人トスベキニ付独逸ヲ除ク會議招請國側ニ非公式意見交換アリ結局議長ニハ白國ノ「チユニス」氏ヲ選任スルコト會議ノ場所及時期ハ議長ニ一任スベキコト報告ノ方法ハ直接關係國ニ報告スルコトニ大体打合セ七月九日ノ最終總会ニ於テ「マクドナルド」議長ヨリ正式ニ「チユニス」氏ヲ議長トスルコトヲ提議シ其ノ通決定セリ

## 第六節 一般財政經濟問題

### 第一項 中部及東部「ヨーロッパ」ニ關スル決議

今回會議ノ任務ハ第一章記述ノ如ク賠償問題ノ外「現下世界恐慌ノ原由ニシテ且之ヲ長延カスベキ他ノ財政經濟上ノ困難ヲ解決スルニ必要ナル手段」ニ付審議スルコトナリ居リ中部及東部「ヨーロッパ」ノ財政經濟復興ニ關スル問題審議モ亦此ノ範囲ニ加ヘラレタルモノ本問題ハ複雜ニシテ且利害錯綜シ短期間ニ満足ナル協定ニ到達スルコト困難ト認メラレタルヲ以テ會議後利害關係國代表者ヨリ成ル委員会ヲ設ケ中部及東部「ヨーロッパ」財政經濟復興手段ニ關シ立案スベク成案ヲ得タル上ハ本件ハ既ニ國際聯盟歐洲聯合委員会ニ於テモ研究シ居ル關係上該委員会ニ之ヲ提出セシムルコトトシテノ決議ヲ為シタリ會議書類第四ニ掲グルモノ即チ之ナリ

委員会ニハ独、奥地、白、勃、仏、英、希、洪、伊、蘭、波、羅、瑞西、「チエツコスロヴアキア」及「ユーゴースラヴィア」ノ各國ヨリ代表者ヲ出スベク本邦ハ特ニ直接ノ利害關係ナキヲ以テ參加ヲ差控ヘタリ（附属書第五号及第三章第一節第四説明参照）

尚最終總会ニ於テ右委員会ノ議長トシテ仏國代表「ボネ」氏ヲ指名決定シタルコト後述ノ如シ

### 第二項 世界經濟財政會議ニ關スル決議

一、六月二十九日午後ノ招請國代表会合ニ於テ今回會議ノ第二ノ目的即「現下世界恐慌ノ原由ニシテ且之ヲ長延カスベキ他ノ財政經濟上ノ困難ヲ解決スルニ必要ナル手段」ニ關聯シ世界經濟財政會議ニ關スル事項ヲ審議報告セシムル為招請國商務大臣委員会ヲ設ケタルガ右商務大臣委員会（栗山出席）ハ二十九日午後九時三十分及翌三十日正午ノ二回ノ会合ヲ開キテ報告（附属第二十四号）ヲ作成シ會議々長ニ提出セリ以下商務大臣委員会ノ経過並世界經濟財政會議ニ關スル決議ニ付略述スベシ

### 二、商務大臣委員会ノ経過

六月二十九日午後九時半ノ商務大臣委員会ハ白国外務大臣「イーマンス」氏ヲ委員長ニ選任シ先づ追テ開催サルベキ世界經濟財政會議ノ審議事項ヲ(1)金融及通貨問題及(2)經濟問題ノ二大項目ニ分チ討議決定シタル後今後設置セラルベキ準備委員会並其ノ分科会ノ構成及追テ開催サルベキ會議トノ關係ニ關スル事項ヲ協議決定シ三十日正午ノ会合ニ於テハ右決定ニ基キ委員長ニ於テ作成セル報告ニ多少ノ字句ノ修正ヲ加ヘテ承認決定セリ

#### (1)金融及通貨問題

金融及通貨問題ノ下ニ審議セラルベキ事項ニ關シテハ独逸委員ヨリ先づ各國通貨ト金トノ諸關係ヲ研究スルヲ要スルニ非ズヤトノ說アリタルニ対シ英伊委員ハ來ルベキ會議ノ目的ハ實際問題ノ審議ニ在リ抽象論ハ會議ノ任務ニ非ズトシテ反対シ又伊國委員ヨリ本項目ノ下ニ審議セラルベキ事項ヲ詳細列挙スベシトノ提案アリタルニ対シ英國委員ハ斯ノ如キハ却テ将来ノ會議ノ事業ヲ困難ナラシムルヲ以テ一般的概括的ニ示スヲ適當トスベシト為シ結局英國委員ノ提案ニ依リ審議事項ヲ左ノ通決定セリ

#### (a)通貨及信用政策

#### (b)為替上ノ困難

(c) 物価水準

(d) 資本ノ移動

(e) 経済問題

英國委員ハ本項ノ下ニ審議セラルベキ事項ハ主トシテ国際交易ニ對スル障害ニ在リ而モ之ヲ經濟恐慌前ヨリ存在シタルモノ即チ関税其ノ他ト主トシテ恐慌ニ因テ生ジタル追加的ノモノ即「コンタンジヤン」制度等トニ分ソコトヲ得ベシト為シ次デ仏國委員ハ中欧及南東欧ノ穀物ノ價格引上問題ヲ審議スルコト緊要ナルヲ以テ之ヲ審議事項ニ加フベシト主張シタルニ対シ伊國委員ハ斯ノ如キ特殊ノ問題ヲ示スハ不適當ナリトシ英國委員ハ特ニ歐洲ノ農產物ノミヲ説示スルコトニハ贊成シ得ザルノミナラズ本問題ハ本質的ニハ寧口通貨問題ニ屬ストナシテ反対シ独逸委員ハ仏國委員ノ主張ニハ贊成ナルモ同時ニ工業製品ニ付テモ言及スルコト必要ナリトナシ本邦委員ハ地域的及事項的ニ特殊ノモノニ限定スルハ適當ニアラザルベキ旨ヲ述べ結局仏國委員ハ本問題ハ「ローザンヌ」會議ノ機会ヲ利用シ特ニ利害關係アル國ノ間ニ協議ヲ開始スルコト有効ナリトノ趣旨ヲ議事錄ニ留ムルコトトシテ前記主張ヲ撤回シ審議事項ヲ左ノ如ク決定セリ

生産及交易状況ノ改善就中左記ニ特ニ留意スルコト

(a) 関税政策

(b) 輸出入ノ禁止制限「コンタンジヤン」及其ノ他ノ貿易障害

(c) 生産者ノ協定

(d) 準備委員会並其ノ分科会ノ構成

前記金融及通貨問題ト經濟問題トハ其ノ研究ニ必要ナル専門家ノ種類異ルベキヲ以テ二ツノ別個ノ準備委員会ヲ設置スベシトノ考案アリタルモ斯ノ如キ場合ニハ両準備委員会ノ連絡ヲ如何ニスベキヤノ問題モアルヲ以テ結局一ノ準備

委員会ヲ設ケ之ヲ二ツノ分科会ニ分ツヲ適當トシ専門家ヲ左ノ通り割当ツルコトトセリ

各招請国ヨリ二名

合計十二名

國際聯盟財政委員会ヨリ

三名

同 経済委員会ヨリ

三名

米国ヨリ

二名

計 二十名（註）

右ノ内國際聯盟財政委員会及經濟委員会ヨリ出スベキ専門家ハ招請国及米国以外ノ国籍ヲ有スベキモノトシ又金融及通貨問題ニ關スル分科会ト經濟問題ニ關スル分科会ハ前記二十名ヲ折半シ各十名宛ヨリ成ルコトトセリ

（註） 國際決済銀行指名委員二名追加ノ件ニ付テハ後掲三参照

(e) 追テ開カルベキ世界經濟財政會議ノ主催者其ノ他ノ問題

該會議ヲ「ローザンヌ」會議ノ繼續トスベキヤ或ハ新ナル會議トスルトセバ「ローザンヌ」會議ト同一ノ招請国ニ依

リ招請サルベキヤ又ハ國際聯盟ニ依リ招請サルベキヤノ問題アル処此ノ点ハ招請国代表会合ノ決定ニ讓ルコトトセリ

三、世界經濟財政會議ニ關スル決議

商務大臣委員会ハ前記ノ趣旨ニテ其ノ報告ヲ作成會議議長ニ提出セル処其ノ後議長ヨリ軍縮會議米国代表ヲ通ジ米国政府ノ意嚮ヲ確メタル結果米国トシテハ追テ開催セラルベキ會議ハ國際聯盟主催トスルヲ希望シ居リ尚議長ヨリ幹部会ニ於テ各國代表ニ諮リタルニ各國何レモ自ラ主催者トナルコトヲ欲セズ旁々主催者ハ國際聯盟トシテ場所及時日ハ追テ決定スルコトトナレリ尚準備委員会ノ構成ニ關シテハ前述ノ外國際決済銀行ヨリ二名ノ専門家ヲ指名セシムルコトトシテ商務大臣委員会ノ報告ヲ多少修正シ世界經濟財政會議ニ關スル「ローザンヌ」會議ノ決議ヲ採択セリ會議書類第五即之ナリ（附属書第六号及第三章第一節第五参照）

## 第七節 関係文書ノ成立ト最終總会

一、既ニ招請國側法律家ヨリ成ル起草打合会（栗山出席）ハ（一）「独逸國トノ協定」及（二）「独逸國ニ闇スル経過措置」ヲ起草シ（第二章第四節第四項及第七項参照）（三）「独逸以外ノ賠償ニ闇スル決議」ハ既ニ七月七日署名セラレ（第二章第五節参照）（四）中部及東部「ヨーロッパ」ニ闇スル決議（第二章第六節第一項参照）及（五）世界經濟財政會議ニ闇スル決議（第二章第六節第二項参照）モ成案ヲ得タルヲ以テ七月八日午後十時十五分第四回總会ヲ開キ（午後九時開会ノ筈ナリシモ書類準備間ニ合ハズ約一時間延期）議長ヨリ會議ノ事業ヲ錄シタル最終議定書及前記五個ノ文書ニ付一応ノ説明ヲ与ヘ（一）及（二）ニ対シテハ六招請國ハ九日直ニ署名スベク被招請國ハ研究ノ餘裕モナカリシニ依リ追テ署名シ得ベキ旨ヲ述べ且最終議定書ハ今會議ノ事業ヲ錄セル「レヂュメ」ニ過ギザルヲ以テ何等討議ヲ要セザルベシト述ベタル後前記五個ノ文書ノ審議ニ移リタリ

二、右（一）ノ「独逸國トノ協定」ハ異議ナク採択又右（二）ノ「独逸國ニ闇スル経過措置」ニ闇シテハ本總会開催前午後九時招請國首席代表ノ打合ニ基キ独逸代表「フオン・パー・ペン」氏ト議長トノ間ニ一万一獨逸國トノ協定署名六招請國中ノ一国ガ本協定ノ批准ヲ為サザル場合ニ付質問応答アリ「フオン・パー・ペン」氏ヨリ自分トシテハ右各國代表ガ再ビ參集シテ善後策ヲ考究スルコト然ルベシト認ムル處右ニ闇スル會議ノ意嚮如何ト質シ議長ハ招請國ノ名ニ於テ「本議定書及文書ニ定メラレタル事項ノ実施ガ不可能ナル場合ニハ會議ヲ召集シテ対策ヲ講ズベシ」トノ回答ヲナシ右回答ヲ議事録ニ止ムベシト陳ベ何レモ異議ナク右「独逸國ニ闇スル経過措置」ヲ採択シ（三）「独逸以外ノ賠償ニ闇スル決議」ハ既ニ署名済ニシテ異議ナク（四）「中部及東部「ヨーロッパ」ニ闇スル決議」及（五）「世界經濟財政會議ニ闇スル決議」モ亦夫々異議ナク採択セラレタリ尤モ羅馬尼、「ユーゴースラヴィア」、希臘及葡萄牙ノ四代表ハ各別ニ本件諸文書ハ最後ノ瞬間ニ成立シ被招請國トシテ充分ナル研究ノ餘裕ナカリシニ付今直ニ署名スベシト約束スル能ハザルモ自國政府ハ其ノ有スル重大ナル利害關係ニ鑑ミ招請國側ト同様歐洲連帶ニ貢獻スルノ精神ヲ以テ慎重審議スベシトノ同趣旨声明ヲ為シタリ右ニ對

シ議長ハ右声明ハ之ヲ記録ニ留ムベク被招請國ハ充分研究ノ暇ナカリシヲ以テ署名ハ後日之ヲ為シ得ル次第ナリト答ヘ次デ仏、英、獨、伊、白代表ハ今會議ノ成果ニ闇シ儀礼的挨拶ヲ為シ翌九日午前調印スペキコトニ決定シテ議事ヲ終ヘタリ

三、七月九日午前十時最終總会（第五回）ヲ開催スルヤ劈頭英國代表「サイモン」氏仏國代表「デエルマン・マルタン」氏及伊國代表「モスコニ」氏ハ「ローザンヌ」會議被招請國ノ有スル対英、対仏、対伊戰債ニ闇シ夫々自國政府ノ名ニ於テ左ノ如キ同趣旨声明ヲ為シ議長ハ右声明ヲ議事録ニ止メ声明ハ直ニ効力ヲ發スベキ旨宣言セリ

「英（仏、伊）代表ハ英（仏、伊）國政府ノ為ニ被招請國ノ英（仏、伊）ニ対スル戰債ニ闇スル英（仏、伊）國政府ノ地位ヲ明ニスル為下記ノ声明ヲ為シント欲ス

『一九三二年六月十六日署名ノ會議声明（註、五國声明）ノ効果ハ本日吾人ノ署名セントスル獨逸國トノ協定効力發生迄又ハ其ノ協定ヲ批准スルコト能ハザルベシトノ決定ガ通告セラル迄斯ル戰債ニ闇シテ為サルベキ支払ノ停止ヲ包含スル如ク延長セラルベシ』（第三章第三節参照）

四、次デ前日採択セラレタル「独逸國トノ協定」及「独逸國ニ闇スル経過措置」ノ署名（尚議長及事務總長ハ最終議定書、中部及東部「ヨーロッパ」ニ闇スル決議及世界經濟財政會議ニ闇スル決議ニ署名セリ）ニ移リ白、英、濠洲、加奈陀、仏、伊、日、波蘭、新西蘭及獨逸ニ署名シタリ右ノ内本邦側ハ吉田、栗山、津島之ニ署名シタルガ「独逸國ニ闇スル経過措置」ニ対シテハ「アド、レフエレンダム」ニテ署名セルコト第二章第四節第七項所說ノ如シ右署名終了スルヤ「マクドナルド」議長ハ今回會議ノ決定ニ基キ設置スベキ一箇ノ委員会即（一）独逸國以外ノ賠償問題ニ闇スルモノ（二）中部及東部「ヨーロッパ」問題ニ闇スルモノニ付前者ノ議長トシテ「チユニス」氏（白）後者ノ議長トシテ「ボネ」氏（仏）ヲ指名スルコトニ大体意嚮一致セリト諒解セルヲ以テ兩氏ヲ指名シ度シト提議シ之ニ決定シ尚議長ハ世界經濟財政會議準備委員会ノ議長ニ闇シテハ追テ關係國政府ノ協議ヲ待ツベキモノト考フト述べ瑞西大統領宛感謝ノ電報案文ヲ決議シタ

ル後議長ハ閉会挨拶トシテ一場ノ演説ヲ為シ「エリオ」氏ハ參加各國ヲ代表シテ議長其ノ他ニ對スル謝辭ヲ述べ茲ニ「ローザンヌ」會議ハ七月九日午前十一時半ヲ以テ終了セリ

### 五、議長ノ閉会演説ノ要点左ノ如シ

「三週間苦闘ノ後到達セル成果ハ歴史上古キ章ノ終リニ非ズ新シキ章ノ初メニシテ賠償ハ過去ノモノトナルニ至レリ政治的宣言ノ成立ヲ見タルハ注目ニ値スベク此ノ際満足ナル政治的宣言ヲ作成シ得ザリシモ元來平和保障ヲ齎ス意思ナキ處平和保障ナシ寿府軍縮會議ノ成功ヲ希望スルモノニシテ各國共恐怖心ヲ除去シ得バ軍備ハ容易ニ縮少シ得ベキモ各大國相互ニ信賴協力シ公明ナル外交ヲ為スニ非レバ軍縮ノミニ依リ負担ヲ輕減シ得ズ仏國及独逸モ吾人ト共ニ他國ノ内政ニ干渉スルコトナク友情ト援助ノ手ヲ差延ベザルベカラズ

此ノ事業ニハ啻ニ歐洲ノミナラズ東洋ノ友人タル日本又來リ会セザルベカラズ日本モ國際聯盟ニ對シ他国ト同様ノ尊敬ヲ示サザルベカラズ  
斯シテ初メテ各国安ジテ平和ヲ祈念スルコトヲ得ベシ或ハ問題ハ單ニ三十億麻又ハ債券發行条件ニ關スルニ過ギザルベシト云フモノアラム然レドモ此ノ問題ノ背後ニハ友愛、正義、信賴及相互援助ノ隱レタルアリ吾人ハ難破ヲ免レ協定ニ達シ全世界ノ平和ノ發達ニ資スル新シキ門ト広野開ケタルハ欣幸トスル所ナリ」

### 第三章 関係諸文書ノ説明

#### 第一節 最終議定書並會議採択文書 最 終 議 定 書

「ローザンヌ」會議ハ独逸國、白耳義國、仏蘭西國、「グレート、ブリテン」及北部「アイルランド」聯合王國、伊太

利國及日本国各政府ノ招請ニ依リ招集セラレタリ會議ノ目的ハ此等政府ノ為千九百三十二年二月十三日「ジュネーブ」ニ於テ為サレタル声明ニ從ヒ左記ノ通ナリキ

「、、「バーゼル」専門家報告書中ニ提起セラレタル問題ノ恒久的解決及現下世界恐慌ノ原由ニシテ且之ヲ長延カスベキ他ノ經濟上及財政上ノ困難ヲ解決スルニ必要ナル手段ニ關シ協定スルコト、、「、、「、  
上記政府ノ共同ノ意思ニ依リ此ノ決定ニ達シタルモノニシテ上記政府ハ此ノ決定ガ國際情勢ヲ緩和スルニ至ランコトヲ期待ス」

會議ハ千九百三十二年六月十六日「ローザンヌ」ニ於テ瑞西聯邦大統領「ジュゼッペ・モツタ」閣下ニ依リ開会セラレタリ「ヴォー」州參事院議長「ジュ・ル・デュフール」氏「ローザンヌ」市長「ガイヤール」氏モ同様列席セリ上記招請國政府ノ外「オーストラリヤ」聯邦、「カナダ」、希臘、印度、「ニューランド」、「ポーランド」、「ポルトガル」、「ルーマニア」、「チエツコスロヴァキア」、南阿弗利加聯邦及「ユーボースラヴィア」ノ各國政府モ代表者ヲ出席セシメタリ「ブルガリヤ」及「ハンガリア」ノ各國政府モ代表者ヲ出席セシメタリ會議ハ議長トシテ聯合王國總理大臣「ジェームス・ラムゼー・マクドナルド」氏ヲ、又事務總長トシテ「サー・モーリス・ハンケー」氏ヲ選任セリ

會議ノ事業ハ千九百二十九年六月ノ專門家案第百十九節ニ依リ為サレタル独逸國政府ノ要求ニ從ヒ國際決済銀行が招集シタル特別諮詢委員會ノ千九百三十一年十二月二十三日「バーゼル」ニ於テ署名セル報告書所載ノ主義ニ則リテ為サレタリ一千九百三十二年六月十六日「グレート、ブリテン」及北部「アイルランド」聯合王國、仏蘭西國、伊太利國、白耳義國及日本国各政府代表者ハ左記ノ声明ニ署名セリ

「世界ヲ脅カス經濟上及財政上ノ危險ノ増進シツツアル重大性並「ローザンヌ」會議ノ審議スペキ任務ヲ有スル諸問題ノ緊急性ヲ痛感シ

此等ノ問題ハ歐洲ニ於ケル狀態ノ改善ノ為ノ最終的且決定的解決ヲ必要トルコト並ニ此ノ解決ハ一般的の解決ノ機構内

ニ於テ之ヲ実現スル為メ遲滞ナク且間断ナク追求セザルベカラザルコトヲ確信シ

賠償及戦債ノ或ル支払ハ来ル七月一日ヨリ期限到来スルコトニ留意シ會議ノ事業ヲ支障ナク進捗セシムル為メ終局的ニ到達セラルベキ解決ヲ妨グルコトナク會議參加国政府ニ對スル賠償若クハ戦債ニ關スル支払ノ履行ハ會議ノ期間中留保セラルベク尤モ署名国政府ハ會議ハ出来ル限り短キ期間内ニ其ノ事業ヲ完了スベキモノナリトノ意見ナリ

市場ニ於テ募集セラレタル公債ノ支払ハ本決定ニ依リ影響ヲ受ケアルモノトス

署名国政府ハ各自本了解ニ從テ行動スルノ用意アルモノニシテ本會議ニ参加セル他債権国政府ニ對シテモ同様ノ態度ヲ採ランコトヲ勧請スルコトヲ声明ス

右声明ノ最後ノ項ニ包含セラル招請ニ從ヒ「オーストラリア」聯邦、「カナダ」、希臘、印度、「ニュージーランド」、「ボーランド」、「ポルトガル」、「ルーマニア」、「チエツコスロヴアキア」南阿弗利加聯邦及「ユーゴースラヴィア」各國政府ハ後ニ之ニ加入セリ

此ノ声明ニ際シ或政府ハ會議議長ニ書翰ヲ送リタルガ右書翰ハ記録ニ保管セラル

千九百三十二年六月十六日ヨリ七月九日ニ至ル会合ノ結果左記文書ノ作成ヲ見タリ

#### 一、独逸国トノ協定

#### 二、独逸国ニ関スル経過措置

#### 三、独逸国以外ノ賠償ニ関スル決議

#### 四、中部及東部「ヨーロッパ」ニ関スル決議

#### 五、世界經濟財政會議ニ関スル決議

本議定書ハ英吉利語及仏蘭西語ヲ以テ共ニ正文トシ仏蘭西共和国政府ノ記録ニ保管セラルベク仏蘭西共和国政府ハ「ローランヌ」會議ニ参加セル各國政府及千九百二十九年一三十年「ヘーグ」會議ニ参加セル他國政府ニモ認證謄本ヲ交付スベ

シ

千九百三十二年七月九日「ローランヌ」ニ於テ本書一通ヲ作成セリ

會議議長（署名）「ジエー・ラムゼー・マクドナルド」  
事務総長（署名）「エム・ピー・エー・ハンケー」

（説明）

(イ) 最終議定書ハ會議ノ経過及成果ヲ錄スルニ止マルヲ以テ議長及事務総長ガ之ニ署名セルノミナリ尚海牙會議ノ最終議定書ニハ議長及事務総長ノ外各代表部ノ書記官ガ一々署名シタルガ今回ハ其ノ必要ナカルベシトテ之ヲ為サザリシモノナリ

(ロ) 最終議定書中六月十六日ノ五国声明ニ付テハ第二章第三節ニ詳述セル通ニテ右声明ニ關連シ「此ノ声明ニ際シ或政府ハ會議議長ニ書翰ヲ送リタルガ云々」トアルハ白耳義ガ麻問題ニ關シ又羅馬尼「ユーゴースラヴィア」等が留保ニ關シ夫々議長ニ書翰ヲ送レルコトヲ指スモノナリ（第二章第三節参照）

(ハ) 尚本議定書末段ニハ會議ノ成果タル五個ノ文書ヲ列記セルガ此等文書ハ本議定書ノ附屬書ニハアラズ何レモ独立別個ノモノニ属シ或ハ條約ト認ムベキモノアリ或ハ単ナル決議ニ止マルモノアリ其ノ内容ニ依リ文書ノ性質ヲ究ムルノ要アルモノトス

#### 第一、「独逸国トノ協定」

（前文）

「白耳義国皇帝陛下ノ政府、「グレート、ブリテン」及北部「アイルランド」聯合王国政府、「カナダ」政府、「オーストラリア」聯邦政府、「ニュージーランド」政府、南阿弗利加聯邦政府、印度政府、仏蘭西共和国政府、希臘共和国政府、伊太

利国皇帝陛下ノ政府、日本國皇帝陛下ノ政府、「ボーランド」共和国政府、「ボルトガル」共和国政府、「ルーマニア」国皇帝陛下ノ政府、「チエツコスロヴアキア」共和国政府、「ユーゴースラヴィア」国皇帝陛下ノ政府（以下債權國政府ト称ス）及独逸國政府ハ

千九百三十年一月二十日「ヘーベー」ニ於テ署名セラレタル協定ノ法律上有効ナルコトハ疑問ナキコトヲ認メ而シ現下恐慌ノ結果タル経済上ノ困難ニ関心ヲ有シ

且国民間ノ正常ナル経済上及財政上ノ関係ノ発展ニ缺ク可カラザル信頼ヲ確保スルニ必要ナル努力ヲ彼等ノ閥スル限り為サムト欲シ

其ノ各政府ヨリ正当ナル権限ヲ附与セラレタル下記署名者ハ左ノ如ク協定セリ

（説明）

(1) 独逸代表ガ本前文ニ於テ海牙協定ノ法律上有効ナルコトヲ認メタルハ注目ニ值スベシ独逸代表ハ會議開催勞頭其ノ第二回總会ニ於テ明ニ海牙協定ノ法律上有効ナルハ何人モ疑問トセザル処ナルモ唯独逸ハ事實上賠償支払不能ナルコトヲ声明シ居レリ

(2) 前文第四項末段ニ信頼確保ニ必要ナル努力ヲ「彼等ノ閥スル限り」為サムトス云々ノ字句アル處右ハ「ローザンヌ」會議目的ノ達成ハ究極ニ於テ米國ノ態度ニ係ルモノナルカ同國ハ「ローザンヌ」會議ニ参加セザルヲ以テ特ニ彼等ノ閥スル限りトセルモノナリ

「宣 言

本協定ノ署名國ハ和解協力及正義ノ相互的精神ニ依リ国民間ニ信頼ヲ確立發達セシムベキ新事態ヲ創設スルニ寄与セムトスル確固タル意思ヲ以テ戰争ノ結果生ジ来レル問題ノ一ヲ處理スル為ニ「ローザンヌ」ニ參集セリ

右署名國ハ「ローザンヌ」ニ於テ達成セラレタル事業ハ賠償ヲ完全ニ終結セシムベキモノナルモ夫ノミニ依リ總テノ国民

署名國ハ目下存在シ若ハ今後發生スルコトアルベキ問題ヲ本協定ノ精神ニ依リ解決スル為ニ總ユル努力ヲ為スベシ

（説明）

(1) 現在ノ世界的經濟不況ヲ打開シ一般ノ不安ヲ除去スル為ニハ「ローザンヌ」會議ニテ賠償問題ノ永続的解決ヲ為シ經濟不況ノ対策ヲ講ズルト共ニ何等カ政治的宣言ヲ為スベシトハ會議開会ノ際「マクドナルド」議長ノ演説等ニモ述ベラレタル所ナルガ六月二十八日ノ英仏獨代表ノ會談ニ於テ獨逸側ハ獨逸經濟復興後一定額支払ノ受諾ノ条件トシテ右支払ガ賠償ノ名義ヲ有セザルコトスル同時ニ獨逸軍備平等ノ主張ヲナシタルニ對シテ「エリオ」首相ハ勿論「マクドナルド」議長モ反対シタルヲ以テ之ニ代ルベキ平和確保ニ関スル宣言ヲ作ルコトトナリ英仏獨三代表間ニ話ヲ進メ「不戰條約」「ロカルノ」協定其ノ他ノ政治的平和保障ニ関スル諸種ノ國際約束ニモ鑑ミ會議參加國ハ世界經濟回復ニ必要ナル安全感及相互信賴ヲ弱ムルガ如キ一切ノ行動ヲ各自國々内ニ於テ抑止シ相互共通ノ利害ニ関係ヲ有スル政治問題ヲ提起スルニ先チ友好的協議ヲ為スベシトノ趣旨ノ一宣言案ヲ得タルガ右宣言案中ニ引用セラレタル平和保障ニ關スル各種國際約束ガ歐洲國間ノモノ多ク「ローザンヌ」會議參加國ノ全部ガ之ニ加盟スルニハ適當ナラズ旁々尚種々審議ヲ統ケタリ而シテ會議終結直前獨逸政府ヨリ國際決済銀行ニ引渡スベキ債券ノ金額決定ニ関連シテ獨逸側ハ復々平和條約第二三二条ノ削除及軍備平等ノ問題ヲ提起シ仏獨間ニ激シキ論議ヲ見タルガ結局本件宣言ニ落付キタルモノナリ尚本件宣言起草ニ當リ仏獨間ニ介在シテ寧口調停ノ役目ヲ為シタル英國代表部側ニテハ右ハ一般署名國ニ適用アルガ如キ形式トナリ居ルモ事情上述ノ如キヲ以テ專ラ仏獨間ノ政治休戦（Trêve Politique）ヲ趣旨トスルモノナリト内話セリ（第二章第四節

(第五項参照)

(ロ)而シテ本宣言ハ体裁上ハ寧口前文中ニ包括セシムル方可トスベキガ如キモ上述ノ如キ事情ニテ其ノ形式ハ兎モ角内容ハ幾多折衝ノ結果ニ成レル妥協案タルニモ鑑ミ英仏独側殊ニ英國側ノ主張ニテ「独逸国トノ協定」ノ前文ノ後、条文ノ前二挿入スルコトトナリタリ

第一 条

(前文)

「独逸国政府ハ國際決済銀行ニ下記ノ条件ニ依リ売出サルベキ独逸国政府五分利附償還債券ヲ現在ノ標準純分及量目ヲ有スル三十億金「ライヒスマルク」ノ額迄引渡スベシ。」

(説明)

(イ)「ドゥズ」公債及「ヤング」公債ノ元利払ハ右三十億麻トハ別ニ支払ハルベキコト勿論ナルガ(第七条第一項参照)右三十億麻ハ賠償ノ打切支払ニシテ今後独逸政府ハ右金額ノ外ニ何等支払ヲ為スヲ要セザルモノトス即「新案」(ヘーグ協定ニ依ル千九百三十二年七月以降ノ支払ハ勿論千九百三十一年七月以降一年間ノ支払ニシテ「フーヴァー」大統領ノ「モラトリアム」声明ノ結果千九百三十一年八月十一日附協定ニ依リ支払ヲ猶豫セラレタル条件附年金及一旦支払ヲ為シ更ニ独逸鉄道会社ニ貸付ケラレタル無条件年金ノ支払又ハ償還債務(以下「フーヴァー」年金ト称スルコトアルベシ)モ右三十億麻ノ外ニ支払フノ要ナキモノトス(第二条参照)

(ロ)金額決定ノ経緯ハ別項詳説ノ通り(第二章第四節参照)

(ハ)当初英國専門家ノ原案ニハ独逸政府ハ歐洲復興資金ニ醵出スル為本債券ヲ引渡ス旨ノ文句アリタルガ債権国幹部会ニ於テハ右ノ儘ニテハ本債券ノ手取金ノ分配問題ニ触レ事態紛糾スル懼アリトシテ之ヲ削除シ且ツ分配問題ハ将来独逸以外ノ署名国間ニ協定スルコトセリ独逸代表ハ其ノ后最後迄本債券引渡ノ目的ハ歐洲復興資金ニ醵出スルモノナル旨ヲ附

加センコトヲ主張シタルモ債権国側之ニ応ゼズ結局前記ノ如ク此ノ点ニ付テハ何等言及セザルコトニ決セリ(後記第五項説明参照)

「第一項

「國際決済銀行ハ受託者トシテ本債券ヲ保有スベシ」

(説明)

本項ハ國際決済銀行ヲシテ債権国ノ受託者タル資格ニ於テ独逸ノ提供スベキ債券ヲ保有セシメントスルニ止マリ当初ヨリ何等議論ナカリキ而シテ債権国ノ受託者ト明示セザルモ第五項ニ於テ手取金ノ分配ハ債権国間ニ協定スベキコトヲ規定シ居ルコト及第二条ニ於テ新案ノ年金債務ニ代ル云々ト規定スルニ依リ自ラ明ナリト謂フベシ

「第二項

本債券ハ本協定署名ノ日ヨリ三年ノ経過以前ニハ國際決済銀行ニ依リ売出サレザルベシ該署名ノ日ヨリ十五年後ニ於テ國際決済銀行ノ売出シ得ザリシ債券ハ廃棄セラルベシ

(説明)

(イ)本項前段ニ於テハ独逸政府提供ノ債券ヲ國際決済銀行ニ於テ売出シ得ザル期間ヲ規定セリ而シテ其ノ真意ハ後記第三項及第四項ニ依リ明ニシテ第四項ニ於テハ売出シタル債券ニ付テノミ利子及減債基金ヲ支払フ旨規定シ居ルヲ以テ三年間ハ独逸ニ対シ全然支払猶豫ヲ認ムルコトトナルノミナラズ売出ニ閔シテハ第三項ニ依リ最低発行価格ニ依ル制限ヲ附シ居ルヲ以テ独逸ノ信用及市場ノ状況改善シ最低発行価格以上ヲ以テ本債券ヲ売出シ得ルニ至ル迄ハ實際上支払猶豫ヲ継続スルノ結果トナルベシ

(ロ)当初英國案ニ於テハ國際決済銀行ガ本債券ヲ売出シ得ザル期間ヲ五年トセルニ対シ仏国代表ハ長キニ失スト為セリ即前述第三項及第四項ノ規定ヲ存置スルトセバ二年ヲ以テスルモ充分ナリト主張シ一応四年トセルガ(六月二十九日午

(後債権国幹部会) 其後仏国側ハ第四項ノ採用即利子及減債基金ハ売出シタル債券ニ対シテノミ附スル事ニ同意セル代  
リニ右売止期間即支払猶豫期間ヲ三年トスル事ニ一致セルモノナリ (七月一日債権国幹部会)

(ハ)一定年限経過後例ヘバ十年後尚売出シ得ズ國際決済銀行ニ残り居ル債券ハ廃棄スベシトノ提案ハ当初独逸代表ヨリ提出セラレ債権国幹部会ニ於テ協議セル所ナルガ本債券ハ独逸ノ信用回復スル迄売出スコトヲ得ズ且一回三纏メテ売出スコトハ不可能ニシテ實際上数回ニ分チ売出サザルベカラズ然ルニ若シ十年ト云フガ如キ期間ニ限定スルトキハ實際上債券ノ大部分ハ売出シ不可能トナルベク又市場ハ速ニ売出サルベキコトヲ豫期スベク既發行独逸公債ノ信用ヲ維持スル所以ニ非ズトテ反対シ債権国側一致案ニ於テハ売出最終期限ニ関スル条項ヲ挿入セザルコトトセリ然ルニ独逸側トノ交渉ノ最終階梯ニ於テ独逸側ヨリ再ビ之ヲ提出シ仏国側ハ二十年トスルニ於テハ受諾スルモ差支ナシト云ヒタルガ結局十五年ニ決定セリ要之本協定署名ノ日ヨリ三年間ハ売止期間爾後ノ十二年間が売出可能期間トナリタル訳ナリ。

### 「第三項

上記三年ノ期間後ハ國際決済銀行ハ可能ナルニ從ヒ一般發行ノ方法ニ依リ市場ニ其ノ適當トスル額ニ依リ本債券ヲ売出スベシ但發行ハ九十「パーセント」未満ノ割合ニ於テハ行フベカラズ。独逸国政府ハ何時タリトモ國際決済銀行ニ依リ未ダ發行セラレザル債券ノ全部又ハ一部ヲ額面ニ依リ償還スル權利ヲ有スベシ債券ノ發行条件決定ニ当リテハ國際決済銀行ハ独逸国政府ニ適當期間後債券ヲ償還スル權利ヲ与フルノ望マシキ事ヲ考慮ニ入ルベシ。」

#### （説明）

(イ)本項前段ニ於テハ賣出事務ヲ國際決済銀行ニ委託シ賣出可能ナル場合ニハ其ノ適當トスル額ノ賣出ヲ實行スベキ事ヲ規定スルト同時ニ其ノ賣出ハ公募ノ方法ニ依ルベキ事ヲ規定シ更ニ最低發行価格ヲ九十「パーセント」以上トスルノ制限ヲ附シ以テ独逸公債ノ信用維持ヲ図ル事トセリ。

(ロ)三年経過後賣出可能ナルヤ否ヤ及其ノ賣出額ヲ如何ニスベキヤノ決定ハ國際決済銀行ノ裁量ニ委ネタルガ其ノ賣出方法ハ公募ノ方法ニ依リ市場ニ賣出サザルベカラズ從テ千九百三十一年八月十一日附倫敦議定書ニ依ル鐵道債券ノ如ク債権國ノ公共ノ金庫又ハ機關若クハ當造物ヲシテ直接引受ケシムル事能ハザルモノト解スルヲ適當トスベシ

(ハ)最低發行価格ハ之ヲ九十「パーセント」トシタルモ後記第七項ニ依リ変更ノ餘地ヲ存シタリ。賣出ノ条件トシテ当初英國原案ニ於テハ『独逸ノ信用回復シ既發独逸公債が五分利ノ基礎トナル迄』本債券ヲ賣出スコトヲ得ズトスルノ条件ヲ附シ居リタルモ白国代表ノ提案ニ依リ實際上ノ見地ヨリ發行価格ニ依ル制限ヲ附スルヲ適當ト認メ之ヲ九十「パーセント」トセル次第ニシテ其ノ結果約五分五厘基礎ニテ本債券ヲ賣出シ得ルコトナリ英國原案ノ条件ニ比シ賣出容易トナレリ

(二)独逸側ハ債券金額ヲ數種ノ部分例ヘバA、B、C、等ニ分チAハ最低發行価格ヲ九十「パーセント」トスルモB及Cハ之ヨリ高ク定ムベシト主張セルモ債権国側ハ九十「パーセント」ハ最低發行価格ニシテ現実ノ發行価格ハ國際決済銀行ニ於テ決定セシムルモ独逸ノ利益及信用ヲ害スル懼ナシトシ結局独逸提案ヲ採用セザリキ

(ス)本項後段ノ未ダ賣出サザル債券ノ買戻權及賣出ス場合ノ据置期間ノ問題ハ債権国側提案ニ於テハ掲記セザリシモ最後ニ至リ独逸側ヨリ之ヲ要求シ債権国側ニモ別ニ異議ナク本項ノ如ク決定セル次第ナリ

(シ)尚本項ノ解釈ニ關シ七月八日日、英、仏、獨、白、伊六国大蔵省専門家ハ左記議事録ニ署名セリ  
『独逸債券ニ關スル計画ノ第三項ニ關シ独逸国政府債券ノ發行ハ独逸國ノ信用ノミヲ基礎トスルニ非ザレバ行ハレザルベキコトト了解ス』(附属書第二三号)

右ノ如キ議事録ニ署名スルニ至レル七月八日午後ノ六国大蔵省専門家会合ニ當リ独逸専門家ハ債権国政府ニ於テ九十「パーセント」以上ノ發行価格ニテ發行スル為独逸政府ノ引渡スベキ債権ニ裏書ヲ為シテ發行スルガ如キ事ハ承認シ得ザルヲ以テ此ノ意味ヲ以テ前記議事録ノ如ク單ニ独逸ノ信用ノミヲ基礎トスベキ事ヲ明ニスルノ条項

ヲ挿入スベシト主張シタルニ対シ債権国側専門家ハ右独逸専門家ノ提案ノ理由ヲ解スル能ハズト為シ意見ヲ交換セル所右独逸専門家ノ主張ハ債権国側ニ於テ対米戦債ノ支払ニ充当スル為独逸政府ノ債券ニ裏書シテ之ヲ米国政府ニ交付スルガ如キ場合ヲ豫想シ之ヲ防ガントスル趣旨ナルコト明カトナリタルヲ以テ之ニ対シ債権国側専門家ハ債券ハ一般募集ノ方法ニ依リ市場ニ売出スベシト規定シ居ルヲ以テ独逸専門家ノ豫想スルガ如キ事態ハ發生セザルベシト為シタルモ独逸専門家ハ自説ヲ固持シタルヲ以テ結局之ヲ議事録ノ形トスル事トナリタル次第ナリ。

#### 〔第四項〕

本債券ハ売出シタル日ヨリ五「パーセント」ノ利子及一「パーセント」ノ減債基金ヲ伴フベシ右ハ現在及将来ノ総テノ独逸国ノ租税ヲ免除セラルベシ」

#### 〔説明〕

(イ)利子五分及減債基金一分ニ付テハ当初ヨリ問題ナカリシモ何時ヨリ之ヲ附スベキヤニ付テハ議論分レ英國原案ニ於テハ売出シタル日ヨリ之ヲ附スベシト為セルニ対シ仏國代表ハ売出シタル債券ニ対シテ之ヲ附スルト同時ニ英國原案ノ如ク売出ニ付嚴格ナル条件ヲ附スルトキハ永久ニ支払猶豫ヲ認ムルニ等シク到底承認シ得ズトシ売出ザルモノニ付テモ利子及減債基金ヲ附スベシト主張セルガ英國代表ハスクテハ「ヤング」案ノ制度ヲ縮少シ無条件年金ノ一部ヲ継続支払ハシムルコトトナリ市場ノ状況並独逸信用回復程度如何ヲ度外視シテ支払ヲ為サシムル事トナルヲ以テ絶対ニ賛成シ得ズトシ結局売出ニ対スル条件ヲ緩和シ且ツ売止期間ヲ三年ニ短縮シ以テ売出済債券ノミニ元利払ノ義務ヲ生ズル本条項ニ仏國モ賛成セル次第ハ前述ノ通りナリ(第一項説明参照)

(ロ)独逸ノ租税ハ国税ノミナラズ地方税ヲモ免除スルノ趣旨ナル事单ニ独逸ノ租税ト云ヒタルニ依リ明カナリ  
本項ニ付注意スベキハ免税条項ヲ規定セルモ担保条項ナシ従テ本債券ニハ「ドウズ」公債及「ヤング」公債ト異ナリ、  
何等特別ノ担保ナク独逸政府ノ信用ヲ基礎トシテ発行セラルルコトナルベシ。

#### 〔第五項〕

発行セラレタル場合ノ本債券ノ手取金ハ特別勘定ニ繰入レラルベク其ノ分配ハ適當ナル時期ニ独逸国以外ノ本協定署名  
国政府間ニ更ニ協定スル所ニ依リ決定セラルベシ」

#### 〔説明〕

本項ハ分配問題ニ関スル規定ニシテ本邦ニトリテ直接ノ利害關係ヲ有ス当初英國原案ニ於テハ債券売出ノ場合ノ手取  
金ノ四分ノ一ハ中部及東部歐洲諸國ノ利益ノ為ニ特別勘定ニ払込ミ残四分ノ三ハ戦債ノ支払ニ充当スベク若シ戦債ガ  
廃棄セラレタル場合ニハ此ノ部分ニ相当スルモノハ廃棄セラルベシトノ趣旨ヲ規定セリ右ハ将来ノ独逸ノ支払ヲ以  
テ戦債支払ニ充当スルノ方法ハ「ヤング」案ニ依リテ明確ニ定メラレタル所ナルヲ以テ将来ノ独逸ノ支払モ此ノ目的  
ニ充當セントスルノ考案ナリ。特ニ独逸側が賠償帳消ヲ主張シ其ノ支払能力ナキコトヲ固持シ来レルニ拘ラズ種々ノ  
曲折ヲ経テ一定金額ノ支払ヲ承認スルニ至リタル所以ハ戦争損害ノ支払又ハ戦債支払ノ資金提供ノ為ニ非ズシテ歐洲  
復興資金トシテ之ヲ醸出スルモノナリト説明シ從テ独逸側ノ主張ハ自然英國原案ニ反映シ前記中部及東部歐洲諸國ノ  
利益ノ為ニ一部ヲ使用スル提案トナリタルモノトス  
加之、「ユーロースラヴィア」其ノ他ノ小国ニシテ賠償収入ガ財政上相當重要ナル地位ヲ占ムル諸国ニトリテハ今回会  
議ノ決定スルガ如キ少額ノ独逸支払ヲ以テシテハ其ノ財政上ノ打撃頗ル重大ナルモノアリ従テ是等諸国ニ対スル救済  
問題ヲ生ズルニ当リ右分配案ハ之ヲ緩和調節スルノ手段トナルベシ  
然レドモ本邦ノ如キ歐洲復興資金ニ関シ何等直接ノ関係ヲ生ゼズ且ツ又戦債ヲ有セザルヲ以テ英國原案ニ依レバ結局  
本邦トシテハ独逸ノ支払ニ対シ直接何等ノ分配ニ与ラザルノ結果トナルベシ斯ノ如キハ仮令分配金額又ハ比率ノ多少  
ハ別問題トスルモ一見本邦ニトリ不公正ナル結果ヲ生ズルノ懼アリ依テ分配問題ニ関シテハ本代表等ハ其ノ特殊ノ地

位ヲ説明シ英國原案ニ対シ其ノ態度ヲ留保シ來リタルガ幹部会其ノ他ノ会合ニ於テハ支払金額並ニ發行条件ニ大部分ノ時日ヲ費シ正式ニ分配問題ニ関スル討議ノ餘裕ヲ得ズ尚又之ヲ問題トスル時ハ各國ノ利害錯綜シ議論紛糾ヲ生ズル懼アリ且対米戦債交渉ノ関係ヨリ見ルモ分配問題ヲ明確ニ決定シ置ク事ハ却テ不利不便ヲ生ズベク尚又中部及東部歐洲諸国復興資金ノ如キ其ノ所要緊急ナルニ際シ独逸支払ハ少クトモ三年間ノ支払猶豫適用セラレ其ノ後ニ於テモ市場ノ状況如何ニ依リ現実ノ支払ヲ見ルガ如キ仕組ナルヲ以テ此ノ支払ヲ充当シテ歐洲復興ヲ図ラントスルガ如キハ餘リニ羊頭狗肉ノ觀ナキニ非ズトノ見地ヨリ英國ハ本邦代表ノ本件言及ヲ機会ニ前記原案ヲ撤回シ協定第五項ノ案文ヲ提出シ諸国之ニ賛成シ結局独逸側ノ主張モ協定ノ上ニ於テ何等明記セラル所ナク他日適當ノ時機ニ於テ債権国間ニ於テ協議スルコト

トナレル次第ナリ其ノ時機ニ付テハ恐ラク対米戦債交渉ノ成行ヲ見極ムル迄ハ確定スルニ至ラザルベシ

#### 〔第六項〕

若シ本協定ノ効力發生後何時タリトモ何等カノ外債ガ独逸国政府ニ依リ又ハ独逸国政府ノ保證附ニテ發行セラルルトキハ独逸国政府ハ其ノ起債ノ純現金手取金ノ三分ノ一相当額迄ヲ國際決済銀行ニ依リ保有サルル本債券ノ買入ニ充当スル為ニ提供スベシ其ノ買入価格ハ右ノ如ク買入ル本債券ノ純利廻ガ右發行外債ノ純利廻ニ等シキモノタルガ如ク定メラルベシ本項ハ十二ヶ月ヲ超エザル期間ノ公債ニハ關係ナキモノトス

#### 〔説明〕

(イ) 本項ハ本債券ノ売出期間満了迄ハ独逸政府ノ外債又ハ保證外債ノ發行ヲ抑制スルト共ニ本債券ノ売出又ハ償却ヲ促進スル趣旨ノ規定ニシテ当初英國原案ニ於テハ独逸政府ハ國際決済銀行ノ同意ヲ得ルニ非ザレバ外債ヲ發行セザル事ヲ約束スル事トナリ居タルモ斯クテハ甚ダシク独逸政府ノ外債發行ヲ制限スル事トナリ適當ニ非ザルヲ以テ本項ノ如ク改メ間接ニ外債發行ヲ抑制スル事トセリ而シテ單ニ独逸政府ノ外債ノミヲ以テハ本項所期ノ目的ヲ達スル事能ハザル

#### ヲ以テ保證債ヲモ加ヘタリ。

(ロ) 当初債権国側一致案ニ於テハ三年ノ支払猶豫期間中ニ發行サルモノニモ適用アリヤ否ヤ明瞭ナラザリシモ仮令支払猶豫期間中ト雖モ外債ヲ發行シ得ル程信用回復シ現ニ外債ヲ發行スルニ於テハ其一部ヲ未ダ賣出サザル独逸政府ノ債券ノ買戻ニ充当セシムル事適當且公平ナルベク又同時ニ本協定署名セラルルモ本協定實施迄ハ独逸政府ノ債券ハ未ダ正式ニ作成セラザルヲ以テ「本協定實施後何時タリトモ」ノ字句ヲ挿入セリ。

(ハ) 独逸政府ノ外債又ハ其ノ保證外債ノ發行ヲ見タル場合其ノ純利廻ガ例ヘバ六分ニ相当スルガ如キ場合ニハ本債券ノ買戻価格モ其ノ純利廻六分ニ相当スル如ク定メラルベク從テ本項ノ適用ヲ見ル場合ニハ前記第三項ノ最低發行価格九十「パーセント」ノ適用ナキモノトス

(二) 本項ハ長期外債ニ適用サレ短期ノ外債ニ適用ナキ事ニ付テハ何等ノ議論ナカリシモ中間的期限物ニ適用サルベキヤ否ヤニ付テハ独逸側ハ適用アリトシ仏國側ハ之ニ反対シ結局十二ヶ月以内ノ短期物ノミヲ除外スル事トシ其旨ヲ明ニセリ

#### 〔第七項〕

若シ本協定署名ノ日ヨリ五年後ニ於テ國際決済銀行ガ独逸国政府ノ信用回復セリト思惟スルニ拘ラズ而モ其ノ公債ノ相場ガ上記第三項ニ定メラレタル最低發行価格未満ニ留マリ居ルトキハ最低發行価格ハ國際決済銀行理事会ノ決定ニ依リ変更スルコトヲ得ベク其ノ決定ハ三分ノ二ノ多数ヲ要ス

(説明)

(イ) 本項ハ第三項ノ最低發行価格ニ依ル賣出制限ヲ緩和スルノ餘地ヲ存セシメタルモノニシテ發行価格ハ一応九十「パーセント」ト定メタルモ独逸ノ信用回復シタルニ拘ラズ何等カノ理由ニ依リ其ノ公債相場ガ五分利九十「パーセント」

ノ基礎ニ上ラザルコトアリ得ベク此ノ場合依然最低発行価格ヲ九十「パーセント」トスルトキハ遂ニ売出ノ実行不可能ニ終ルコトアリ得ベキヲ以テ本項ニ依リ緩和セントスルモノナルガ之が為ニハ本協定署名ノ日ヨリ五年ノ経過後タルヲ要シ且ツ國際決済銀行理事会ノ三分ノ二ノ多数決ニ依ルヲ要ス。

(b)右最低発行価格ノ変更ハ債権国側一致案ニ於テハ國際決済銀行が独逸政府ノ同意ヲ得テ行フコトトシ独逸政府ト國際決済銀行ト意見一致セザル場合ニハ仲裁ニ依リ之ヲ決定スルコト為リ居リシモ独逸側ハ第七項全部ニ反対シ殊ニ独逸政府ト國際決済銀行トノ意見一致セザル場合ニ仲裁ニ附スルコトニハ断然反対シ单ニ独逸政府ノ同意ヲ要スルコトトセントセシモ右ハ仏国初メ債権国側ノ到底受諾シ得ザル所ナリシヲ以テ結局國際決済銀行理事会三分ノ二ノ多数決ニ改メタルモノナリ

(b)本項末段ノ規定ハ債権国側一致案ニハナカリシモノナルガ本債券ハ五分利トシテ総額ハ三十億麻ト決定セルモノナルヲ以テ独逸側ハ五分利ニテ額面即百「パーセント」ニテ發行セラル場合ニハ別ニ差支ナキモ若シ独逸政府ノ信用回復シ五分未満ノ利率ニテ額面ニテ売出シ得ルニ拘ラズ依然利率ヲ五分トスルトキハ債権國ハ総額三十億麻以上ヲ得ルコトトナルノミナラズ若シ此ノ場合ニモ依然五分ニテ額面ニテ売出ストキハ独逸政府ノ信用ヲ低下セシムルヲ以テ若シ五分未満ノ利率ニテモ額面ニテ売出シ得ル場合ニハ利率ヲ引下ゲ得ルノ餘地ヲ存スペシト主張シ末段ノ規定ヲ挿入スルニ至レリ。

#### 〔第八項〕

國際決済銀行ハ發行セラルル本債券ノ通貨並券面額ニ関スル總テノ問題及發行ノ負担並費用ニ関スル總テノ問題ヲ決定スルノ權限ヲ有スペク國際決済銀行ハ負担並費用ヲ發行手取金ヨリ控除スルノ權利ヲ有スペシ本債券發行ニ関スル如何ナル問題ヲ考慮スルニ当リテモ國際決済銀行ハ「ライヒスバンク」總裁ノ意見ヲ徵スベシ但決定ハ多数決ニ依リ為スコトヲ得」

#### 〔説明〕

(i)本項前段ハ賣出ニ關スル細目ノ決定ヲ國際決済銀行ニ委ヌルモノニシテ特ニ説明ヲ加フルノ要ナシ。

(ii)当初英國原案ニ於テハ國際決済銀行ノ決定ハ總テ全会一致タルコトヲ要スルコトナリ居リシモ仏國ノ反対ニ依リ債権國側一致案ニ於テハ單ニ本項末段ノ如ク「ライヒスバンク」總裁ノ意見ヲ徵スベキモ決定ハ多数決ニ依ルコトト改メタルニ止マリ最低発行価格ノ変更ニハ三分ノ二ノ多数決ヲ要ストスルノ規定ナカリシヲ以テ本項末段ハ極メテ重要ノ意味ヲ有シ独逸代表ハ強硬ニ反対セルモ結局第七項ニ於テ三分ノ二ノ多数ヲ要スルコトシタルヲ以テ本項ハ細目ノ決定ニ関スルニ止マルニモ鑑ミ強ヒテ反対セザリキ

(iii)尚独逸側ハ債券ノ「テキスト」ハ独逸政府ト國際決済銀行ト協議決定スルコトトシ其ノ趣旨ノ条項挿入方ヲ主張シタルモ結局右ハ特ニ挿入セズ只独逸代表ヨリ七月八日夜ノ總会席上右趣旨ト諒解スル旨ノ質問ヲ為シ議長之ヲ肯定スルニ完全ニ代ルベシ」

#### 〔第二条〕

(i)本條ハ前記海牙協定、倫敦議定書及伯林議定書ノ規定スル賠償制度並支払債務二代ルニ本協定所定ノ制度並ニ支払債務ヲ以テスルコトヲ包括的ニ規定スルモノニシテ之ニ依リ從来ノ賠償制度並支払債務ハ終止セラルルモ之ニ依リ直ニ前記セラルル賠償制度ヲ終止セシメ且之ニ代ルベシ本協定ヨリ生ズル債務ハ「新案」ノ年金ニ包含セラルル独逸國ノ從來ノ債務ニ完全ニ代ルベシ」

#### 〔説明〕

(i)本條ハ前記海牙協定、倫敦議定書及伯林議定書ノ規定スル賠償制度並支払債務二代ルニ本協定所定ノ制度並ニ支払債務ヲ以テスルコトヲ包括的ニ規定スルモノニシテ之ニ依リ從来ノ賠償制度並支払債務ハ終止セラルルモ之ニ依リ直ニ前記セラルル賠償制度ヲ終止セシメ且之ニ代ルベシ本協定ヨリ生ズル債務ハ「新案」ノ年金ニ包含セラルル独逸國ノ從來ノ債務ニ完全ニ代ルベシ」

依然存続スルモノニシテ此ノ点ハ第三条以下ノ規定ニ依リ自ラ明ナリト謂フベシ。

(ロ)本条ノ真意ハ一九三二年七月以降ノ「新案」ノ年金債務及所謂「フーヴアー」年金即前記倫敦議定書並柏林議定書ニ依リ猶豫セラレ又ハ独逸鉄道会社ニ貸付ケラレタル一九三一年七月乃至一九三二年六月ニ於ケル新案ノ年金債務ノ支払又ハ償還債務二代フルニ前条所定ノ独逸政府ノ債券三十億麻ヲ以テセントスルモノニシテ右三十億麻ノ支払ソノモノハ形式的ニハ賠償支払ニハ非ズ又右三十億麻ノ債券交付ニヨリ所謂「フーヴアー」年金ノ支払又ハ償還債務ヲモ廃棄スルコトトセル経緯ハ金額決定ノ経過ニ関スル説明ニ於テ詳述セリ（第一章第四節参照）

(ハ)本条ニ依レバ海牙協定ノ賠償制度並ニ支払債務ハ本協定実施ノ日ニ終止スルコトトナリ居リ又経過措置ニ関スル規定第一条ニ於テハ六月十六日ノ支払履行留保ニ関スル五国声明ノ効果ハ本協定ノ実施ニ依リ終結スルコトトナリ居リ本協定自身ヲ過去ニ溯及実施スル旨ノ字句ナキモ本条後段ニ於テ「本協定ヨリ生ズル債務ハ「新案」ノ年金ニ包含セラルル独逸國ノ從来ノ債務ニ完全ニ代ルベシ」ト規定シ居ルニ依リ本協定ノ効果トシテハ實質上過去ノ独逸債務が本規定所定ノ義務履行ニ依リ消滅スルコトトナルベシ而シテ本条ハ千九百三十一年八月十一日附倫敦議定書及千九百三十二年六月六日附柏林議定書ハ批准サレ一度確定的ニ効力ヲ發生シタル上更ニ之ヲ終止セシムルノ立前ヲ採リ居ルモノニシテ右両議定書ノ批准ヲ見ル場合ニハ前記「從來ノ債務」ハ「新案」ノ千九百三十二年七月一日以降本協定実施ノ日ニ至ル迄ノ債務ヲ意味シ且ツ之ニ適用サルル結果トナルベシ然レドモ万一右両議定書ノ批准ヲ見ズ確定のニ実施サルルニ至ラザル場合ニモ何等支障ヲ生ズルコトナシ蓋シ此ノ場合ニハ從來ノ債務ハ「新案」ノ千九百三十一年七月一日以降ノ独逸政府ノ債務ヲ意味シ且ツ之ニ適用サルルモノト解スルコトヲ得ベケレバナリ尚又本協定ガ實施サレザルコト明トナレバ債権国ハ其ノ対独債権ヲ留保シ居ルモノナル故法律上ハ「フーヴアー・モラトリアム」前ノ事態ニ復帰スベシ尤モ此ノ事態ニ処シ如何ナル措置ヲ講ズベキヤニ付テハ新ナル會議ヲ開キ権利ヲ留保シタル期間並ニ将来ノ賠償問題ヲ審議スルコトトナル次第ナリ

(二)尚本条ニ於テ倫敦及柏林ニ於テ署名セラレタル協定トハ第四条ニ於ケル倫敦議定書及柏林追加議定書ヲ指スモノナリ

### 第三条

「從テ独逸トノ「ヘーグ」協定ノ第一条、第二条、第四条、第五条、第七条、第八条、第九条及第十二条並附属書第一、第三、第四、第五、第五ノ二、第六、第六ノ二、第七、第九、第十及第十ノ二ハ完全ニ廢止セラル」

(説明)

前記第二条ニ依リ海牙協定ノ賠償制度終止ノ結果左記条文及附属書ハ当然終止スルコトトナルベク本条ハ其ノ趣旨ヲ具体的ニ明確ナラシメタルモノナリ

- 第一条 「新案」ヲ完全且最終解決トスルモノ
- 第二条 従来ノ債務ノ破棄ニ関スルモノ
- 第三条 賠償委員会ノ廢止ニ関スルモノ
- 第四条 年金ト独逸外債支払トノ関係ニ関スルモノ
- 第五条 債務證書鉄道会社ノ債務證書ニ関スルモノ
- 第六条 支払猶豫宣言ニ関スルモノ
- 第七条 必要法律制定ニ関スルモノ
- 第八条 実物引渡ニ関スルモノ

附属書中

- 第一 債務不履行ノ場合ニ関スルモノ
- 第二 債務證書ノ形式ニ関スルモノ
- 第三 鉄道会社ノ債務證書ノ形式ニ関スルモノ

第五 独逸銀行法改正ニ関スルモノ

第五ノ二 独逸銀行法改正手続ニ関スルモノ

第六 独逸鐵道會社法改正ニ関スルモノ

第六ノ二 独逸鐵道會社法改正手續ニ関スルモノ

第七 独逸政府收入担保ニ関スルモノ

第九 實物引渡手續ニ関スルモノ

第十 独逸賠償回収法施行手續改正ニ関スルモノ

第十ノ二 仏國ヘノ独逸輸入価格徵取方法ニ関スルモノ

而シテ廃棄ヲ明記セザリシ左記ノモノノ中ニハ既ニ効力ヲ發生シ廃棄ヲ声明スル能ハザルモノアリ又廃棄ヲ声明スルノ要ナキモノモアリ

条文

- (a) 第三条 過去ノ清算ニ関スルモノ
- (b) 第六条 國際決済銀行設立ニ關スルモノ
- (c) 第十条 國際決済銀行ノ資金並ニ投資確保及免稅等ニ關スルモノ
- (d) 第十一条 國際決済銀行トノ信託契約ニ關スルモノ
- (e) 第十三条 「ドウズ」公債元利私確保ニ關スルモノ
- (f) 第十四条 「ドウズ」案ニ依ル諸管理、特別担保又ハ保障ノ廃止ニ關スルモノ
- (g) 第十五条 仲裁ニ關スルモノ
- (h) 最終条項 批准ニ關スルモノ

附屬書

- (a) 第一 経過規定
- (b) 第八 信託契約
- (c) 第十一 「ドウズ」公債ノ担保ニ關スルモノ
- (d) 第十二 仲裁裁判手続ニ關スルモノ

第四条

「千九百三十一年八月十一日「ロンドン」ニ於テ署名セラレタル議定書及千九百三十二年六月六日「ベルリン」ニ於テ署名セラレタル追加議定書ハ廃止セラル從テ千九百三十一年八月十一日ノ該議定書ニ基キ独逸國鐵道會社ヨリ國際決済銀行ニ手交セラレタル仮領收書ハ之ニ返還セラルベシ」

(説明)

(イ) 独逸ノ賠償債務ノ最終打切トシテ三十億麻ノ債券ヲ引渡シ所謂「フーヴァー」年金ヲモ廃棄スルコト本協定ノ趣旨ナルコトハ第二条ノ説明ニ於テ述べタル通りナルヲ以テ所謂「フーヴァー」年金即チ新案ニ依ル千九百三十一年七月以降一年間ノ条件付年金ノ支払債務及一旦支払ヒ更ニ独逸鐵道會社ニ貸付ケタル無条件年金ノ償還債務ニ關シ規定セル倫敦議定書及柏林ノ追加議定書ハ其ノ必要ナキニ至ルヲ以テ之ヲ廃止セントスルモノナリ

(ロ) 千九百三十一年八月十一日附議定書ニ依リ独逸鐵道會社ハ其ノ借受ケタル金額ニ対シ鐵道債券ヲ交付スルコトナリ居ル所(該議定書附屬書第一第一項(ロ)ノ二)未ダ鐵道債券ヲ作成交付スルニ至ラズ仮受領證ヲ國際決済銀行ニ交付シ居ルモノナルガ該議定書ヲ廃止シ其ノ償還債務ヲ取消スヲ以テ仮受領證ヲ返還セシメントスルモノナリ

第五条

「「ヘーネ」協定第八条並附屬書第三及第四ニ規定セラル獨逸國政府ノ債務證書及獨逸國鐵道會社ノ債務證書ハ「クーポ

ン」附ニテ夫々独逸国政府及独逸国鉄道会社ニ返還セラルベシ

(説明)

海牙協定ノ賠償制度及支払債務終止ノ当然ノ結果トシテ独逸政府ノ年金支払ノ債務證書及独逸鉄道会社ノ賠償税支払ノ債務證書ヲ返還スルコトヲ規定セルモノナリ

## 第六条

「本協定ニ於ケル何モノモ「ヘーグ」協定第三条（過去ノ清算）第六条（国際決済銀行ノ法人格ニ関スル限り）及第十条（国際決済銀行ノ特権）ヲ変更シ又ハ之ニ影響ヲ及ボスコトナキモノトス」

(説明)

本条ハ海牙協定第三条第六条及第十条ハ本協定ニ依リ何等影響ヲ受クルモノニ非ザルコトヲ明ニセル注意的規定ナリ  
(此ノ点ニ付テハ本協定第三条ノ説明参照)

## 第七条

「署名国政府ハ本協定中ノ何モノモ千九百二十四年独逸国外債及千九百三十年独逸国政府五分半利付国際公債ノ所持人ノ権利ヲ減損若クハ変更スルモノニアラズ又減損若クハ変更スルモノト認メラレザルベキコトヲ宣言ス

千九百二十四年独逸国外債ニ関スル及千九百三十年独逸国政府五分半利付国際公債ニ関スル独逸国政府ノ債務ヲ履行スル方法ニ関スル機構ノ必要ナル適應ハ一方独逸国政府及他方千九百二十四年独逸国外債ノ受託者ノ財務代理人及千九百三十年独逸国政府五分半利付国際公債ノ受託者タル国際決済銀行トノ間ノ相互取極ニ依リナサルルモノトス」

(説明)

(イ)本協定ニ依リ「ドウズ」公債及「ヤング」公債所持人ノ権利ヲ何等減損又ハ変更スルモノニ非ザルコトハ当初ヨリ議論ナカリシ所ナルガ「ドウズ」公債及「ヤング」公債ノ担保等ニ付テハ海牙協定ニ規定セラルルニ本協定第一条ニ於テ海

牙協定倫敦議定書及伯林追加議定書ノ賠償制度及支払債務ヲ終止セシメ殊ニ「ヤング」公債ニ付テハ其ノ支払資源ノ一部タリシ無条件年金ノ廃止及其ノ副担保タル賠償税ノ廃止ヲ見ル以上兩公債ノ所持人ノ権利ヲ害スルモノニ非ザルコトヲ明ニシ以テ兩公債ノ信用ヲ維持スルノ要アリ是本条前段ノ規定ヲ置キ更ニ又後段ノ規定ニ依リ必要ナル調整ヲ為スベキ旨ヲ明カニセル所以ナリ

(ロ)「ドウズ」公債ノ担保ニ付テハ海牙協定附属書第十一ニ規定スル所アリ右附属書ハ廃止セザルヲ以テ其ノ担保ニ関スル限り何等支障ナシト雖海牙協定ノ賠償制度ノ終止ニ依リ其ノ支払機構ニ多少変更ヲ加フル要アルベク又「ヤング」公債ニ関シテハ其ノ支払資源ノ一部タル無条件年金及其ノ副担保タル賠償税ノ廃止ニ依リ担保ニモ変更ヲ來スノミナラズ海牙協定ノ賠償制度ノ終止ニ依リ支払機構ニ少カラズ変更ヲ加フル要アルベキ所之ガ細目ノ立案決定ニハ相當時日ヲ要スベキヲ以テ本協定ニ於テハ細目ニ入ラズ之ヲ独逸政府ト兩公債ノ受託者又ハ受託者ノ財務代理人タル国際決済銀行トノ取極ニ委ネタル次第ナリ而シテ此ノ点ニ付テハ「ドウズ」案ノ廃止ニ当リ「ドウズ」公債ノ担保ニ關シ特別ノ取極ヲ為シタル先例モアリ（海牙協定附属書第十一）兩公債所持人ノ権利及兩公債ノ信用ヲ害スルコトナク適當ノ取極ヲ為スコト困難ニ非ザルベシ

## 第八条

「本協定ガ効力ヲ發生スルトキハ本協定ハ国際決済銀行ヲシテ関係条項ヲ適用セシムル目的ヲ以テ仏蘭西共和国政府ニ依リ該銀行ニ通告セラルベシ又該政府ハ該銀行ニ対シ其ノ定款ノ目的ノ為ニ「新案」ガ効力ヲ有セザルコトヲ通報スベシ」

(説明)

(イ)本協定中ニ独逸政府ノ債券ニ関スル規定（第一条）独逸鉄道会社ノ仮受領證返還ニ関スル規定（第四条）独逸政府及独逸鉄道会社ノ債務證書返還ニ関スル規定（第五条）「ドウズ」公債及「ヤング」公債ニ関スル規定（第七条）等国際決済銀行ノ協力ヲ要スル事項アルヲ以テ本協定ノ効力發生ニ當リ之ヲ通告シ同銀行ヲシテ関係条項ヲ適用実施セシメントス

ルモノナリ（本条前段）

(d) 本協定ニ依リ「新案」ノ賠償制度及支払債務ヲ終止セシムルヲ以テ國際決済銀行ノ定款ノ目的ノ為ニモ「新案」ハ全体トシテ其ノ効力ヲ有セザルコト明カニシテ之ヲ國際決済銀行ニ通報セシムルモノナル所（本条後段）茲ニハ單ニ「新案」ト謂フモ右ハ新案全部一体トシテ効力ヲ失フノ意味ニ非ズ國際決済銀行ノ定款ノ目的ノ為ニモ賠償制度及独逸ノ支払債務ノ関スル限り其ノ効力ヲ有セザルニ至ルモノト解スルヲ適當トスベシ

(e) 仏国政府ヨリ通告又ハ通報セシムルコトトセルハ批准ノ寄託ヲ仏国政府ニ為スコトトセルニ依ル

## 第九条

「本協定ノ解釈又ハ適用ニ關スル本協定署名國政府間若シクハ此等政府ノ一又ハ一以上ト國際決済銀行トノ間ノ紛議ハ独逸国トノ「ヘーグ」協定第十五条ニ依リ設立セラレタル仲裁裁判所ニ附託スベシ該協定ノ右条文及附屬第十二条ノ関係条項ハ此ノ目的ノ為ニ適用セラルベシ」

（説明）

海牙協定第十五条ニ規定セラルル仲裁裁判所ハ同協定ニ關スル紛議ヲ裁判スルモノナリ本協定ニ關スル紛議ニ適用スル裁判所ハ海牙協定第十五条ニ依リ設置セラレタルト同一ノ仲裁裁判所ナルガ本協定ニ依リ設置セラルルモノニテ海牙協定ノ規定ガ之ニ準用セラレ其ノ儘適用セラルルモノニ非ス是 relevant 又ハ appropriates トアル所以ニシテ此点ハ特ニ独逸側ノ主張セル点ナリ

## 第十条

「本協定ハ英吉利語及仏蘭西語ノ本文ヲ以テ共ニ正文トシ批准セラルベシ批准書ハ「パリ」ニ於テ寄託セラルベシ「ヨーロッパ」以外ノ地ニ在ル政府ハ「パリ」ニ於ケル自国外交代表者ニ依リ仏蘭西共和国政府ニ對シ单ニ其ノ批准ヲ了シタル旨ヲ通報スルコトヲ得ベシ此ノ場合ニ於テハ成ル可ク速ニ批准書ヲ送付スルコトヲ要ス

（説明）  
本協定ハ独逸国、白耳義国、仏蘭西国、「グレーート、ブリテン」及北部「アイルランド」国、伊太利国及日本國ノ政府ニ依リ批准セラルルヤ其ノ日迄ニ批准書ガ寄託セラレ又ハ批准ガ通報セラレタル政府間ニ於テ直ニ効力ヲ發生スベシ本協定ハ其ノ他ノ各署名國政府ニ對シテハ批准ノ通報又ハ批准書ノ寄託ノ日ニ於テ効力ヲ發生スベシ  
仏蘭西国政府ハ總テノ署名國政府及國際決済銀行ニ對シ各批准ノ寄託調書ノ認證謄本及各通報ノ認證謄本ヲ送付スベシ」

（説明）

## 第十一条

「本協定ガ第十条ニ從ヒ効力ヲ發生スル迄ハ千九百三十年一月二十日「ヘーグ」ニ於テ署名セラレタル独逸国ニ關スル協定ノ署名國ハ何時タリトモ之ニ署名スルコトヲ得

右期日以後ハ該政府ハ仏蘭西共和国政府ニ對スル通告ニ依リ本協定ニ加入スルコトヲ得仏蘭西共和国政府ハ他ノ締約國政府及國際決済銀行ニ對シ該通告ノ認證謄本ヲ送付スベシ此ノ場合ニ於テ協定ハ當該政府ニ對シテハ其ノ加入ノ日ヨリ効力ヲ發生スベシ」

（説明）

本協定ハ別項ニモ詳細説明ノ通會議終結ノ一両日前ニ至リ躁急ノ間ニ專ラ招請國間ニ立案セラレ被招請國ヲシテ之ガ審議ニ与カラシメズ署名ノ前日ニ協定案ヲ交付シタル如キ事情ニテ被招請國中ニハ之ガ為將又其ノ内政上ノ理由等ニ依リ直ニ本協定ニ署名シ得ザル國モアリタルヲ以テ本規定ヲ設ケタルモノナリ而シテ七月九日署名シタルハ日、英、仏、獨、伊、白、濠洲、加奈陀、新西蘭、南阿、印度及波蘭ノ諸國代表ノミナリ

（末文）

「千九百三十二年七月九日「ローザンヌ」ニ於テ本書一通ヲ作成シ之ヲ仏蘭西共和国政府ノ記録ニ寄託保存ス同政府ハ其

ノ認證膳本ヲ各署名国政府ニ送付スベシ

右ニ関シテハ説明ノ要ナカルベシ

(署名省略)

## 第二「独逸国ニ関スル経過措置」

(前文)

「本日独逸国ト締結セル協定ノ署名国政府ノ正当ノ委任ヲ受ケタル代表者ハ左ノ如ク同意セリ  
第一条

千九百三十二年六月十六日ノ声明ノ効果ハ千九百三十年一月二十日ノ「ヘーグ」協定千九百三十一年八月十一日ノ「ロン  
ドン」議定書及千九百三十二年六月六日ノ「ベルリン」議定書ノ下ニ独逸ノ為スベキ支払ニ関シ本日以後延長セラルベシ  
此ノ延長ハ「ローザンヌ」ニ於テ本日署名セラレタル独逸国トノ協定ノ効力發生ニ依リ又ハ其ノ効力發生セザルトキハ下  
記独逸国、白耳義国、聯合王国、仏蘭西國、伊太利國及日本國ノ政府ノ一ガ関係国政府ニ対シテ其ノ批准セズト決定シタ  
ル旨ヲ通告スルコトニ依リ終結スベシ」

(説明)

六月十六日附声明ノ趣旨ハ一方ニ於テ独逸ノ支払猶豫ト謂フ事實問題アル所他方右事實ニ直面シテ債権国ガ支払履行ニ  
関スル權利ヲ留保スルニアリテ本声明ハ事實上ノ支払猶豫ヲ声明スルモノナルベキモ海牙協定ヲ変更スルモノニハ非ズ  
従テ本協定ガ実施セラルレバ右權利ノ留保ガ解カレテ客年七月一日以来ノ賠償總決算ガ行ハルル次第ニテ若シ本協定ガ  
実施セラレザルトキハ新案ノ建前ニ還ルモノナリ唯此ノ場合實際上ハ七月八日夜ノ第四回總会ニ於テ独逸代表ノ質問ニ  
対シ議長ガ答へタル如ク關係国間ノ會議ヲ開キテ何等ノ措置ヲ決スル筈ナリ兎ニ角本声明ハ新案ガ廃止サレザル建前ニ

テ本協定ノ実施ヲ見ル迄ハ事實上ノ独逸ノ支払猶豫が繼續スルコトヲ明ニスルニ過ギズ今回ノ對獨協定ノ批准ニ付テハ  
英、仏、白、伊四国間ニ對米戰債ニ關連シ所謂紳士的申合ナルモノアリテ對米戰債問題ガ満足ニ解決スル迄ハ批准セズ  
ト謂フコトニナリ居リ日本ハ右紳士的申合ニハ加入シ居ラザルモ德義上ハ我方批准ノ際同申合ヲ考慮ニ入ルル必要アリ  
ト謂フベシ

六月十六日ノ声明ニ付テハ「アド、レフエレンダム」ニテ署名方訓令ニ接シ居リタル所獨逸ニ關スル経過措置ハ右声明  
ノ延長トモ謂フベク同趣旨ノモノナルニ付之ガ署名ニ當リテハ同様「アド、レフエレンダム」ヲ附シ置キタリ

### 第二条

「本日署名セラレタル独逸国トノ協定第七条第一項ニ記載セラルル取極ヲ該協定実施前ニ準備シ得ル為ニ独逸国政府ト国  
際決済銀行トノ間ニ遲滯ナク商議ヲ開始スベシ」

(説明)

独逸国トノ協定第七条第二項ハ該協定ニ依リ海牙協定ノ賠償制度ヲ終止シ「新案」ノ一部ヲ廢止スル為必要トナルベキ  
「ドウズ」公債及「ヤング」公債ノ支払機構ニ關スル調整ヲ獨逸政府ト両公債ノ受託者又ハ財務代理人タル國際決済銀  
行間ノ取極ニ委ネタルモノニシテ両公債所持人ノ權利ヲ確保シ両公債ノ信用ヲ維持スル為ニハ該協定ノ実施前ニ其ノ取  
極ヲ完了スルコトヲ要スルヲ以テ本規定ヲ設ケタルモノナリ

### 第三条

「履行中ノ契約及工事ノ實物引渡ノ方法ニ依ル遂行ニ關シテハ斯ル契約及工事ニ關シ望マシキ提案ヲ立案セシムル為獨逸  
国政府及關係国政府ノ代表者ヨリ成ル委員会ヲ任命スベシ」

(説明)

千九百三十一年七月一日以前即「フーヴァー・モラトリアム」適用前ニ其ノ支払資金ヲ超過シテ承認セラレタル實物引

渡契約又ハ工事ニシテ千九百三十一年八月十一日附倫敦議定書ニ基キ履行ヲ一時停止シ居ルモノアル所今後独逸ヨリ支払ナキコト明カトナリタルヲ以テ其ノ契約又ハ工事ヲ如何ニスベキヤノ問題アリ若シ之ヲ其ノ儘ト為シ置ク時ハ單ニ独逸契約者ノミナラズ債權國側ノ契約者ニモ不利不便尠カラザルヲ以テ之ニ対スル措置ヲ考究セシムル為委員会ヲ任命スルコトトナリタル次第ナリ

(署名省略)

### 第三「独逸国以外ノ賠償ニ関スル決議」

「下記署名国政府ハ

六月十六日五招請債權國ニ依リ署名セラレタル声明ノ精神ニ依リ行動シ各関係国政府ヨリ一名宛ノ代表者ヲ以テ組織セラレ「独逸國以外ノ賠償」トシテ知ラル問題ノ全体並ニ之ニ関聯スル問題ヲ一般的の解決ノ機構内ニ於テ考慮審議スベキ任務ヲ有スベキ委員会ヲ任命セシコトヲ會議ニ勧告スルコトニ合意シ

上記ノ委員会ヲシテ其任務ヲ善ク遂行セシムル為何等主義上ノ問題並ニ将来到達セラルコトアリ得ベキ解決ヲ妨グルコトナク上記諸問題ニ関聯スル支払ノ履行ヲ夫レ以前ニ解決ヲ見ザル限り十二月十五日迄留保セントスル意見ナリ  
一千九百三十二年七月七日「ローザンヌ」ニ於テ署名ス

(署名省略)

(説明)

(イ) 本決議成立ノ経過等ニ付テハ第二章第五節ニ詳述シタル通リナルガ「ローザンヌ」會議後任命セラレ独逸以外ノ賠償問題ヲ審議スベキ委員会ノ任務ニ付テハ本決議採択ノ際多少ノ議論ヲ見タル所ニテ羅馬尼、「ユーポースラヴィア」等ノ代表者ハ若シ本件賠償ノ帳消ヲ将来決定スルガ如キ場合ニハ債權國側ニ対スル補償「(コンベンセイション)」ノ問題ヲ審

第三項ノ明カニスル所ナリ

(ハ) 決議第三項ノ本件賠償ニ関聯スル支払ノ履行留保ニ付羅馬尼「ユーポースラヴィア」其ノ他ノ代表者ガ留保ヲ附シテ受諾セルコトハ詳細第二章第五節ニ述べタル通りナリ

(二) 我方トシテハ本件賠償ニ關スル利害關係ハ独逸賠償ノ夫レニ比シ頗ル少ナルモノナルガ六月十六日附声明署名ニ關スル訓令ノ趣旨ニモ鑑ミ、應本決議ヲ「アド、レフエレンダム」ニテ贊成スル旨ヲ明ニシ之ヲ右羅馬尼其ノ他ノ留保ト共ニ議事録ニ止メシメタリ仍テ署名ニ際シテハ六月十六日附声明ト異リ「アド、レフエレンダム」ヲ附セザリキ(附屬書第二五号参照)

(三) 本件委員会ノ議長ガ白国人「チュニス」ニ決定シタルコトハ別記ノ通りナルガ右委員会ガ報告採択ノ際之ヲ各関係国ニ送付スル形式ニ付テハ會議終結ノ際日、英、仏、伊、白等間ニ委員会ヨリ直接送付スルコトトスル方可ナルベシトノ話合ヲ為シタリ

### 第四「中部及東部「ヨーロッパ」ニ関スル決議」

「中部及東部「ヨーロッパ」ノ財政的及經濟的復興ヲ達成スル為會議ハ中部及東部「ヨーロッパ」諸国ノ回復ニ必要ナル措置特ニ左記措置ニ關スル提案ヲ「ヨーロッパ」聯合研究委員会ニ對シ其ノ次回会合ノ際提出スル義務ヲ有スベキ委員会

ヲ任命スルコトヲ決定セリ

(イ)此等ノ國家ノ現在ノ資金移動ノ困難ヲ除去シ且必要ナル防護条件ノ下ニ現行行為替管理制度ノ漸進的廃止ヲ可能ナラシムル措置

(ロ)此等ノ國家間及右ト他ノ國家トノ間ニ於ケル貿易ヲ復活シ且穀物ノ安価ニ依リ中部及東部「ヨーロッパ」ノ農業国ニ惹起セラレタル困難ヲ除去スル措置但「第三國」ノ権利ハ留保セラレ居ルモノト了解ス  
依テ會議ハ独逸国、奧太利國、白耳義國、「ブルガリア」國、仏蘭西國、聯合王國、希臘國、匈牙利國、伊太利國、和蘭國、「ボーランド」國、「ルーマニア」國、瑞西國、「チエコスロヴァキア」國及「ユーゴースラヴィア」國政府ニ対シ各上記ノ委員会ニ一名以下ノ代表者ヲ任命センコトヲ要請ス  
會議議長（署名）「ジエー・ラムゼー・マクドナルド」  
事務總長（署名）「エム・ピー・エー・ハンケー」

「ローザンヌ」ニ於テ 千九百三十二年七月九日

（説明）

(イ)当初「ローザンヌ」會議ノ議題ヲ定ムルニ当リ仏國ハ單ニ賠償問題ノミナラズ一般經濟問題殊ニ中部及東部歐洲ノ復興問題ヲモ審議スベシトナシタルニ対シ英國ハ中部及東部歐洲一般ニ亘リ救濟復興ヲ圖ル如キハ實際上ノ効果ヲ収ムルコト困難ニシテ此ノ際ハ火急ノ壞國救濟問題ヲ處理スベシトナシ一致セズ結局壞國救濟問題ハ「ローザンヌ」會議前既ニ國際聯盟ニ於テ委員会ヲ任命シ審議立案セシムルコトナリ右委員会ハ「ローザンヌ」會議前ヨリ繼續会合シ居リタルガ仏國ノ主張ニ依リ中部及東部歐洲ノ救濟復興問題ハ一般經濟問題ト共ニ「ローザンヌ」會議ニ於ケル審議事項ト認メラレタル關係上茲ニ本決議ヲ為スニ至レルモノナリ

(ロ)而シテ本問題ハ複雜ニシテ直ニ協定ニ到達スルコト困難ト認メラレタルヲ以テ委員会ヲ設ケテ審議立案セシムルコトト

シ既ニ國際聯盟歐洲聯合委員会ニ於テ同問題ヲ取扱ヒ居ル關係上右歐洲聯合委員会ニ提案セシムルコトトセルモノナリ  
(ハ)委員会ノ任命ハ一般的且概括的ナルモ同時ニ之等諸國ノ現下ノ難問タル外貨払ノ困難救濟為替管理漸進的廃止及貿易復活等ノ手段及穀物價格問題ニ言及セリ而シテ穀物價格問題ハ商務大臣委員会ニ於テ仏國代表ヨリ特ニ提起セル次第ハ第二章第六節第二項所述ノ如シ

(二)委員会ニハ「ローザンヌ」會議參加國ノ外瑞西、和蘭等ノ代表者ヲ參加セシムルコトトセルハ右兩國ハ中部及東部歐洲ニ対スル金融上ノ利害關係アルニ因リ又本邦ハ利害關係ナク其ノ必要ナシト認メ參加ヲ控ヘタリ

## 第五「世界經濟財政會議ニ關スル決議」

（第一項）

「會議ハ既ニ取扱ハレタル問題ノ外ニ更ニ「現下世界恐慌ノ原由ニシテ且之ヲ長延カスベキ他ノ經濟上及財政上ノ困難ヲ解決スルニ必要ナル手段」ヲ決定スルコトヲ企図セリ」

（説明）

「ローザンヌ」會議ノ議題中ニハ賠償問題ノミナラズ一般經濟財政問題ヲモ加フルニ至レル次第八會議開催ニ至ル経過ノ章下ニ述べタル通ナルガ右ハ主トシテ仏國側ノ主張ニシテ仏國側ハ世界不況打破景氣回復ニハ賠償問題ノミヲ解決スルヲ以テハ充分ニ非ズトノ主張ヲ為シ來リタルニ依ルモノナルガ右ハ又同時ニ之ニ依リ米國政府代表者ヲ「ローザンヌ」會議ニ参加セシメムトノ意図ニ出デタル点モアリタル處米國政府ハ賠償問題ヲ論議スル「ローザンヌ」會議ニハ參加セズ仮令「ローザンヌ」會議ヲ二階梯ニ分チ第二ノ階梯ニ於テハ賠償問題ニハ触レズ一般經濟及財政問題ノミヲ取扱フトスルモ「ローザンヌ」會議ニハ參加セズ然シ倫敦ニ於テ開カルベキ經濟會議ニ參加スルノ意アル旨發表シタル為此ノ一般經濟財政問題ノ論議ハ米國ニ參加スベキ會議迄之ヲ延バスノ外ナキ事態トナリタルガ而モ「ローザンヌ」會議トシテモ此ノ一般經濟

及財政問題ヲ一応取扱ヒタルコトヲ明ニセザルベカラザル関係上茲ニ本問題ニ関スル決議ヲ掲グルニ至レル次第ナリ

(第二項)

「此ノ種ノ主要問題ニシテ審議ヲ要スルモノ左ノ如シ

(イ) 財政問題

通貨及信用政策

為替上ノ困難

物価水準

資本ノ移動

(ロ) 経済問題

生産及交易状況改善特ニ左記ニ留意スルコト

関税政策

輸出入ノ禁止及制限「コンタンジヤン」其ノ他ノ貿易障害

生産者間ノ協定」

(第三項)

「會議ハ特ニ通貨ヲ健全ナル基礎ニ回復シ且之ニ依り為替管理手段廢止及對外送金困難ノ排除ヲ可能ナラシムルノ必要ヲ強調ス尚會議ハ國際貿易ノ復活ヲ促進スルノ真ニ必要ナルコトヲ痛感セリ」

(説明)

(イ) 経済及財政會議ノ審議事項ノ細目ヲ掲ゲザリシハ追テ開カルベキ會議ノ事業ヲ阻害セザル為及米國ニ於テハ會議ノ審議事項ニ付種々論議アルニ鑑ミ極メテ抽象的及概括的ト為スヲ適当ト認メタルニ依ル

(第四項)

「上記目的ヲ達成センガ為ニ  
會議ハ便宜ナル時日ニ且決定セラルベキ場所ニ於テ（必シモ「ジュネーヴ」タルヲ要セズ）通貨及經濟問題ニ關スル會議キ（第二章第六節参照）

(第五項)

「上記目的ヲ達成センガ為ニ

會議ハ便宜ナル時日ニ且決定セラルベキ場所ニ於テ（必シモ「ジュネーヴ」タルヲ要セズ）通貨及經濟問題ニ關スル會議ヲ招集センコトヲ國際聯盟ニ勧請スルコトニ決定セリ」

(説明)

(イ) 會議主催者ヲ國際聯盟トセル次第ハ第一章第六節ノ説明ニ於テ述べタル通り米國政府ノ希望モアリタルモノナルガ尚會議ハ英國政府主催ノ下ニ開カルルコトト豫想サレタルニ拘ラズ英國側ニ於テ此ノ考案ヲ放棄セルハ此ノ會議ノ成果疑ハシク英國トシテハ責任ヲトルコト好マザリシニ依ルト聯盟側ヨリ會議ノ主催者トナルコトヲ強ク希望セルトニ依ルモノナル由英國大藏省専門家ヨリ内話アリタリ

(ロ) 時日及場所ノ決定ハ國際聯盟ニ委ネタルガ場所ニ付テハ壽府ヲ希望セザルモノ多キガ為必シモ壽府タルコトヲ要セザルコトヲ明記セルモノナリ

(第六項以下)

「會議ハ此ノ複雜ニシテ密接ナル相互關係アル問題ノ準備的審議ヲ一ノ權威アル専門家委員会ニ委ヌルコトニ決定セリ  
依テ會議ハ独逸国、白耳義國、仏蘭西國、聯合王國、伊太利國及日本國ノ政府ニ對シ各委員會ノ委員二名、一名ハ經濟問題處理ノ資格アルモノ他ノ一名ハ財政問題處理ノ資格アルモノヲ任命センコトヲ勧請ス委員會ハ議題ノ二部門ニ從ヒニ一分科会ニ分タルベシ一分科会ハ勿論其ノ事業ノ必要ナル協力ヲ確保スル目的ヲ以テ必要ナルトキハ其ノ裁量ニ依リ共同会合ヲ開クコトヲ得ベシ會議ハ更ニ亞米利加合衆國政府ニ對シ上記諸國政府ト同一ノ条件ニ於テ委員會ニ代表者ヲ送ランコト

ヲ勧請スルコトニ決定セリ

最後ニ會議ハ國際聯盟理事会ニ對シ財政問題ニ付資格アル者二名及經濟問題ニ付資格アル者二名ヲ指名センコトヲ勧請ス此等ノモノハ上記諸国以外ノ国籍ヲ有スルモノタルコト望マシ此等ノモノハ國際聯盟事務局經濟部及財政部長ノ援助ヲ求ムルコトヲ得ベシ會議ハ同様國際決済銀行ノ協力ヲ求メ同銀行ニ對シ財政問題ノ分科会ノ事業ニ参加スルモノ二名ヲ指名センコトヲ勧請スルコトニ決定セリ

會議議長（署名）「ジエー・ラムゼー・マクドナルド」

事務總長（署名）「エム・ゼー・エー・ハンケー」

「ローザンヌ」ニ於テ千九百三十二年七月九日

（説明）

(イ) 「ローザンヌ」會議ト追テ國際聯盟ニ依リ招集セラルベキ經濟財政會議トノ関係ヲ如何ニスベキヤニ付テハ機微ノ問題アリ即チ当初ハ「ローザンヌ」會議ニ於テ論議スベシトノ意向モアリタルガ結局一應審議ノ後問題ヲ國際聯盟主催ノ會議ニ引継グモノナル處既ニ國際聯盟ニ引継グ以上實際上ヨリ云ヘバ其ノ準備委員会其ノ他ノ準備ノ如キハ總テ聯盟ニ委ヌルコトヲ適當トスベキニ拘ラズ前記ノ經緯ニ依リ準備委員会ノ組織其ノ他ハ「ローザンヌ」會議ニ於テ一應決定スルコトトナリタル次第ナリ

(ロ) 二個ノ準備委員会ヲ設クベシトノ提案アリタルモ一準備委員会ヲ設ケ之ヲ二分科会ニ分ツコトトセル次第ハ第二章第六節ニ説明セル通リナリ

(ハ) 國際聯盟委員会ヨリ六名國際決済銀行ヨリ二名指名セシムルコトトナレル次第ハ第二章第六節第二項ニ説明セル通リナリ

(二) 國際聯盟主催ノ世界經濟財政會議參加國ノ範囲ニ付テハ何等決定スル処ナク從テ準備委員会及國際聯盟等ニ依リ決定セリ

ラルルコトナルベシ

(イ) 尚本決議ハ別ニ各國代表者之ニ署名セズ單ニ會議ノ決議トシテ議長及事務總長之ニ署名セリ

第二節 独逸国トノ協定批准ニ關スル紳士的申合

〔議事錄

「ローザンヌ」協定ハ協定所定ノ通批准セラル迄ハ終極的効力ヲ發生セザルベシ本議事錄ニ頭文字ヲ附シタル債権國政府ノ關スル限り批准ハ右政府ト右政府自身ノ債権者トノ間ニ満足ナル取極ノ成立スル迄ハ實行セラレザルベシ右政府ガ此ノ地位ヲ各自ノ議会ニ説明スルハ差支ナカルベキモ独逸国トノ協定ノ本文ニハ之ニ付何等特ニ言及セサルベシ後日若シ右政府自身ノ債務ニ關シ満足ナル取極成立スルトキハ該債権國政府ハ批准スベク独逸国トノ協定ハ完全ナル効力ヲ發生スベシ然レドモ若シスル取極成立スルニ至ラザルトキハ独逸国トノ協定ハ批准セラレザルベク茲ニ新ナル事態ヲ生ジ関係國政府ハ如何ニ処置スベキヤニ付共ニ協議セザルベカラズ此ノ場合ニハ總テノ政府間ニ於ケル法律的地位ハ「フーヴァー・モラトリアム」以前ニ存在シタル所ニ復帰スベシ

独逸国政府ハ此ノ取極ヲ通告セラルベシ

千九百三十二年七月二日

白耳義國ノ為ニ

「ジエー・アール」

「グレーント、ブリテン」國ノ為ニ

「エヌ・シー」

仏蘭西國ノ為ニ

「イー・エーチ」

伊太利國ノ為ニ

「エー・エム」

—

(説明)

(イ) 白国「ランキン」、仏国「エリオ」、英國「チエンバーレーン」、伊国「モスコニ」ノ頭文字ヲ附シタル本議事録ハ所謂紳士的申合トシテ伝ヘラルモノニシテ其ノ趣旨ハ英、仏、白、伊四国政府ハ其ノ戦債債権国政府トノ間ニ満足ナル取極ニ到達スルトキハ独逸国トノ協定ヲ批准スベク該協定ハ充分ナル効力ヲ發生スベキモ若シ満足ナル取極ニ到達セザルトキハ独逸国トノ協定ヲ批准セズ此ノ場合ニハ再ビ「フーザー・モラトリアム」前即一九三一年七月前ノ法律的地位ニ立チ戾リ各國間ニ協議スベシト為スニ在リ

(ロ) 斯ル取極ヲ為スニ至リタル事情ハ第二章第四節第六項ニ於テ説明セル通英、仏、白、伊等ハ賠償ト戦債トノ間ニ関聯ヲ認メ減額ハ当然他方ニ於テ其各自國ノ戦債ノ減額ヲ伴フヲ要ストスルノ<sup>事</sup>採リタルガ「ローザンヌ」會議ニハ米国政府ノ參加ヲ見ズ米国政府ハ賠償問題ハ歐洲諸國ノ間ニ於テ先づ協議シ提案スベキモノナリトノ立場ヲ持シ居従テ豫メ歐洲諸國側ニ於テ一応協定ニ到達スルノ要アリタルモ右ノ協定乃至決定ハ總テ今後ノ米国ノ態度如何ニ依ル處「ローザンヌ」會議ニ於テハ独逸代表ハ其ノ國際決済銀行ニ引渡スベキ債券額ハ独逸トシテハ最終打切ノ支払ニシテ且其ノ最高支払限度タルコトヲ条件トスルニアラザレバ受諾スルコト能ハズト強硬ニ主張セルニ対シ債權国トシテハ各自ノ戦債ニ付満足ナル取極ヲ得ルノ保障ナキニ拘ラズ右ノ独逸ノ主張ヲ受諾スルハ甚シク危険ナルヲ以テ此ノ申合ヲ為スニ至レル次第ナリ

(ハ) 独逸国トノ協定ニ此ノ申合ノ趣旨ヲ挿入セズ単ニ議事録ノ形トセルハ若シ之ヲ挿入スルトキハ独逸自身モ之ヲ認メタルコトトナルベク独逸ガ独逸国トノ協定ノ債券額ヲ以テ最終打切支払トナスベシト主張シタルコトト矛盾スルニ至ルノミナラズ之ヲ條約ニ挿入スルトキハ米国トノ關係ニ於テモ面白カラザル結果ヲ來スベキヲ以テ単ニ債權国間ノ申合ニ止メタリ然レドモ一面独逸政府ヲシテ此ノ申合ヲ全然知ラシメザルコトトスルトキハ他日事態ノ紛糾ヲ生ズベク依テ独逸政府ニ之ヲ通告スルコトトセルモノナリ（本節二及三参照）

而シテ当初原案ニ於テハ本邦モ之ニ参加スルコトトナリ居リタルモ本邦ハ戦債ヲ有セザル特殊ノ立場ニ在ルヲ以テ参加ヲ差控ヘタリ

(二) 尚此ノ紳士的申合及「独逸国ニ関スル経過措置」第一条第二項ニ關シテハ七月八日夜ノ総会ニ於テ独逸代表ノ問ニ対シ議長ハ若シ一国ガ批准不可能ナリトノ決定ヲ為シタル場合ニハ行動ヲ採ル前ニ會議ヲ開クベキ旨答ヘタリ（本節ノ四参照）

(ホ) 此ノ紳士的申合ニ付テハ直ニ新聞紙ノ報道スル所トナリ種々ノ憶測ヲ生ジ會議直後英國議会ニ於テ問題トナリ英國政府ハ仏国政府ト共ニ其ノ内容ヲ發表セリ本申合ハ斯ノ如キ事態ヲ予見シテ右申合自体ニ於テ各自國議会ニ報告スルノ自由ヲ認メ居リタル次第ナリ尤モ英國政府ハ議員ノ要求ニ応ジ更ニ一步ヲ進メ関係政府ノ同意ヲ得テ右申合ノ外之ガ關係文書ヲモ發表セリ本節及第三節ニ説述スル文書即はナリ

二、独逸宰相宛紳士的申合通告書翰

「 「ローザンヌ」ニ於テ千九百三十二年七月九日

以書翰啓上致候陳者七月二日予等ノ到達セル取極ヲ記載スル議事録ノ写ヲ閣下ニ通報スル為茲ニ送付スルハ予等ノ義務ナリト思考致候此段申進旁予等ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

白耳義国代表

「グレート・ブリテン」国代表

仏蘭西国代表

伊太利国代表

「ジョン・サイモン」  
「エドアール・エリオ」

「アントニオ・モスコニ」

独逸代表部

三、独逸宰相ヨリ英国外相ニ対スル書翰

「ローザンヌ」ニ於テ一千九百三十二年七月九日

以書翰啓上致候陳者予ハ本月「ローザンヌ」協定署名後閣下ノ予ニ伝達セラレタル閣下及白耳義國、仏蘭西國及伊太利國代表部首席者ノ署名セル通告ヲ了承致候

閣下ノ通告ニ添付セラレタル本月二日附四代表部ノ取極ハ「ローザンヌ」協定ガ万一批准セラレザル場合ニ闕シ從テ本月八日ノ六招請國代表部首席者間ノ討議ノ主題タリシモノト同一問題ニ闕スルモノニ有之候

右討議ニ於テ到達セラレタル諒解ニ從ヒ予ハ同夜會議ノ公開席上ニ於テ問題ノ点ニ闕シ議長ニ質問ヲ為シ之ニ對シ議長ハ招請債權國ノ名ニ於テ直ニ答弁セラレ候

事情右ノ如クナルヲ以テ予ハ事態ハ独逸國ノ闕スル限り會議議長ニ對スル予ノ質問及議長ノ答弁ニ依リ有權的ニ説明セラレタリトノ推測ノ下ニ行動スルヲ正当ナリト思考致候此段申進旁予ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候

「ファン・ペーベン」

(説明)

(イ)七月八日六招請國代表部首席者間ノ討議ニ於テ到達セラレタル諒解云々ハ同夜第四回總會議直前首席代表者議長ノ室ニ会合シテ本件質問応答ノ手続ニ闕シ打合ヲ為シタルコトヲ意味スルモノナリ

(ロ)同夕公開會議ノ席上ノ質問及答弁トハ後記四第四回總會議事錄ノ抜萃ヲ意味スルモノナリ

#### 四、七月八日第四回總會議事錄抜萃

「独逸國代表「ファン・ペーベン」(會議議長ニ對シ)

予ハ第二附屬書第一条第二項ニ闕シ一ノ質問ヲ為サント欲ス關係六國ノ一ガ協定ヲ批准セザル場合(予ハ斯ノ如キハ有リ得ベカラズト認ム)ニハ如何ナル手續ヲ採ラントスルヤ予ハ關係國政府が發生セル事態ヲ考量スル為ニ能フ限り速ニ參集スルコト必要ナリト想察スルモノナルガ右ハ會議ノ意向ナリトノ確言ヲ得ンコトヲ希望ス

ハ會議ヲ開クベキコト之レナリ」

(説明)

紳士的申合及独逸國ニ闕スル経過措置ニ闕スル説明参照

#### 第三節 戰債ニ闕スル文書ノ説明

一、仏國及伊國ノ對英戰債ニ闕シ英國藏相ヨリ仏伊両國藏相宛送付セル書翰

「ローザンヌ」ニ於テ

千九百三十二年七月八日

以書翰啓上致候陳者聯合王國陛下ノ政府ハ戰債及賠償ノ總括的帳消ノ一部トシテ仏蘭西國(伊太利國)ノ戰債ヲ帳消スルコトヲ得タランニハ甚ダ欣幸トシタル所ナルベカリシモ現情<sup>(状況)</sup>ニ於テハ現存戰債支払取極ヲ変更スル何等確定的約束ヲ為スヲ得ザルコトヲ遺憾トスルモノニ有之候

然レドモ聯合王國陛下ノ政府ハ六月十六日ノ声明ニ規定セラレタル支払停止ハ「ローザンヌ」協定ノ効力發生又ハ其ノ批准セラレザルコトニ決定セラル迄戰債支払取極及千九百二十九年八月三十日ノ「ヘーグ」協定第一附屬書ニ依リ為サルベキ年金ニ適用セラルコトニ同意致候

「ローザンヌ」協定ノ批准セラレザル場合ニハ關係國政府間ノ法律的地位ハ千九百三十年一月二十日ノ「ヘーグ」協定及戰債支払取極ノ下ニ存在シタルモノニ復帰スペク此ノ場合ニハ英吉利國及仏蘭西國(伊太利國)政府ハ生ジタル事實上

ノ事態ヲ共ニ審議セザルベカラザルモノニ候

此段申進旁予ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

「エヌ・チエンバーレン」

「エルマン・マルタン」閣下  
「アントニオ・モスコニ」博士閣下

（説明）

(イ) 六月十六日日、英、仏、白、伊五国ニ依リ署名セラレタル支払履行留保ノ声明ハ戰債及賠償ノ兩者ニ適用サルルモノナル處七月九日署名サレタル独逸國ニ関スル経過措置第一条ニ於テハ前記声明ノ効果ヲ独逸賠償ニ関シ適用延長スト云ヒ又独逸以外ノ賠償ニ付テハ會議書類第三ノ如ク本年十二月十五日迄支払履行留保ヲ為スコトナリタルニ止マリ戰債ニ付テハ如何ニスベキヤノ点ハ何等決定シ居ラザルガ本節一及二ニ示ス書翰及声明ハ此ノ点ニ関シ極メテ重要ナル意味ヲ有スルモノナリ即チ茲ニ掲グル英國藏相ヨリ仏伊二國藏相ニ対スル書翰ハ仏伊兩國ガ戰債取極及一九二九年八月三十一日附海牙協定第一附屬書ノ下ニ英國ニ対シテ為スベキ支払ニ關シ独逸國ニ關スル経過措置第一条ノ規定ト同様「ローザンヌ」協定ノ効力発生迄又ハ其ノ批准セラレザルコトニ決定セラル迄支払履行留保ヲ認メントスルモノナリ又後記二ノ声明ハ英、仏、伊三国ニ対シ被招請國ノ為スベキ戰債支払ニ付同様支払履行留保ヲ認メントスルモノナリ

(ロ) 本書翰ノ初メニ於テ戰債及賠償ノ全般的取消ヲ為シ得タランニハ欣幸トスルモノ現情ニ於テハ現存戰債取極ヲ変更スル確定的約束ヲ為シ得ザルヲ遺憾トスル旨述べ居ル處右ハ米國ノ參加セザル今次會議ニ於テハ英國自身ノ対米戰債ニ關シ確定的約束ヲ得ザルヲ以テ其ノ債務國タル仏伊ニ対シテモ確定的約束ヲ為シ得ザルコトヲ指スモノニシテ此ノ点ニ付テハ幹部會ニ於テ獨逸代表が今次會議ニ於テ決定スベキ獨逸ノ債務總額ハ確定のニシテ今後変更スルコト

ナシトノ条件ノ下ニ於テスルニアラザレハ金額ヲ受諾シ得ズト主張シテ讓ラズ債權國側トシテ之ヲ認容スベキヤ否ヤノ問題ヲ生ジタル際仏伊両國代表ヨリ英國ニ対シ米國ハ兎モ角英國ハ仏伊両國初メ債權國ガ獨逸ニ対シテノ讓歩ヲ仏伊ノ対英戰債ニ關シテモ為サンコトヲ要求セルモ英國代表トシテハ此ノ書翰ニ示ス以上讓歩ハ為スヲ得ズトシ結局之ニ落付キタルモノナリ

(ハ) 本書翰末段ニ於テ「ローザンヌ」協定ノ批准セラレザルコトニ確定スル場合ニハ關係政府間ノ法律的地位ハ一九三〇年一月二十日ノ海牙協定及戰債取極ノ下ニ存シタル法律的地位ニ立戻ルベキコトヲ規定シ居ル處右ハ前節獨逸國トノ協定批准ニ關スル紳士的申合末段ト同様ノ趣旨ニシテ且之ニ対応スルモノナリ

二、七月九日最終總会ニ於ケル被招請國ノ戰債ニ關スル英國代表声明（仏伊両國ノ代表モ同趣旨ノ声明ヲ為セリ）  
「聯合王國陛下ノ政府ノ為ニ被招請國ノ「グレート・ブリテン」國ニ対スル戰債ニ關スル地位ヲ明ニスル為次ノ声明ヲ為サント欲ス「千九百三十二年六月十六日署名セラレタル會議ノ声明ノ効果ハ本日予等ノ署名セントスル獨逸國トノ「ローザンヌ」協定効力発生迄又ハ右協定ヲ批准スルコト能ハザルベシトノ決定が通告セラル迄斯ル戰債ニ關シテ為サルベキ支払ノ停止ヲ包括スル様延長セラル」

（説明）

前記一二関スル説明参照

編注 本付属書の採録は省略した。